

タイ王国
薬物対策地域協力プロジェクト
終了時評価報告書

平成17年3月
(2005年)

独立行政法人 国際協力機構
社会開発部

目 次

序 文
地 図
写 真
略語表

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成及び調査期間	1
1-3 対象プロジェクトの背景と概要	1
1-3-1 プロジェクトの背景	1
1-3-2 プロジェクトの概要	2
第2章 終了時評価の方法	3
2-1 評価の手順	3
2-2 評価用プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDMe) の作成	4
第3章 プロジェクトの実績	6
3-1 投入実績	6
3-2 成 果	7
第4章 評価結果	10
4-1 評価5項目による評価	10
4-1-1 妥当性	10
4-1-2 有効性	11
4-1-3 効率性	12
4-1-4 インパクト	13
4-1-5 自立発展性	15
4-2 効果発現に貢献した要因	16
4-2-1 計画内容に関すること	16
4-2-2 実施プロセスに関すること	16
4-3 問題点及び問題点を惹起した要因	16
4-3-1 計画内容に関すること	16
4-3-2 実施プロセスに関すること	16
4-4 結 論	16
第5章 提言と教訓	18
5-1 提 言	18
5-2 教 訓	18
5-3 その他	19

付属資料

1. 調査日程	23
2. 主要面談者	24
3. ミニッツ（写）	28
4. 当初のPDM（PDMo）	68
5. 評価用のPDM（PDMe）	69
6. プロジェクトの達成状況	70
7. 評価グリッド調査結果表	76
8. 日本側投入実績	83
9. CLMV 側投入実績	92
10. 国際ワークショップ発表資料	94

序 文

インドシナ地域において違法薬物問題は長年にわたる懸案である。これまでタイ王国をはじめとする周辺諸国は薬物問題に対処するための努力を続けてきた。従来型のヘロイン等のケンを原料とするアヘン系薬物の生産は、タイ王国政府の撲滅政策によって大きく減少した。近年ではアンフェタミン系覚せい剤（以下 ATS と表記する）が、国際的なシンジケートを介して大量に密造されており、ATS の乱用者は社会のあらゆる階層に広がり、社会、文化、経済、治安などのあらゆる場面に直接・間接的な負のインパクトを与えている。違法薬物問題は、一国の問題として対処することが困難なため、地域的国際的な取り組みが不可欠となっている。また薬物対策に係る法執行能力を強化するためには薬物分析技術の向上が前提となることが広く認識されている。このため各国における薬物分析技術の向上を実現するべく、タイ王国政府は日本政府に薬物分析技術を高めるための支援を要請した。

これを受けて国際協力事業団（当時）は、2002年6月に実施協議を行い、討議議事録（R/D）の署名を取り交わし、同年6月16日から3年間の予定で「薬物対策地域協力」プロジェクトを開始した。

本プロジェクトでは、タイ及びカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（以下「CLMV 諸国」と表記する）の薬物鑑定官が精度の高い薬物分析をできるようになり、薬物分析の結果に関する情報データベースが整備されることを目標として、薬物分析や情報技術に関する知識、技術の移転や、上位の目標であるより高度な取締能力の獲得に貢献するための法執行分野の指導が行われてきた。

今般、プロジェクト期間の終了を約4か月後に控え、プロジェクトの成果を評価するとともに、今後の協力量針について相手国側と協議するため、2005年2月6日から2月26日まで国際協力機構社会開発部第一グループガバナンス・ジェンダーチームチーム長森本康裕を総括とする終了時評価調査団を現地に派遣した。

本報告書は、同調査団の調査・協議結果を取りまとめたものであり、今後の国際協力活動の進展に広く活用されることを願うものである。

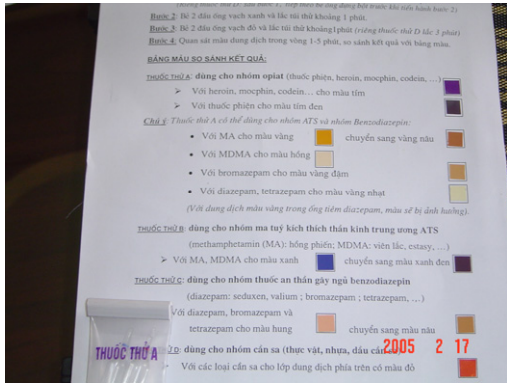
ここに、これまでプロジェクトにご協力頂いた警察庁、外務省、在タイ王国日本国大使館をはじめとする対象各国日本国大使館など、関係各機関の方々に心から謝意を表するとともに、今後の更なる発展に向け、一層のご支援をお願いする次第である。

平成 17 年 3 月

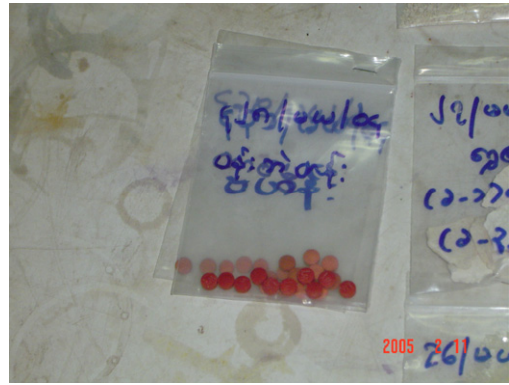
独立行政法人 国際協力機構
理事 松岡 和久

GREATER MEKONG SUBREGION





分析報告 (ベトナム)



薬物 (ミャンマー)



ラボ (ミャンマー)



ラボ (ベトナム)



ラボ (カンボジア)



ラボ (ラオス)



協議 (カンボジア)



協議 (タイ)

略 語 表

ATS	アンフェタミン系覚せい剤
CCDAC	ミャンマー薬物乱用統制中央委員会
CEO	ミャンマー科学検査所
CID	ミャンマー犯罪調査部
CLMV(T)	カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（及びタイ）
DEA	米麻薬取締局
DMS	タイ医科学局
FDQCC	食料薬物品質統制センター
GC	ガスクロマトグラフィー
GTZ	ドイツ技術協力公社
IFS	ベトナム刑事科学研究所
ILEA	国際法執行学院
IR	原子吸光光度計
JCC	合同調整委員会
LCDC	ラオス国家薬物統制管理委員会
MOU	薬物統制に関する覚書
NACD	カンボジア国家薬物対策機関
NCB	タイ薬物統制委員会
OJT	オンザジョブ・トレーニング
ONCB	タイ薬物統制委員会事務局
PNSB	タイ警察麻薬鎮圧局
R/D	討議議事録
RTP	タイ警察
SODC	ベトナム薬物対策常任事務所
TLC	薄層クロマトグラフィー
UNDCP	国連薬物統制計画
UNODC	国連薬物犯罪オフィス（2002年国連薬物統制計画等から整理、改称）

評価調査結果要約表

I. 案件の概要	
国名：タイ王国 カンボジア王国 ラオス人民民主共和国 ミャンマー連邦 ベトナム社会主義共和国	案件名：薬物対策地域協力計画
分野：ガバナンス	援助形態：プロジェクト方式技術協力（技術協力プロジェクト）
所轄部署： 社会開発部 第一グループ	協力金額（評価時点）： 機材供与総額：1億235万2,000円 活動経費総額：2,134万3,000タイバーツ
協力期間：(R/D) 2002年6月16日～ 2005年6月15日	先方関係機関 タイ：薬物統制委員会事務局（ONCB） カンボジア：国家薬物対策機関（NACD） ラオス：国家薬物統制管理委員会（LCDC） ミャンマー：薬物乱用統制中央委員会（CCDAC） ベトナム：薬物対策常任事務所（SODC）
	日本側協力機関：警察庁
<p>1. 協力の背景と概要</p> <p>インドシナ地域において、違法薬物の密造・密売及び乱用は、長年にわたる懸案問題となってきた。過去40～50年のあいだ、タイ王国（以下、「タイ」と記す）をはじめとする周辺諸国はこの問題に対処するため、絶えることなく包括的な努力を続けてきた。しかし、この問題は、今日まで、社会、文化、経済、治安等のあらゆる局面に多大な負の影響を及ぼしている。</p> <p>アヘンやヘロインが主体であった従来型の違法薬物問題に加え、近年はアンフェタミン系覚せい剤（以下ATSと表記する）の密造、密売と、特に若年層による乱用が大きな社会問題となっている。</p> <p>ATS等の違法薬物は国際的なシンジケートを介して大量に密造されており、一国の問題として対処することが困難なため、地域的国際的な取り組みが不可欠である。</p> <p>薬物対策は緊急の課題であるが、法執行能力を強化するうえで、薬物分析技術の向上が前提となる。タイ及び周辺国が、連携して薬物分析技術を向上させることにより、この地域における法執行能力の強化が可能となる。</p> <p>かかる認識の下、タイ政府はインドシナ各国における薬物分析技術の向上を通じた法執行能力の強化を実現すべく、日本政府に支援を要請した。</p> <p>タイ政府の要請に応え、日本政府は事前調査団を派遣し、タイ政府関係者と打合せを重ねるとともに、プロジェクトの実施可能性を調査した。この結果、両国政府は、2002年6月11日に討議議事録（R/D）に署名し、薬物対策地域協力プロジェクトの実施を決定するに至った。</p> <p>2. 協力内容</p> <p>(1) <u>上位目標</u>：タイとCLMV諸国の薬物取締機関が、薬物分析と情報収集において、より高度な法執行の能力を獲得する。</p> <p>(2) <u>プロジェクト目標</u>：正確な分析技術（定性・定量、不純物分析技術）が法執行強化のために、実際にタイとCLMV諸国で用いられる。</p> <p>(3) <u>成果</u></p> <p>成果1：CLMV諸国の薬物鑑定官が、定性、定量分析の技術と知識を獲得する。</p> <p>成果2：CLMV諸国で、中核となる薬物鑑定官が、不純物分析の知識と技術を獲得する。</p> <p>成果3：CLMV諸国で、薬物取締官が薬物分析に関連する取り締まりの知識を身に付ける。</p>	

成果4：タイ警察（Royal Thai Police：RTP）とタイ医科学局（Department of Medical Science：DMS）の州、地方分析施設において、適当な数の薬物鑑定官が定量分析に関する知識と技術を獲得する。

成果5：RTP と DMS において中核となる薬物鑑定官が、不純物分析に関する知識と技術を獲得する。

成果6：RTP の薬物取締官が、薬物分析に関連する取り締まりの知識を身に付ける

成果7：ONCB において、薬物鑑定所で得られた分析結果が情報システムを経由して法執行へと向かう円滑な流れが策定される。

(4) 投入（2005年1月末時点）

日本側：

1) 専門家派遣

- 長期専門家派遣 3名（84.3M/M；チーフアドバイザー/薬物取締、薬物分析、薬物情報システム）
- 短期専門家派遣 5名（10.8M/M；薬物取締）

2) 研修員受入れ

- 本邦研修：14名（タイ、CLMV 各国研修生、延べ人数）
- タイ国での研修：41名（CLMV 各国の研修生、延べ人数）

3) 機材供与：約1億235万2,000円

（ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ、サーバーコンピューター、周辺機器など）

4) ローカルコスト負担 2,134万3,000タイバーツ（邦貨約5,763万円）

タイ側：

1) カウンターパート配置 11名

2) 建物・施設等

- ONCB 内の薬物分析用の研究室等の必要施設、日本人専門家用の執務室

3) 運営資金他

- 機器の維持管理費と消耗品（薬物分析用の試薬）に係るコスト、約75万バーツ（2002-2005）
- 光熱費（水道・電気）
- 国内通信費
- タイ国内で実施されたセミナーに関する文具等
- CLMV 各国の研修・セミナーに関するコストの一部（大部分は日本側が負担）

CLMV 各国：

1) プロジェクトの実施スタッフ

- CLMV 各国から薬物鑑定官2名を研修生として配置

2) 土地、施設、機器等

- ガスクロマトグラフによる分析のための分析室

3) 運営費、機器等

- 分析室の光熱費（水道、電気）及び、CLMV 国で実施された研修にかかわる事務用品
- 分析用の試薬（ベトナム）
- 薬物取締セミナーで用いたテストキット用の試薬（カンボジアとベトナム）

II. 評価調査団の概要		
調査者	団長・総括：森本 康裕 薬物対策：花井 稔 計画評価：小西 伸幸 評価分析：東野 英昭	国際協力機構 社会開発部 第一グループ ガバナンス・ジェンダーチーム チーム長 警察庁刑事局 組織犯罪対策部 薬物銃器対策課 課長補佐 国際協力機構 アジア第一部 第二グループ 東南アジア第四チーム 株式会社レックス・インターナショナル シニアコンサルタント
調査期間	2005年2月6日～2005年2月26日	評価種類：終了時評価

III. 評価結果の概要
<p>1. 評価結果の要約</p> <p>(1) <u>妥当性</u>：プロジェクトの妥当性はタイ及びCLMV諸国の政策、ターゲットグループのニーズ、日本政府の政策等との整合性、プロジェクトの手段としての妥当性（地域協カスキーム）のそれぞれの視点から高いものであると判断する。</p> <p><u>タイ、及びCLMV諸国の政策との整合性</u></p> <p>広域性を抱える薬物問題の性質から、1993年、タイ、中国、ミャンマー、ラオスの4か国は国連薬物統制計画（UNDCP）との間で薬物統制に関する覚書（MOU）を交わし、薬物の供給削減のための法執行の強化と需要削減のための地域アクションプランの策定をめざすこととなった。1995年には、カンボジアとベトナムがMOUに加わった。</p> <p>タイの第9次国家社会経済開発計画のなかで、タイ政府はこれまでの急速な経済発展のもたらした問題点を教訓とし、社会の安定を保ちながら持続的に発展することをめざすとしている。貧困層に開発の焦点が当てられ、農民救済、地方村落開発、中小企業支援などに加え薬物対策が政府の重点政策としてあげられている。</p> <p><u>ターゲットグループのニーズとの整合性</u></p> <p>本プロジェクトのターゲットグループはタイ及びCLMV諸国の薬物鑑定官、薬物統制委員会事務局、薬物取締局（Narcotic Law Enforcement Bureau）、情報通信センター（Information Technology Center）の職員である。タイの薬物鑑定官と薬物取締局、情報通信センターの職員はタイ国内の薬物対策とCLMV諸国の薬物対策への支援に直接に携わる立場にあり、プロジェクトの実施と、彼らのニーズは高い整合性を有している。</p> <p>同様にCLMV諸国の薬物鑑定官は、定性・定量、不純物分析技術の能力向上を通じて法執行の強化を実現し、効果的な薬物対策を実施していく使命をもつ。</p> <p><u>日本政府の政策との整合性</u></p> <p>日本政府は、2003年8月に改訂されたODA大綱で、地球規模の課題への取り組みに高い優先度を与え、地球温暖化、感染症、人口増加、食料、エネルギー、災害、テロリズム、麻薬、国際犯罪等への取り組みが援助政策のなかの重要項目であることを強調している。本プロジェクトは薬物対策の地域協力プロジェクトであり、日本政府のインドシナ地域の援助政策に合致しているといえる。</p> <p><u>JICAの援助方針との整合性</u></p> <p>JICAのタイへの技術協力の優先分野は、①社会セクター、②環境保全、③地域・農村開発、④経済基盤整備、⑤地域協力支援の5分野である。地域協力支援のなかでインドシナにおける薬物対策が協力課題として取り上げられている。</p>

プロジェクトの手段としての妥当性（地域協力スキーム）

ATS 等の大量の薬物が国際的なシンジケートを通じて違法に生産されて流通し、その結果、薬物の乱用がタイ及び周辺の CLMV 諸国の社会に広がり、社会に間接、直接の悪影響を及ぼしている。

薬物分析の技術の速やかな向上を通じた法執行の強化がタイと周辺諸国で必要となっている。広域性をもつ薬物問題は一国の努力のみでは有効な解決を見いだすことができない。地域全体での取り組みが不可欠であり、地域協力は、問題解決の手段として妥当なものである。

(2) 有効性：プロジェクトの有効性は以下の理由により高いと判断する。

プロジェクト目標の達成度

タイと CLMV 諸国の薬物鑑定官と薬物取締官の能力は、過去2年半の間、プロジェクトの研修とセミナーを通じて向上しており、プロジェクト目標の達成度は満足すべきものであった。また、プロジェクト目標は成果の発現を通じて達成されたものであることが確認できた。

タイと CLMV 諸国の薬物鑑定官は定性・定量、不純物分析技術の知識を向上させ、ガスクロマトグラフによる分析の技術を身に付けた。その結果、分析作業の効率と精度が向上した。

加えて、CLMV 諸国では、薬物取締官が組織的で合法的な捜査方法に対する理解を深め、法執行の強化に寄与している。研修で指導したプリテストキットの使用が日常業務として根付き、捜査の精度の向上に効果が認められた。

(3) 効率性：プロジェクトの効率性は高いものと判断する。

日本側投入

日本側投入は、全体として、R/D に定められた質、量、タイミングで行われ、適切なものと判断する。日本人専門家による技術指導、日本、タイにおける研修とセミナー、CLMV 諸国への巡回指導の組み合わせにより、プロジェクトの成果は、予定どおり達成された。

タイ側投入

タイによる投入も、カウンターパート配置、設備提供については、質、量、タイミングの点で、適切であった。しかし、研修・セミナーのコスト負担についてはタイ側による応分の負担が予定されていたが、執行手続きの遅れから、日本側で大部分を負担した。

CLMV 諸国の投入

CLMV 諸国の投入は適切なものであった。各国2名、同一の薬物鑑定官が R/D に定められたとおり継続して研修を受講した。ベトナムに関しては、1名の鑑定官が転職したために研修生の入れ替えがあったが、後任の研修生も基礎能力があり大きな問題にはならなかった。

設備に関しては、各国が薬物分析のための分析室を提供した。今後の機器の維持管理については、ベトナムを除き、分析室の整備、試薬の供給など課題が残されているが、各国の財政状況のなかでは、相応の努力を見せたと考える。

(4) インパクト：（広域協力案件の特徴と思われる）多くの正のインパクトが見られた。負のインパクトは現在のところ見当たらない。

上位目標達成の見込み

薬物鑑定官と薬物取締官の能力はプロジェクトの実施した活動を通じて向上しており、また、参加国の関係者による人的、技術的な交流も開始されていることから、タイ、CLMV 諸国においてより高度な法執行の能力を獲得していくための基礎ができあがったものと判断する。以下の2点が満たされるなら、本協力期間終了後、3年から5年程度の間、上位目標の達成の可能性は高いと思われる。

- プロジェクトの現在の活動が、CLMV 諸国の薬物対策組織との緊密な連携の下に ONCB の手により主体的に継続されること。
- 薬物分析情報システムの完成が大幅に遅れないこと。

政策的インパクト

- カンボジアにおける刑事訴訟法の改正手続きがあげられる。定性・定量分析技術の向上により、薬物の分析結果を捜査及び裁判に反映できる基礎が整った。

組織面でのインパクト

- 薬物鑑定官、薬物取締官の能力向上と職務への態度の変化（自信と取り組みの姿勢の向上）
- ONCB の分析室の独立（薬物分析の重要性の認識による）
- ONCB の国際的な知名度の向上

技術面

- タイでは、不純物分析が定常的に行われるようになり、薬物の製造元の特定に役立っているほか、CLMV 諸国では、定量・定性分析技術の効率と精度の向上が見られた。
- CLMV 諸国の取り締まりについては、プリテストキットが広く用いられるようになり、分析室での本格的な分析の前に実施することにより、捜査の精度と効率性が向上した。
- その他、学会誌への論文の投稿、テキストの作成等がなされた。
- セミナー・研修の参加を通じて各国鑑定官のなかにネットワークが形成された。

- (5) 自立発展性：プロジェクトの自立発展性は全体としては満足すべき水準にあるが、一部課題が残されている。

政策面：プロジェクトのめざす方向（上位目標、プロジェクト目標）は、タイ、CLMV 諸国の政策に対して高い整合性を有している。また、地域協力としての案件形成もプロジェクトの効果発現に適切な手法であった。したがって、実施機関である ONCB は、協力期間終了後も、タイ政府の政策的なサポートを受けることが見込まれる。

また、CLMV 諸国の政策とも、整合性が高いことから、薬物対策に関する参加国間の協力関係も、維持されていくものと思われる。

組織面：ONCB はタイにおける薬物対策の中核機関であり、インドシナ地域の薬物問題に中心となって取り組んでいくための経験と能力を備えていると思われる。

薬物鑑定官に関しては、現在、ONCB の分析室には7名の鑑定官しか在籍していないが、ONCB は鑑定官の新規採用により、プロジェクト活動にかかわるカウンターパートスタッフの定型分析業務の負荷を軽減し、プロジェクト活動に専念させる用意があることを表明した。

財政面：タイにおける薬物対策の中核組織であり、753名のスタッフを有している ONCB について深刻な財政問題が生じる可能性は低い。

しかし、CLMV 諸国については薬物対策活動の予算が十分に確保されるかどうかは懸念が残る。

技術面：タイ：技術移転は、ONCB、RTP、DMS について十分に行われた。機器の維持管理についても、深刻な問題はないと思われる。

CLMV 諸国：プロジェクト実施前の状態を考慮すれば、技術移転はこの2年半余の間に、円滑に行われたと判断する。また、研修生以外の鑑定官、取締官にも、主に OJT を通じて知識の普及が行われている。

しかし、現在、ガスクロマトグラフは大きな問題なく稼働しているものの、過去には周辺機器を含めて故障が発生している。また、ベトナム以外の国（カンボジア、ラオス、ミャンマー）では、維持管理に十分な予算が確保できていないこともあり、試薬（プリテストキットの試薬も含め）の安定供給、分析室のインフラの改善など、今後の活動の円滑な継続に課題が残されている。

2. 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

プロジェクト開始以前に、ONCB において個別専門家派遣による指導が3年間にわたって実施されている。この期間中に、ONCB の薬物鑑定官の知識・技術力が向上し、指導教材の原形が作成され、技術移転の基礎が築かれている。プロジェクトは個別専門家の派遣から連続して実施され、この基礎を有効に活用して実施された。

(2) 実施プロセスに関すること

3. 問題点及び問題点を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

プロジェクト策定について：CLMV 各国については、分析結果が実際の取り締まりに貢献した件数等プロジェクトの策定時における目標の設定（特にプロジェクト目標と上位目標の指標）が、与えられた協力期間と、プロジェクト開始時の各国の状況を考えると、やや現実から乖離したものであった。

(2) 実施プロセスに関すること

CLMV 各国の設備インフラ：CLMV 各国では、不安定な電力供給により、機器の故障が発生した。また、メーカーの代理店が国内になく、試薬やパーツが入手困難な条件下にあり、ガスクロマトグラフィーによる分析作業の進捗に、支障を来した。

実施機関の広域案件への取り組み体制：本案件は、JICA タイ事務所を中心に実施した広域協力案件であるが、実施期間中、JICA 本部、各国事務所、現場（プロジェクト、CLMVT 各国実施機関）間の実務レベルでの案件への対応の体制について整理が十分でなかった。

政治的要因：2002 年の在カンボジア、タイ大使館焼き打ち事件や、2003 年のタイ・ミャンマー国境紛争等で、一部研修計画が変更を余儀なくされた。なお、この変更を補う研修等の措置はとられた。

4. 結 論

タイ、及び CLMV 各国の中心となる薬物鑑定官は、精緻な分析に関する知識と技術を習得した。プロジェクト参加国の法執行官についても、薬物分析に関する知識を得て、重要性を認識し法執行に適用するようになりつつある。

情報システムの構築については進捗が遅れているが、協力期間内にはシステムの構築は完成する見込みである。

協力期間に限られているため、プロジェクトの下で得た知識・技術がどの程度実際の法執行に結びついているかを評価することは現時点では難しいが、プロジェクトは順調に効果を発現しており、近い将来には各国で法執行能力の強化が実現すると思われる。

5. 提言(当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言)

(1) 協力期間

本プロジェクトは目標をおおむね達成する見込みであり、当初予定の協力期間で終了することが望ましい。

(2) 情報システム構築

タイ側、日本側双方で薬物分析情報システムの構築を協力期間終了までに完了させるべく、最大限の努力を行うべきである。

(3) ガスクロマトグラフの維持管理

プロジェクト期間中に、カンボジア、ラオス、ミャンマーでは、不安定な電力事情、試薬の不足等から機材に故障が発生した。各国で、機材の操作、維持管理機能を自立的にもてるように、協力期間内に方法を検討することが必要である。

(4) 今後の協力について

本プロジェクトの上位目標である、タイ及び CLMV 各国の薬物対策関連機関が分析と情報収集に高い能力を獲得するためには、本プロジェクトでタイ、CLMV 各国、日本の間で構築された関係機関の協力関係を生かし、薬物対策への取り組みを推進していくべきである。

6. 教 訓

広域協力案件は、タイ側にも日本側にとっても新たな試みであるが、共通の目標と同一の水準をめざす国際ネットワークの構築により、薬物問題のように国境を越えて生じる問題への対応には効果的かつ効率的な手段であると考えられる。

他方、広域協力案件の実施には、参加各国の協力と理解が不可欠であるため、計画策定には各国の状況（技術水準、財政負担、組織能力）やニーズの違い、諸国間の政治的要因に十分留意することが必要である。

今後の支援を検討する際には、これらの条件、利点、限界を勘案し、参加国と日本の貢献の最適な組み合わせを求めていくことが必要である。

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

2002年6月から3年間にわたり実施している薬物対策広域協力プロジェクトは、実施協議の討議議事録で合意された計画に沿って事業が実施されてきた。当初の計画で合意された協力の終了期日である2005年6月まで約4か月を残すところとなり、以下の諸点を目的として2005年2月6日から2月26日まで終了時評価調査団を派遣することとした。

- (1) これまで実施した協力について、当初計画に照らし、プロジェクトの活動実績、管理運営状況、カウンターパートへの技術移転状況等について評価を行う。
- (2) 目標の達成度を判定したうえで、今後の協力方針を相手国側と協議する。
- (3) 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点からプロジェクト専門家・関係者、タイ側関係者と共にプロジェクトの終了時評価を行う。
- (4) 評価結果から教訓及び提言等を導き出し、今後の協力のあり方や実施方法改善について協議する。
- (5) 協議結果を双方の合意事項としてミニッツに取りまとめる。

1-2 調査団の構成及び調査期間

氏名（期間）	担当業務	所 属
森本 康裕 (2月17日～2月26日)	団長・総括	独立行政法人国際協力機構社会開発部 第一グループガバナンス・ジェンダーチーム チーム長
花井 稔 (2月19日～2月26日)	薬物対策	警察庁刑事局組織犯罪対策部 薬物銃器対策課 課長補佐
小西 伸幸 (2月13日～2月19日)	計画評価	独立行政法人国際協力機構アジア第一部第二グループ 東南アジア第四チーム
東野 英昭 (2月6日～2月26日)	評価分析	(株) レックス・インターナショナル シニアコンサルタント

1-3 対象プロジェクトの背景と概要

1-3-1 プロジェクトの背景

タイ政府は首相を中心とした薬物統制委員会を設置し、国をあげて薬物対策に取り組んでいる。特に、薬物統制委員会事務局（ONCB）は実質的な薬物専門機関として機能し、タイ警察及び国連機関と連携をとりながら対策を進めている。しかしながら、アンフェタミン系覚せい剤（以下ATSと表記）は国際的なシンジケートを通じて密造密売されており、一国で対処するには限界がある。このため、タイ政府は地域的国際的な取り組みが不可欠であるという認識を強くしている。

薬物対策の地域協力の枠組みとして、タイ、中国、ミャンマー、ラオスの4か国は国連薬物統制計画（UNDCP）の支援を得て、1993年に薬物統制に関する覚書（MOU）に調印し、1995年にはカンボジアとベトナムがこれに加わった。その後の国際会議等において、MOU署名国は協力して薬物対策を進める旨の意思表示を行っている。

タイ政府はATSの取り締まり強化のために、薬物分析技術の強化に係る技術協力を日本政府に

要請し、これに対し、日本政府は1999年から薬物対策の個別専門家をONCBに派遣し、薬物分析とりわけ不純物分析に係る技術移転を実施してきた。

精密な薬物分析データは、様々な捜査情報を系統化し、密造ルートや密造所を特定するために極めて有効である。しかし、薬物の密造密売は、域内の国境を越えて行われているため、取り締まりの効果的な実施のためには、タイだけでなく、域内各国が歩調を合わせて、分析能力を向上させることが必要である。

こうした背景の下、タイ政府は、タイ及びカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（CLMV諸国）の薬物取り締まり強化のため、当該地域で最も一般的な薬物であるATSの成分情報の分析能力を域内各国が歩調を合わせて向上させ、その結果のデータベース化を図る、新たな地域協力プロジェクトを、日本政府に対して要請した。

1-3-2 プロジェクトの概要

上記要請を受けてJICAは2002年6月に実施協議を行い、討議議事録の署名を交わし、同年6月から3年間にわたるプロジェクトを実施してきた。

本プロジェクトでは、タイ薬物統制委員会事務局（ONCB）を主なカウンターパート機関としてタイ国内ではタイ警察（RTP）、タイ医科学局（DMS）に対しても、CLMV諸国に対しては各国の薬物分析機関と法執行機関の薬物鑑定官、法執行官を対象として、薬物分析と法執行分野で技術指導を実施してきた。またONCBに対しては薬物情報システムの構築への支援を行ってきた。

具体的には、ONCBを通して、タイのRTPとDMSへ定性・定量分析と不純物分析の技術研修を実施してきた。定量分析技術は県／地域鑑定所の薬物鑑定官を対象とし、不純物分析は中央鑑定所の鑑定官を対象とした。タイ国内の薬物鑑定官の技術の標準化を図ることにより、ONCBラボが不純物分析及び必要業務に専念できる環境を整えることが期待されている。

CLMV諸国の薬物分析機関の薬物鑑定官に対しては、ONCBを通して定性・定量分析と不純物分析の技術研修を行っている。CLMV諸国の薬物鑑定官がタイのONCBにおいて履修する研修と、日本人専門家及びONCBの鑑定官がCLMV諸国へ出向いて行うオンザジョブ・トレーニング（OJT）を組み合わせている。OJTを組み込むことによって、CLMV諸国の現場環境に適合した指導が可能になるとともに、CLMV諸国の鑑定所全体の能力向上を図ることができる。

ONCBに対して、不純物分析の結果を活用するための薬物情報システムの構築と活用に関する技術的アドバイスを実施することで、ONCBにおける薬物分析結果の情報の蓄積と解析を通じた法執行活動の強化に技術的な貢献を果たすことが期待されている。

法執行官に対しては、日本人専門家が、タイ国内においてRTPに対し、またCLMV諸国に対しては各国を訪問し、薬物に関する基本的知識と薬物取り締まりに関する技術指導を行ってきた。

本プロジェクトの実施により、タイ及びCLMV諸国において、押収された薬物をより正確かつ迅速に分析できるようになることにより、薬物事案に対する法執行が適切に行われるようになることが期待されている。

また、本プロジェクトの実施により、タイ及びCLMV各国において、分析機材が整備され、鑑定官が同様の分析技術を習得することにより、押収された薬物の分析結果の精緻化、標準化が図られるとともに、不純物分析によるプロファイリングが促進され、その結果を各国関係機関が蓄積、共有することにより、国境を越えて製造、取引、使用される違法薬物がトレーシングされ、全体像が解析されることになり、薬物取り締まりに貢献することが期待される。

第2章 終了時評価の方法

2-1 評価の手順

終了時評価は、JICA評価ガイドラインにのっとり、プロジェクト・サイクル・マネジメント手法（PCM手法）を用いて、以下の手順で実施された。

(1) 合同評価調査団の構成

日本側の終了時評価調査団と、タイ側評価チームで合同評価調査団を構成し、終了時評価を行った。タイ側評価チームメンバーは、次のとおり。

- | | |
|---------------------------------|--|
| (1) Ms. Rachanikorn Sarasiri | Director of Foreign Affairs Bureau, ONCB |
| (2) Ms. Anchalee Sirisabphya | Director of HRD Institute on Narcotics Control, ONCB |
| (3) Ms. Kulaphan Rataroon | Foreign Affairs Bureau, ONCB |
| (4) Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj | Narcotics Analysis and Technical Service Institute, ONCB |
| (5) Ms. Khanitha Limvanich | Information Technology Center, ONCB |
| (6) Mr. Kraivudh Maneeratana | Narcotic Law Enforcement Bureau, ONCB |
| (7) Ms. Suthanone Fungtammasan | Senior Programme Officer, Evaluation Unit, TICA |

(2) 評価用プロジェクト・デザイン・マトリックスの作成

2002年11月に署名のR/Dに添付されたプロジェクト・デザイン・マトリックス(PDMo)を基に、付属資料5. に示す評価用PDM (PDMe)を作成し、これを基に評価業務を進めることを日本、タイ側で合意した。

(3) プロジェクトの実績の確認

プロジェクトの評価時点までの実績を、収集した関連データ、情報を基に確認した。

(4) 評価5項目による評価と分析

以下に示す、評価5項目による評価を行うとともに、外部要因などの分析を行う。また、提言と、教訓を導き出した。

1) 妥当性 (Relevance)

プロジェクトのめざしている効果（プロジェクト目標や上位目標）が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金であるODAで実施する必要があるか等の「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う。

2) 有効性 (Effectiveness)

プロジェクトの実施により、本当に受益者若しくは社会への便益がもたらされているのか(あるいは、もたらされるのか)を問う。

3) 効率性 (Efficiency)

主にプロジェクトの投入と成果の発現の關係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいはされるか）を問う。投入の質・量・タイミングと、成果の発現に結びついているかどうかを中心に検証する。

4) インパクト (Impact)

プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果をみる視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。

5) 自立発展性 (Sustainability)

援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

(5) プロジェクトの評価は、主に、以下の資料を参照して行った。

1) 2002年6月に署名された討議議事録 (Record of Discussions)

2) プロジェクト報告書

3) 日本人専門家、タイ側カウンターパートスタッフ及び関連組織、CLMV各国関係者へのインタビュー（日本側評価チームが実施）

4) タイ側カウンターパートスタッフ及び関連組織、CLMV各国関係者への質問票回答

5) 評価用プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDMe)

日本・タイ両国の評価チームは、討議を重ねた結果、合意に至り、上記(4)に示した5項目に基づく評価結果と提言、教訓を取りまとめた。

2-2 評価用プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDMe) の作成

プロジェクトは、討議議事録 (R/D) に添付されたPDMと実施計画書 (Plan of Operation) に基づいて実施された。終了時評価にあたり、日本・タイ双方は、PDMを基に、プロジェクト実施期間中の投入、成果をより正確に反映させるため、実態に合わせて一部修正して評価用のPDM (PDMe) を作成し、評価に用いることを合意した。なお、上位目標、目標は変更されていない。

(1) 修正点は次の成果・活動を追加したことである。

成果3：CLMV諸国の薬物取締官が薬物分析に関連する法執行に関する知識を獲得する。

活動3：CLMV諸国において薬物取締官に対する法執行に関する研修を実施する。

成果6：タイ警察の薬物取締官が薬物分析に関連する法執行の知識を獲得する。

活動6：タイ警察の薬物取締官に法執行に関する研修を実施する。

(2) プロジェクトの概略を以下に示す。

プロジェクト名：タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム国「薬物対策地域協力プロジェクト」(The Regional Cooperation Project on Capacity Building of Drug Analysis for Improvement of Drug Law Enforcement in Thailand, Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam)

協力期間：2002年6月16日より3年間

対象地域：タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム国

ターゲットグループ：タイ国とCLMV諸国の薬物鑑定官及び薬物統制委員会事務局（ONCB）の薬物取締局と情報技術センターの職員（Drug Analysts in Thailand and the CLMV countries, staffs at Narcotic Law Enforcement Bureau and Information Technology Center of ONCB）

上位目標：タイ国とCLMV諸国の薬物取締機関が、薬物分析と情報収集において、より高度な法執行の能力を獲得する。

プロジェクト目標：正確な分析技術（定性・定量、不純物分析技術）が法執行強化のために、実際にタイ国とCLMV諸国で用いられる。

成 果

成果1：CLMV諸国の薬物鑑定官が、定性、定量分析の技術と知識を獲得する。

成果2：CLMV諸国で、中核となる薬物鑑定官が、不純物分析の知識と技術を獲得する。

成果3：CLMV諸国で、薬物取締官が薬物分析に関連する取り締まりの知識を身に付ける。

成果4：RTP（Royal Thai Police）とDMS（Department of Medical Science）の州、地方分析施設において、適当な数の薬物鑑定官が定量分析に関する知識と技術を獲得する。

成果5：RTPとDMSにおいて中核となる薬物鑑定官が、不純物分析に関する知識と技術を獲得する。

成果6：RTPの薬物取締官が、薬物分析に関連する取り締まりの知識を身に付ける

成果7：ONCBにおいて、薬物鑑定所で得られた分析結果が情報システムを経由して法執行へと向かう円滑な流れが策定される。

その他の詳細は、付属資料5. のPDMeに示すとおりである。

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績（詳細は付属資料6. 参照）

(1) 日本側投入

1) 長期専門家

- 3名 [84.3M/M (2005年1月末時点)；チーフアドバイザー／薬物取締、薬物分析、薬物情報システム]

2) 短期専門家

- 5名 [10.8M/M (2005年1月末時点)；薬物取締]

3) カウンターパート研修

- 本邦研修：14名（タイ、CLMV各国研修生 延べ人数）
- タイ国での研修：41名（CLMV各国の研修生 延べ人数）

4) 供与機材

日本側の供与機材は、2002年から2005年の間に、およそ1億235万2,000円である。

主な機材は、ガスクロマトグラフィー（7台）、ガス発生機（4台）、高速液体クロマトグラフ（1台）及びサーバーコンピューター（2台）とモニター、プリンター、無停電電源装置などの周辺機器である。供与機材の額を、参考としてタイ・バーツ、日本円、米ドルで示す。

タイバーツ	日本円	米ドル
37,824 (千バーツ)	102,352 (千円)	975 (千ドル)

(交換レート：1.0 USD =THB 38.8=JPY105)

5) 他の投入

2002年から2005年の間に、国際セミナー、地域協力、ローカルコンサルタント契約等に関する投入額は、合計額、2,134万3,000タイバーツである。

タイバーツ	日本円	米ドル
21,343 (千バーツ)	57,626 (千円)	549 (千ドル)

(交換レート：1.0 USD =THB 38.8=JPY105)

(2) タイ側投入

1) カウンターパートスタッフ配置

- 11名（プロジェクト・ダイレクター、プロジェクト・マネージャー、プロジェクト・コーディネーター：以上、各1名、技術カウンターパート：8名）

2) 土地、施設、建物等

ONCBは以下の施設等を提供した。

- ONCB内の薬物分析用の研究室等の必要施設、日本人専門家用の執務室
- 薬物分析用の試薬

3) 運営資金他

- 機器の維持管理費と消耗品に係るコスト、およそ75万バーツ（2002-2005）
- 光熱費（水道・電気）
- 国内通信費
- タイ国内で実施されたセミナーに関する文具など
- CLMV各国の研修・セミナーに関するコストの一部（大部分は日本側が負担した）

4) その他の投入

- タイ国政府は、カウンターパート資金と、日本人専門家に対する施設使用、渡航ビザ取得に対する優遇措置を、TICAを通じて与えた。

(3) CLMV各国からの投入

1) プロジェクトの実施スタッフ

- CLMV各国から薬物鑑定官2名を研修生として配置

2) 土地、施設、機器等

- ガスクロマトグラフィーによる分析のための分析室

3) 運営費、機器等

- 分析室の光熱費（水道、電気）及び、CLMV国で実施された研修にかかわる事務用品
- 分析用の試薬（ベトナム）
- 薬物取締セミナーで用いたテストキット用の試薬（カンボジアとベトナム）

3-2 成果

(1) CLMV各国の成果

成果1：CLMV諸国の薬物鑑定官が、定性、定量分析の技術と知識を獲得する。

指標：CLMV諸国で、ガスクロマトグラフィー（GC）を十分に活用できる薬物鑑定官の数が増加する。

プロジェクト開始以前には、CLMV各国の薬物分析施設には、ベトナムを除き、GCは導入されていなかった。終了時評価の実施時点における、各国の薬物鑑定官の自己評価によれば、GCを日常業務で活用している（定性・定量分析の技術と知識を有している）薬物鑑定官の数は、下表で示すとおりである。

国名	条件を満たす鑑定官の数 (1)	
	2002	2005
カンボジア	0/4	4/8
ラオス	0/4	2/4
ミャンマー（CEOヤンゴン）	0/13	2/13
ベトナム（IFSハノイ及びホーチミン）	12/28	13/22

注 (1)：分子は条件を満たす薬物鑑定官の数。分母は薬物鑑定官全体の数。カンボジアとベトナムについては、増員と組織編成の関係で薬物鑑定官の数に変化がある。

成果2：CLMV諸国で、中核となる薬物鑑定官が、不純物分析の知識と技術を獲得する。

指標：CLMV諸国で、少なくとも1人の薬物鑑定官が不純物分析の知識と技術を習得する。

終了時評価の実施時点における薬物鑑定官の自己評価によれば、中核となる薬物鑑定官は、プロジェクトの研修を通じて、不純物分析の知識と技術を身に付けている。

不純物分析の知識と技術を獲得した薬物鑑定官の数は、下表で示すとおりである。

国名	条件を満たす鑑定官の数 (1)	
	2002	2005
カンボジア	0/4	2/8
ラオス	0/4	2/4
ミャンマー (CEOヤンゴン)	0/13	2/13
ベトナム (IFSハノイ及びホーチミン)	0/28	4/22

注 (1)：分子は条件を満たす薬物鑑定官の数。分母は薬物鑑定官全体の数。カンボジアとベトナムについては、増員と、組織編成の関係で薬物鑑定官の数に変化がある。

成果3：CLMV諸国で、薬物取締官が薬物分析に関連する取り締まりの知識を身に付ける。

指標：薬物分析に関する取り締まりの知識を身に付けた薬物取締官の数が増加する。

終了時評価の時点までに、CLMV諸国の、延べ209人の取締官が、プロジェクトの下に行われた研修とセミナーを受講した。

研修とセミナーの受講生に対するインタビュー、質問票の回答等から判断すると、彼らは、組織的で合法的な取締方法について、及び、薬物分析をどのように取り締まりに生かしているかについて、よく理解していた。また、プレテストキットについても、日常的に捜査のなかで適用していることが分かった。

研修・セミナーで得た知識は、日常業務のなかで、同僚あるいは、部下の捜査官に伝えていることも確認できた。

(2) タイの成果

成果4：RTP (Royal Thai Police) とDMS (Department of Medical Science) の州、地方分析施設において、適当な数の薬物鑑定官が定量分析に関する知識と技術を獲得する。

指標：GCを十分に活用できる薬物鑑定官の数が増加する。

プロジェクト開始前の、州あるいは地方のRTPとDMSの薬物鑑定官の能力に関するデータはないが、プロジェクトの下で行われた研修に参加した薬物鑑定官の数は、RTPでは、中央鑑定所から10名、州地方鑑定所からは40名である。研修の実績と、下表にまとめた自己評価の結果から、GCを十分に活用できる薬物鑑定官の数は、プロジェクトを通じて増加していると考えられる。

組織名	条件を満たす鑑定官の数 (1)	
	2002	2005 (2)
RTP中央鑑定所	データなし	10/10
RTP州及び地方鑑定所	データなし	70/70
DMS中央鑑定所	データなし	17/17

注 (1)：分子は条件を満たす薬物鑑定官の数。分母は薬物鑑定官全体の数。

(2)：RTPの州及び地方鑑定所の薬物鑑定官の全体数は推定値。

成果 5 : RTPとDMSにおいて中核となる薬物鑑定官が、不純物分析に関する知識と技術を獲得する。

指標 : RTPとDMSで、少なくとも 1 人の薬物鑑定官が不純物分析の知識と技術を習得する。

インタビューの結果、RTP、DMSにおいて、少なくとも、1人の鑑定官が、プロジェクトによる研修への参加を通じて、不純物分析の知識と技術を習得していることが確認できた。

各々の組織において、条件を満たしている鑑定官の数は下表に示すとおりである。

組織名	条件を満たす鑑定官の数 (1)	
	2002	2005 (2)
RTP中央鑑定所	0/10	1/10
RTP州及び地方鑑定所	0/70	12/70
DMS中央鑑定所	0/12	1/12

注 (1) : 分子は条件を満たす薬物鑑定官の数。分母は薬物鑑定官全体の数。

(2) : RTPの州及び地方鑑定所の薬物鑑定官の全体数は推定値。

成果 6 : RTPの薬物取締官が、薬物分析に関連する取り締まりの知識を身に付ける

指標 : 薬物分析に関する取り締まりの知識を身に付けた薬物取締官の数が増加する

現時点までに、延べ45名のONCB及びRTP捜査官が、プロジェクトのセミナーに参加している。

セミナーの参加者へのインタビューと質問票の回答の結果から、RTPの取締官は、薬物分析と取り締まりの関連性、タイの取締法と日本の取締法の対比などについて、よく理解していることが確認できた。

成果 7 : ONCBにおいて、薬物鑑定所で得られた分析結果が情報システムを経由して法執行へと向かう円滑な流れが策定される。

薬物分析情報システムの構築は、当初のスケジュールよりも遅れている。原因は、ONCBの情報技術センター内のメインフレームと薬物分析情報システムとを結びつける技術的な難しさにある（メインフレーム自体の使用が、現在では、少数派となっていることに加え、使用されているデータベースのソフトが特殊で、対応できるエンジニアが限定されている）。

しかし、システム開発委託先を通じて対応手段が講じられており、協力期間の終了までには、システムの完成がなされる見込みである。

第4章 評価結果

4-1 評価5項目による評価（付属資料7. 参照）

4-1-1 妥当性

プロジェクトの妥当性は、以下の理由により高いものと判断する。

(1) タイ及びCLMV諸国の政策との整合性

このように、広域性を抱える薬物問題の性質から、1993年、タイ、中国、ミャンマー、ラオスの4か国は、UNDCPとの間で、薬物統制に関する覚書（MOU）を交わし、薬物の供給削減のための法執行の強化と、需要削減のための地域アクションプランの策定をめざすこととなった。1995年には、カンボジアとベトナムがMOU署名国に加わった。

1999年には、関係国の高官・大臣会議がラオスのビエンチャンで開催され、MOU署名国は、主要な国境検問所で、国境各国法執行機関間の連絡を密にし、現場での法執行を効率的に行うことを目的とする「The Development of Cross Border Law Enforcement Cooperation in East Asia（通称クロスボーダープロジェクト）」に関して合意が得られた。

タイの第9次国家社会経済開発計画のなかで、タイ政府は、これまでの急速な経済発展のもたらした問題点を教訓とし、社会の安定を保ちながら持続的に発展することをめざすとしている。貧困層に開発の焦点があてられ、農民救済、地方村落開発、中小企業支援などに加え、薬物対策が政府の重点政策としてあげられている。

(2) ターゲットグループのニーズとの整合性

法執行活動の強化を通じて、薬物対策活動の効果をあげるためには、定性・定量分析、不純物分析の知識を身に付けた十分な数の薬物鑑定官が育成されていることが前提となる。

本プロジェクトのターゲットグループは、タイ及びCLMV諸国の薬物鑑定官、薬物統制委員会事務局、薬物取締局（Narcotic Law Enforcement Bureau）、情報通信センター（Information Technology Center）の職員である。タイの薬物鑑定官と薬物取締局、情報通信センターの職員は、タイ国内の薬物対策とCLMV諸国の薬物対策への支援に直接に携わる立場にあり、プロジェクトの実施と、彼らのニーズは高い整合性を有している。

同様に、CLMV諸国の薬物鑑定官は、定性・定量、不純物分析技術の能力向上を通じて、法執行の強化を実現し、効果的な薬物対策を実施していく使命をもつ。

ターゲットグループのサイズについては、タイと、CLMV諸国の薬物鑑定官の大半を対象としているほか、薬物取締局、情報通信センターの職員も含まれており、適切であると考えられる。

(3) 日本政府の政策との整合性

日本政府は、2003年8月に改訂されたODA大綱で、地球規模の課題への取り組みに高い優先度を与え、地球温暖化、感染症、人口増加、食料、エネルギー、災害、テロリズム、麻薬、国際犯罪等への取り組みが、援助政策のなかの重要項目であることを強調している。本プロジェクトは、薬物対策の地域協力プロジェクトであり、日本政府のインドシナ地域の援助政

策に合致しているといえる。

(4) JICAの援助方針との整合性

JICAのタイへの技術協力の優先分野は、①社会セクター、②環境保全、③地域・農村開発、④経済基盤整備、⑤地域協力支援の5分野である。地域協力支援のなかで、インドシナにおける薬物対策が協力課題として取り上げられている。

(5) プロジェクトの手段としての妥当性（地域協カスキーム）

ATS等の大量の薬物が、国際的なシンジケートを通じて違法に生産されて流通し、その結果、薬物の乱用が、タイ及び周辺のCLMV諸国の社会に広がり、社会に間接、直接の悪影響を及ぼしている。

薬物分析の技術の速やかな向上を通じた法執行の強化が、タイと周辺諸国で必要となっている。広域性をもつ薬物問題は、一国の努力のみでは、有効な解決を見いだすことができない。地域全体での取り組みが不可欠であり、地域協力は、問題解決の手段として妥当なものである。

4-1-2 有効性

プロジェクトの有効性は、以下の理由により高いと判断する。

(1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：正確な分析技術（定性・定量、不純物分析技術）が法執行強化のために、実際にタイ国とCLMV諸国で用いられる。

プロジェクト目標の達成度は、妥当なものであると判断する。タイとCLMV諸国の薬物鑑定官と捜査官の能力は、過去2年半の間、日本人専門家とタイカウンターパートによって行われたプロジェクトの研修とセミナーを通じて向上している。

タイとCLMV諸国の薬物鑑定官は定性・定量、不純物分析技術の知識を向上させ、GCによる分析の技術を身に付けた。その結果、分析作業の効率と精度が向上した。

加えて、CLMV諸国では、薬物捜査官が組織的で合法的な捜査方法に対する理解を深め、法執行の強化に寄与している。研修で指導したプレテストキットの使用が、日常業務として根づき、捜査の精度の向上に効果があった。

指標1：不純物分析が実際の捜査に用いられた件数が増加する

不純物分析は、プロジェクトによってタイ及びCLMV諸国に導入された技術である。タイにおいては、プロジェクトの実施に先立つ個別専門家の指導により、薬物鑑定官の技術がCLMV諸国に比して先行していた経緯もあり、不純物分析は日常的に行われ、取締捜査に用いられている。2005年2月時点で、分析数は2,070件を数え、データベースが構築されている。

一方、CLMV諸国では、不純物分析は、最近になって開始されたばかりであり、分析数はまだ限られている（カンボジア：30サンプル、ラオス：13サンプル、ミャンマー：13サンプル、ベトナム：30サンプル）。しかし、ベトナムでは、既に、10件の実際の捜査に役立ったことが報告されている。

指標 2：定性・定量分析が実際の捜査に用いられた件数が増加する

定性・定量分析は、タイでは定常的に、また、CLMV諸国では、ほぼ定常的に行われるようになってきている。結果として、取締捜査の効率的、正確な実施に寄与しているほか、分析の結果により、裁判における量刑、判決の精度が向上している。

指標 3：タイ、CLMV諸国で分析技術の取り締まりへのインパクトが生ずる。

定性・定量、不純物分析技術の導入により、効率性、分析精度が向上し、薬物取締の効率性、精度も向上した。このほかにも、取締官と鑑定官の相互理解の進展、裁判における正確な量刑判断など、取り締まりに強いインパクトがあったと判断する。

(2) 成果の達成状況

3-2で述べたように、ほとんどの成果は適切に達成され、プロジェクト目標の達成に貢献したと判断される。成果以外（外部要因）の貢献、阻害要因としては、以下のものがあげられる。

促進要因

プロジェクト開始以前に、ONCBにおいて、個別専門家派遣による指導が、3年間にわたって実施されている。この期間中に、ONCBの薬物鑑定官の知識・技術力が向上し、指導教材の原形が作成され、技術移転の基礎が築かれている。プロジェクトは、個別専門家の派遣から連続して実施され、この基礎を有効に活用して実施された。

阻害要因

① 国際関係

プロジェクト期間中、タイと、周辺諸国の間には政治的に不安定な時期が生じた（2002年の在カンボジア、タイ大使館焼き打ち事件、2003年のミャンマー国境封鎖）。このため、専門家の当該国への巡回指導が中止された（これらのスケジュールの遅れは、プロジェクト後半で、補完指導を実施した）。

② ガスクロマトグラフ付属品の故障

2004年度、カンボジア、ミャンマーでガス発生装置の故障により巡回指導が不可能となった（これらのスケジュールの遅れは、プロジェクト後半で、補完指導を実施した）。

4-1-3 効率性

プロジェクトの効率性は高いものと判断する。

日本側投入

日本側投入は、全体として、R/Dに定められた質、量、タイミングで行われ、適切なものと判断する。日本人専門家による技術指導、日本、タイにおける研修とセミナー、CLMV諸国への巡回指導の組み合わせにより、プロジェクトの成果は、予定どおり達成された。

タイ側投入

タイによる投入も、カウンターパート配置、設備提供については、質、量、タイミングの点で、適切であった。しかし、研修・セミナーのコスト負担については、タイ側による応分の負担が予定されていたが、執行手続きの遅れから、日本側で大部分を負担した。

CLMV諸国の投入

CLMV諸国の投入は適切なものであった。各国2名、同一の薬物鑑定官が、R/Dに定められたとおり、継続して研修を受講した。ベトナムに関しては、1名の鑑定官が転職したために、研修生の入れ替えがあったが、後任の研修生も基礎能力があり、大きな問題にはならなかった。設備に関しては、各国が、薬物分析のための分析室を提供した。今後の機器の維持管理については、ベトナムを除き、分析室の整備、試薬の供給など、課題が残されているが、各国の財政状況のなかでは、努力したものとする。

4-1-4 インパクト

(1) 上位目標の達成見込み

上位目標：タイ国とCLMV諸国の薬物取締機関が、薬物分析と情報収集において、より高度な法執行の能力を獲得する。

指標1：実際の逮捕件数、壊滅した薬物製造基地の数が増加する。

指標2：押収された薬物量の全製造薬物（推定値）に対する割合が増加する。

現時点で、PDMeに記述された指標に直接的に対応するデータの取得は困難である。しかし、薬物鑑定官と、薬物取締官の能力は、プロジェクトの実施した活動を通じて向上していることが確認でき、また、参加国の関係者による人的、技術的な交流も開始されていることから、タイ、CLMV諸国において、より高度な法執行の能力を獲得していくための基礎ができあがったものと判断する。以下の2点が満たされることが、上位目標の達成には必要である。本協力期間終了後、3年から5年程度の間、上位目標の達成の可能性は高いと思われる。

- プロジェクトの現在の活動が、CLMV諸国の薬物対策組織との緊密な連携の下に、ONCBの手により主体的に継続されること。
- 薬物分析情報システムの完成が大幅に遅れないこと。

(2) インパクト

終了時評価の時点で、多数の正のインパクトが見られる。

政策面

- カンボジアでは、薬物対策の一環として、刑事訴訟法の改正手続きが、国会で承認手続きを受けており、3月中には改正される見込みである。背景として、プロジェクトの下で行われた国際セミナーや研修で他国の鑑定官、取締官等の関係者との情報交換が行われたこと、また、定性・定量分析技術の向上により、薬物の分析結果を捜査と、裁判に反映できる基礎が整ったことがあげられる。

組織面

- プロジェクト開始後、2年半余が過ぎ、プロジェクト参加国の薬物鑑定官は、職務の遂行に必要な知識と技術を身に付けている。今回実施したインタビュー等の結果から、薬物鑑定官が、技術的な向上を裏づけとして、職務に自信をもち、前向きな態度で臨んでいることが確認できた。
- プロジェクト期間内に、ONCBの分析室が、薬物取締局から独立した組織となった。これは、鑑定官の働きと、薬物分析の重要性が認識されたためであり、プロジェクトが分析技術の向上を通じて及ぼしたインパクトとして考えることができる。
- ONCBは、プロジェクトの活動を通じて、インドシナにおける、薬物対策の中核組織として知名度を高めた。2004年度にタイで行われた不純物分析技術の研修では、インドネシアからも研修生が参加した。

技術面

- プロジェクトの活動により、各国の薬物鑑定官と薬物取締官の多くが、職務を遂行するための知識と技術を向上させた。GC機器の供与により、タイでは、不純物分析が定常的に行われるようになり、薬物の製造元の特定に役立っているほか、CLMV諸国では、定量・定性分析技術の効率と精度の向上が見られた。
- CLMV諸国の取り締まりについては、プリテストキットが広く用いられるようになり、分析室での本格的な分析の前に実施することにより、捜査の精度と効率性が向上した。
- ONCBの薬物鑑定官は、ツールマークテスト、不純物分析手法を標準化し、タイの他の捜査機関に技術指導を行った。
- プロジェクトでの活動を通じ、学術論文「タイで押収されたメタンフェタミン錠剤（ヤーバ）中の不純物の同定と統計的手法による分類（*Identification of impurities and statistical classification of Methamphetamine tablet (Ya-ba) seized in Thailand*）」が作成され“*Forensic Science International*” Vol .126, 2002. に掲載された。
- ONCBの手により、薬物対策の技術書籍が、2002年から2004年にかけて、4冊編集され、国内の薬物対策機関に配布された。
- また、国際研修、セミナーなどの参加を通じて、参加国の鑑定官の間で、情報の交換を行うネットワークが形成され、日本人専門家に全面的に頼ることなく、彼ら自身の間で問題を解決する姿勢が見えるようになったこともインパクトのひとつである。

社会面

プロジェクトは、分析技術と薬物情報システムの統合を通じて法執行の能力を高めるもので、違法薬物問題の解決を通じて、間接的に社会にインパクトを与えていくことが期待されるが、効果の発現には、まだ時間がかかると思われ、現時点で、社会的なインパクトの有無を評価するのは難しい。

- ミャンマーでは、薬物乱用統制中央委員会（CCDAC）が自らのウェブサイト運営

し、取り締まりの実績を公開しているが、このような活動は、国民の薬物に対する啓発に役立つものと思われる。

4-1-5 自立発展性

プロジェクトの自立発展性は、全体としては満足すべき水準にあるが、一部課題が残されている。

政策面

プロジェクトのめざす方向（上位目標、プロジェクト目標）は、タイ、CLMV諸国の政策に対して高い整合性を有している。また、地域協力としての案件形成もプロジェクトの効果発現に適切な手法であった。

したがって、実施機関であるONCBは、協力期間終了後も、タイ国政府の政策的なサポートを受けることが見込まれる。

また、CLMV諸国の政策とも、整合性が高いことから、薬物対策に関する参加国間の協力関係も、維持されていくものと思われる。

組織面

ONCBは、タイにおける薬物対策の中核機関であり、インドシナ地域の薬物問題に中心となって取り組んでいくための経験と能力を備えていると思われる。

薬物鑑定官に関しては、現在、ONCBの分析室には7名の鑑定官しか在籍していないが、ONCBは、鑑定官の新規採用により、プロジェクト活動にかかわるカウンターパートスタッフの定型分析業務の負荷を軽減し、プロジェクト活動に専念させる用意があることを表明した。

財政面

タイにおける薬物対策の中核組織であり、753名のスタッフを有しているONCBについて、深刻な財政問題が生じる可能性は低い。

しかし、CLMV諸国については、薬物対策活動の予算が十分に確保されるかどうかは懸念が残る。

技術面

タイ：技術移転は、ONCB、RTP、DMSについて、十分に行われた。機器の維持管理についても、深刻な問題はないと思われる。

CLMV諸国：プロジェクト実施前の状態を考慮すれば、技術移転は、この2年半余の間に、円滑に行われたと判断する。また、研修生以外の鑑定官、取締官にも、主にOJTを通じて、知識の普及が行われている。

しかし、現在、GCは大きな問題なく稼働しているものの、過去には周辺機器の故障が発生している。また、ベトナム以外の国（カンボジア、ラオス、ミャンマー）では、維持管理に十分な予算が確保できていないこともあり、試薬（プリテストキットの試薬も含め）の安定供給、分析室のインフラの向上など、今後の分析、捜査活動の円滑な継続に課題が残されている。

4-2 効果発現に貢献した要因

4-2-1 計画内容に関すること

プロジェクト開始以前に、ONCBにおいて、個別専門家派遣による指導が、3年間にわたって実施されている。この期間中に、ONCBの薬物鑑定官の知識・技術力が向上し、指導教材の原形が作成され、技術移転の基礎が築かれている。プロジェクトは、個別専門家の派遣から、連続して実施され、この基礎を有効に活用して実施された。

4-2-2 実施プロセスに関すること

確認された要因は特段なかった。

4-3 問題点及び問題点を惹起した要因

4-3-1 計画内容に関すること

計画、指標の策定について：当初の計画ではプロジェクト目標と上位目標の指標として、薬物分析の結果が実際の取り締まりに貢献した件数等を設定したが、プロジェクト開始時のCLMV諸国の状況や全体の協力期間と分析機材の供用開始時期などの工程などを考えると、やや現実から乖離したものであった。

4-3-2 実施プロセスに関すること

CLMV各国の設備インフラ：CLMV各国では、不安定な電力供給により、機器の故障が発生した。また、メーカーの代理店が国内になく、試薬やパーツが入手困難な状況にあり、GCによる分析作業の進捗に、支障を来した。

実施機関の広域案件への取り組み体制：本プロジェクトは、JICAタイ事務所を中心に実施した広域協力案件であるが、実施期間中、JICA本部、各国JICA事務所、プロジェクト及びCLMVT各国実施機関の間で、案件への対応、連絡、意思決定の体制についての整理が十分ではなかった。

政治的要因：2002年の在プノンペン・タイ国大使館焼き打ち事件や、2003年のタイ・ミャンマー国境紛争等で、一部、研修計画が変更を余儀なくされた（なお、この変更に対しては補完指導を実施した）。

4-4 結論

タイ及びCLMV諸国の中心となる鑑定官は精緻な（定性、定量、不純物）分析に関する知識と技術を習得した。タイ及びCLMV諸国法執行官は、薬物分析に関する知識を得、その重要性を認識し、徐々に法執行に適用するようになりつつある。しかしながら限られた協力期間内で実際の法執行に適用された件数について評価することは時期尚早といわざるを得ないが、その件数も徐々に増加する傾向にあり、近い将来法執行能力が強化されるものと期待される。情報システムの構築については当初計画より遅れが生じているものの協力期間内に完了の見込み。これらの状況からすれば、精緻な（定性、定量、不純物）薬物分析の促進を通し、タイ及びCLMV諸国の法執行能力の向上を図るというプロジェクト目標はおおむね達成されるものと判断される。

タイ及びCLMV諸国では技術的、財政的、組織的状況は様々であるが、薬物分析及び法執行に多くのインパクトが確認された。

- (1) 薬物分析の知識と技術を実際の薬物取締に適用することにより、迅速かつ正確な法執行が可能となった。
- (2) 関係各国の法執行者と薬物鑑定者が、域内外の研修やセミナーにともに参加することにより、関係国間の情報共有、連携強化を促進した。
- (3) カンボジアでは薬物分析の概念を反映させた刑事訴訟法を国会審議中である。
- (4) 国連薬物犯罪オフィス（UNODC）は、本プロジェクトのコンセプトである薬物分析情報の法執行への適用を、より多くの関係国に拡大させるための国際的枠組みを構築することを計画している。

第5章 提言と教訓

5-1 提言

(1) 協力期間

本プロジェクトは、プロジェクト目標をおおむね達成する見込みであり当初予定どおりの協力期間で終了することが望ましい。

(2) 情報システム構築

協力期間終了までにタイ側、日本側双方は、薬物分析情報システムの構築を完了すべく最大限の努力を行うべきである。

(3) ガスクロマトグラフィーの維持管理

プロジェクト期間中にカンボジア、ラオス、ミャンマーでは、不安定な電力事情、試薬の不足などから機材に支障が発生した。各国で本件機材の操作、維持管理を自立的に実施できるよう協力期間内に維持管理の合理的方法を検討すること。

(4) 今後の協力

本プロジェクトの上位目標であるタイ及びCLMV諸国の薬物関連機関が分析と情報収集に高い能力を獲得するために、本プロジェクトでタイ、CLMV諸国、日本の間で構築された関係機関の協力関係に基づき、薬物対策への取り組みを推進していくべき。

5-2 教訓

(1) 広域協力案件の形成

広域協力案件は、タイ側にも日本側にとっても新たな取り組みであるが、薬物問題のように国境を越えて対応が求められる課題に対して、共通の目標と同じ水準の技術や取り組みをめざし国際ネットワークを構築して対処する場合には、効果的かつ効率的な支援の方法と考えられる。

また、本件ではタイに常駐しCLMV各国の事情に精通した専門家が各国への巡回指導やタイでの研修を繰り返し行ったことにより、各国に対してそれぞれ別個に技術協力を行う場合に比べて、技術移転の効率や効果は高くなった。各国に対し別個の技術協力を行う場合には、日本側リソースの限界もあり、日本からその都度（必ずしも同一とは限らない）短期専門家を派遣することになるが、各国の事情に合わせた事前準備や技術指導が十分行えるのか、また本件と同様の回数の巡回指導やタイでの研修を実施し得るのかは、疑問である。

更には、各実施機関は業務の性格上保秘に細心の注意を払っており、専門家が適切に技術指導を行えるようになるには、一定の時間をかけて信頼関係を構築することが必要であるが、短期専門家ではこうした信頼関係を構築するにも限界があると考えられる。これらの観点からも本件を広域協力案件としたことは妥当であった。

他方、対象国の実施機関は、特に技術、財政負担、組織能力の状況やニーズが異なるが、広域協力案件では指導内容が画一的にならざるを得ない面や対象国当たりの投入量が通常の二国

間協力案件に比べて小さくなることに留意が必要である。また対象国間の政治的要因も事業運営に影響を与え得るので、計画策定時には留意すべきである。

したがって、今後の支援を検討する際には、広域協力案件に係るこれらの条件、利点及び限界を考慮しつつ拠点国のイニシアティブと日本の貢献のベスト・ミックスを見いだすことが望まれる。

(2) 関係国におけるニーズの整理と広域協力案件の有効性の検討

既述のとおり、広域協力案件には、その案件が有効に機能するための条件や利点、そして限界があり、これらの点を通常の二国間協力案件と明確に整理する必要がある。こうした広域協力案件の長所と短所を踏まえたうえで、関係国内における開発ニーズが広域協力案件で解決できるものがある場合には、その開発ニーズに応じて、二国間協力の枠組みで個別に協力を行うことも考えるべきである。その際には、両者（広域協力案件と二国間協力案件）の明確な区分けと連携が不可欠である。

(3) 広域協力案件の実施

本プロジェクトは、日本とタイの間で討議議事録を交わして協力の枠組みを形成したが、今後の同様の広域協力案件を実施する際には、日本と他のすべての関係国からの投入など関与のあり方についてあらかじめ協議、整理しておく必要がある。また広域協力案件の運営や意思決定のあり方についても、関係国の援助窓口機関・実施機関やJICA事務所及びJICA本部の間で関与の方法につき整理しておく必要がある。

5-3 その他

CLMでは薬物分析の基礎的レベルには達したが、各国の能力格差を解消するための支援が期待される。またONCBの調整の下に域内薬物対策を更に取り進めるため、タイ及びCLMV諸国の関係機関の連携強化が望まれる。

調査団は、本件分野の重要性にかんがみ、日本政府関係機関に更なる協力に関するこれらの点につき伝達することとした。

付 属 資 料

1. 調査日程
2. 主要面談者
3. ミニッツ（写）
4. 当初のPDM（PDMo）
5. 評価用のPDM（PDMe）
6. プロジェクトの達成状況
7. 評価グリッド調査結果表
8. 日本側投入実績
9. CLMV側投入実績
10. 国際ワークショップ発表資料

1. 調査日程

月日		行 程			
		東野団員	小西団員	森本団長	花井団員
2月6日	(日)		10:45成田発→15:55ハノク着 (JL717)		
2月7日	(月)	AM	08:15ハノク発→09:25ピエンチャン着 (TG690)	/	
		PM	JICA事務所打合せ/日本大使館表敬 LCDC協議, ラオス警察(薬物取締部門)協議		
2月8日	(火)	AM	FDQCC(Lab)協議		
		PM	LCDC協議, JICA事務所報告		
2月9日	(水)	AM	10:30ピエンチャン発→11:35ハノク着 (TG691)		
		PM	プロジェクト専門家との協議		
2月10日	(木)	AM	08:15ハノク発→09:00ヤンゴン着 (TG303)		
		PM	JICA事務所打合せ/日本大使館表敬 CCDAC(薬物取締部門)協議		
2月11日	(金)	AM	CEO(Lab)協議		
		PM	CCDAC協議, JICA事務所報告 19:45 ヤンゴン発→21:25ハノク着 (TG306)		
2月12日	(土)		ミニッツ案作成		
2月13日	(日)		ミニッツ案作成		10:45成田発 15:55ハノク着 (TG647)
			17:30 ハノク発→18:45フノン着 (TG698)		
2月14日	(月)	AM	JICA事務所打合せ/日本大使館表敬		
		PM	NACD協議, カンボジア警察(薬物取締部門)協議		
2月15日	(火)	AM	NACD(Lab)協議		
		PM	JICA事務所報告 20:25フノン発→21:30ハノク着 (TG699)		
2月16日	(水)	AM	07:50ハノク発→09:35ハノク着 (TG682)		
		PM	JICA事務所打合せ/日本大使館表敬 SODC協議, タイ警察(薬物取締部門)協議		
2月17日	(木)	AM	IFS(Lab)協議		
		PM	SODC協議, JICA事務所報告 20:35ハノク発→22:25ハノク着 (TG685)	10:45成田初 15:55ハノク着 (JL717)	
2月18日	(金)	AM	ONCB(C/P Interviews)		
		PM	RTP, DMS (Interviews to ex-participants of trainings)		
2月19日	(土)		ミニッツ案作成	11:20ハノク発	10:45成田初
			団内打合せ	19:00成田着TG640	15:55ハノク着(JL717)
2月20日	(日)		ミニッツ案作成		
2月21日	(月)	AM	ONCB協議		
		PM			
2月22日	(火)	AM	ミニッツ協議(計画達成度)		
		PM	ミニッツ協議(5項目評価)		
2月23日	(水)	AM	ミニッツ作成		
	Holiday	PM	ミニッツ作成		
2月24日	(木)	AM	ミニッツ協議(改訂案確認)		
		PM			
2月25日	(金)	AM	国際ワーケショップ		
		PM	ミニッツ署名 JICA事務所報告		
2月26日	(土)		08:30ハノク発→16:10成田着 (JL708)		

<注>

- ラオス LCDC: Focal Point & Drug Law Enforcement in Laos
FDQCC: Drug Analysis Laboratory in Laos
- ベトナム SODC: Focal Point & Drug Law Enforcement in Vietnam
IFS: Drug Analysis Laboratory in Vietnam
- カンボジア NACD: Focal Point & Drug Law Enforcement, Drug Analysis Laboratory in Cambodia
- ミャンマー CCDAC: Focal Point & Drug Law Enforcement in Myanmar
CEO: Drug Analysis Laboratory in Myanmar
- タイ ONCB: Focal Point & Drug Law Enforcement, Drug Analysis Laboratory in Thailand
RTP: Royal Thai Police (Drug Law Enforcement & Drug Analysis)
DMS: Department of Medical Science (Impurity Profiling)

2. 主要面談者

タイ

タイ薬物統制委員会事務局(ONCB)

1. Pol. Lt. Gen. Krisna Polananta, Secretary-General, NCB
2. Mr. Chartchai Suthiklorn, Deputy Secretary-General, NCB
3. Mr. Sukhum Opasniputh, Director of NLEB, ONCB
4. Ms. Rachanikorn Sarasiri, Director of the Foreign Affairs Division, ONCB
5. Ms. Anchalee Sirisup, Director of the Human Resource Division, ONCB
6. Mr. Surasit Buasup, Director of the Information Technology Center, ONCB
7. Mr. Vichet Puthaviriyakorn, Director of Narcotics Analysis and Technical Services Institute, ONCB
8. Ms. Kulaphan Rataroon, Foreign Affairs Bureau, ONCB
9. Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj, Narcotics Analysis and Technical Services Institute, ONCB
10. Ms. Juthamard Phorachata, Narcotics Analysis and Technical Services Institute, ONCB
11. Ms. Khanitha Limvanich, Information Technology Center, ONCB
12. Mr. Chotipun Jullapech, Senior Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB
13. Mr. Kraivudh Maneeratana, Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB

タイ警察薬物取締官

1. Pol. Lt. Col. Preecha Abudulloh, Narcotics Suppression Bureau, RTP
2. Pol. Lt. Col. Thongmoh Larlarb, Narcotics Suppression Bureau, RTP
3. Pol. Maj. Chaiyapron Boonjarion, Narcotics Suppression Bureau, RTP
4. Pol. Capt. Suthirat Tochampa, Narcotics Suppression Bureau, RTP
5. Pol. Capt. Boonleerd Pantor, Narcotics Suppression Bureau, RTP
6. Mr. Sukhon Choothong, Supervisor, Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB
7. Mr. Teenavudh Bunnag, Senior Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB
8. Mr. Jakapol Polpanich, Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB

タイ警察及びタイ医科学局(DMS)

1. Pol. Maj. Gen. Chookiat Chimpanich, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
2. Pol. Lt. Col. Sunan Fupleum, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
3. Pol. Capt. Achara Narkraikhing, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
4. Ms. Dungphon Aphikantaphan, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
5. Mr. Adisak Manlin, Department of Medical Sciences, RTP

ONCB 情報技術センター(ITC)帰国研修員

1. Ms. Sirinun Varavarn na ayuthaya, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB

2. Ms. Sasitorn Suttichat, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB
3. Mr. Rachane Punyaratabandhu, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB
4. Mr. Kridsana Yensudjai, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB
5. Ms. Jiraporn Rotjanakoh, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB

カンボジア

カンボジア国家薬物対策本部(NACD)

1. Lieutenant General Teng Savong, Secretary General of National Authority for Combating Drugs
2. Chamroun Ngan, Deputy Secretary General
3. Col.Phorn Boramy, Director of International Cooperation
4. Huort Sopahly, Deputy Director of International Cooperation Department, Assistant to Gen.Permanent Deputy Secretary General

薬物研究所

1. DR. Meas Vyrith, Director of Narcotic Laboratory,
2. Mrs.Chhim Sithbbunaitit, Chief of the Bureau of Technical Science
3. Ms. Leng Sophear, Chief of the Bureau of Technical Science
4. Mr. Ros CHenda

ラオス

ラオス国家薬物統制管理委員会(LCDC)

1. Mr.Linthong PHETSAVANH, Head of Permanent Secretariat, Prime Minister's Office, LCDC
2. Mr.Viloun SILAPRANY, Acting Director, Law Enforcement Division, LCDC

食料薬物品質統制センター(FDQCC)

1. Dr. Latsamay Vongsack, Director, FDQCC
2. Ms. Ang Many, Chief of Narcotic and Psychotropic Dept. Forensic Laboratory.

安全保障省薬物対策課(Department of Drug Control, Ministry of Security)

1. Mr. Somphone Vongsuti, Colonel, Director of Department of Drug Control
2. Mr. Thongsy Xayaphavong, Colonel, Director of Cabinet, Department of Drug Control
3. Mr. Ounchan, Colonel, Chief of International Relation Division
4. Mr. Bounsy, Police Captain, Deputy Chief of International Relation Division
5. Mr. Phetosomphou, Colonel, Investigation Officer
6. Mr. Vongphet, Officer, Department of Drug Control
7. Ms. Khamkong, Police Captain, Detective Officer

8. Mr. Khamsing, Police Captain, Detective Officer
9. Mr. Chaiphone, Police Captain, Vientiane Capital Drug Control Office
10. Mr. Khamhak, Police Captain, Vientiane Capital Drug Control Office
11. Mr. Viengsavanh, Police Captain, Vientiane Capital Drug Control Office
12. Mr. Viengsavath, Police Captain, Drug Control Department
13. Mr. Khamphuang, Police Captain, Drug Control Department

ミャンマー

ミャンマー薬物乱用統制中央委員会(CCDAC)

1. Col. Kham Awng, Joint Secretary, CCDAC, Ministry of Home Affairs
2. Colonel Thien Kyi , Director of International Cooperation, CCDAC, Ministry of Home Affairs
3. Lietenant Kyi Soe, Direcor of Law Enforcement, CCDAC, Ministry of Home Affairs
4. Tun Tun Oo, Deputy Director of International Cooperation, CCDAC, Ministry of Home Affairs
5. Dr. Tin Aung Thien, Director, Office of the Chemical Examiner

薬物取締官(帰国研修員)

1. Pol. Lt. Hla Oo, TOC M.PForce(Third)
2. Pol. Sec. Lt. Zaw Myo Lwin, Pegu Task Force (Fourth)
3. Pol. Lt. Than Aung, Pegu Task Force(First)
4. Pol. Sec. Lt. Tay Zar Lwin, Yangon Task Force
5. Pol. Lt. Myo Myint, Yangon Task Force
6. Pol. Lt. Aung Myo Zaw Lwin, Yangon Task Force
7. Pol. Sec. Lt. Soe Kyaw Hlaik, Financial Investigation Team
8. Pol. Lt. Kyaw Min Thu, CCDAC
9. Pol. Sec. Lt. Moe Sein, Yangon International Airport
10. Pol. Lt. Min Zaw, CCDAC

ミャンマー科学検査所(CEO)

1. Dr. Tin Aung Thien, Director, Chemical Exnaminers' Office
2. MR. Saw Henry, Assistant Director, Narcotic Section, Chemical Exnaminers' Office
3. Mr. Nyan Min Tun, Staff Officer, Narcotic Section, Chemical Exnaminers' Office

薬物対策課(Anti Drug Department)

1. Brigadier General Moek Dara, Director of Anti-Drug Department
2. Colonel. Chan Supal, Deputy Director of Anti-Drug Department,
3. Lt. Colonel Ched Leng, Chief of Anti-Money Laundering
4. Lt. Colonel Khoun Sophan, Chief of Investigation Office

5. First Lieutenant, Song Try, Deputy Chief of Section of Anti Drug Department, Phnom Penh Commission

ベトナム

ベトナム薬物統制常任事務所(SODC)

1. Pol. Sr. Col. Mr. Bui Xuan Bien, Director , Standing Office on Drugs Control of Vietnam
2. Pol. Col. Mr. Bui Xuan Hieu, Division Chief , Standing Office on Drugs Control of Vietnam
3. Pol. Lt. Col. Mr. Nguyen Ngoc Giao, Senior Expert , Standing Office on Drugs Control of Vietnam
4. Pol. Col. Mr. Do Quang Minh, Senior Expert , Crime Investigation Agency, Ministry of Public Security
5. Pol. Lt. Mr. Cao Hoang Long, International Relations Expert, Standing Office on Drugs Control of Vietnam

国境防衛軍(Border Army)

1. Sr. Col. Mr. Nguyen Sinh Xo, Director, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
2. Sr. Col. Mr. Bui Quang A, Deputy Director, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
3. Sr. Col. Mr. Nguyen Dinh Son, Division Chief, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
4. Maj. Mr. Trinh Xuan San, Officer, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
5. Capt. Do Tien Dung, Officer, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
6. Lt. Mr. Nguyen Thanh Tung, Officer, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter

ベトナム刑事科学研究所(IFS)

1. Prof, NGO TIEN QUY, Director of Institute of Forensic Science,
2. Prof. HOAN MANH HUNG, Vice Director, Director of Center of Drug Expertise,
3. Mr. Du Dinh Dong, Vice Director, Center of Drug Expertise
4. Mr. Ngyen Day Tien, Analysts, IFS, Ho Chi Minh
5. Mr. Ngyen Xuang Truong, Control and Supervision, Office of the Central Drug Expertise

MINUTES OF MEETING BETWEEN
THE JAPANESE EVALUATION TEAM AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE KINGDOM OF THAILAND ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE REGIONAL COOPERATION PROJECT ON CAPACITY BUILDING OF
DRUG ANALYSIS FOR IMPROVEMENT OF DRUG LAW ENFORCEMENT
IN
THAILAND, CAMBODIA, LAO P.D.R., MYANMAR AND VIETNAM

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Yasuhiro Morimoto, visited Thailand, Cambodia, Lao P.D.R., Myanmar and Vietnam from February 6 to February 26, 2005.

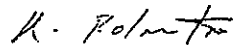
During its stay in Thailand, the Team had a series of discussions with the Thai authorities concerned and jointly evaluated the achievements of The Regional Cooperation Project on Capacity Building of Drug Analysis for Improvement of Drug Law Enforcement (hereinafter referred to as "the Project") and exchanged views on the Project activities to fulfill the Record of Discussions signed on June 11, 2002.

As a result of the discussions, the Team and the Thai authorities concerned agreed to report to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Bangkok, February 25, 2005



Mr. Yasuhiro Morimoto
Team Leader
Japanese Evaluation Team
Japan International Cooperation Agency
Japan



Pol. Lt. Gen. Krisna Polananta
Secretary-General
Narcotics Control Board
Ministry of Justice
The Kingdom of Thailand

ATTACHED DOCUMENT

TABLE OF CONTENTS

1. INTRODUCTION

1-1. Preface

1-2. Objectives of Evaluation

1-3. Schedule of the Japanese Evaluation Team

1-4. Evaluators

1-4-1. Japanese side

1-4-2. Thai side

1-5. Methodology of Evaluation

2. BACKGROUND AND SUMMARY OF THE PROJECT

2-1. Background of the Project

2-2. Summary of the Project

3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT

3-1. Achievement of Inputs

3-2. Achievement of Outputs

4. EVALUATION

4-1. Relevance

4-2. Effectiveness

4-3. Efficiency

4-4. Impact

4-5. Sustainability

5. CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS

5-1. Conclusion of the Evaluation

5-2. Recommendations

5-3. Lessons Learned

5-4. Others

(ANNEXES)

ANNEX 1: Project Design Matrix for Evaluation

ANNEX 2: Achievement of the Project

ANNEX 3: Evaluation Grid for the Project

ANNEX 4: Organization Chart of the Project

ANNEX 5: List of Participants of Joint Coordination Committee

ANNEX 6: List of Interviewees

1. INTRODUCTION

1-1. Preface

The Project was initiated in June 2002 and will be completed by June 2005. The Japanese Team dispatched by JICA visited the Kingdom of Thailand, the Kingdom of Cambodia, Lao P.D.R., the Union of Myanmar and the Socialist Republic of Vietnam from February 6 to February 26, 2005 for the purpose of evaluating the achievements of the Project as well as its relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability. The evaluation has been undertaken jointly by the Thai authorities concerned and the Japanese Team.

1-2. Objectives of Evaluation

Objectives of the evaluation are as follows:

- 1) To verify the inputs of Thai, and CLMV countries (Cambodia, Lao P.D.R., Myanmar, and Vietnam) and Japanese sides to the Project and summarize the achievement of the Plan of Operation of the Project,
- 2) To execute a comprehensive evaluation on achievements of the Project from the viewpoint of five evaluation criteria, and,
- 3) To make recommendations to the future perspective of the Project and draw lessons learned from the Project for the same field of technical cooperation.

1-3. Schedule of the Japanese Evaluation Team

Date		Schedule
Feb. 6	Sun	Arrival at Bangkok
Feb. 7	Mon	Move to Vientiane, JICA/EOJ, LCDC, Police (LE)
Feb. 8	Tue	FDQCC(Lab), LCDC, JICA(Report)
Feb. 9	Wed	Move to Bangkok
Feb. 10	Thu	Move to Yangon, JICA/EOJ, CCDAC (LE)
Feb. 11	Fri	CEO(Lab), CCDAC, JICA(Report), Move to Bangkok
Feb. 12	Sat	Minutes Making
Feb. 13	Sun	Move to Phnom Penh
Feb. 14	Mon	JICA/EOJ, NACD, Police (LE)
Feb. 15	Tue	NACD (Lab), JICA(Report), Move to Bangkok
Feb. 16	Wed	Move to Hanoi, JICA/EOJ, SODC/Police(LE)
Feb. 17	Thu	IFS(Lab); SODC, JICA(Report), Move to Bangkok
Feb. 18	Fri	ONCB(C/P Interviews)
Feb. 19	Sat	Minutes Making
Feb. 20	Sun	Minutes Making
Feb. 21	Mon	ONCB.(Discussion on project outputs & sustainability) RTP, DMS (Interviews to ex-participants of trainings)
Feb. 22	Tue	Minutes Consultation (Achievement) Minutes Consultation (5 evaluation criteria)
Feb. 23	Wed	Minutes Making
Feb. 24	Thu	Minutes Consultation (confirmation of modifications)
Feb. 25	Fri	International Session among CLMVT+J Signing of Minutes Report to JICA
Feb. 26	Sat	Leaving Bangkok

<Notes>

Laos	LCDC: Lao National Commission for Drug Control and Supervision FDQCC: Food and Drug Quality Control Center
Vietnam	SODC: Standing Office on Drug Control IFS: Institute of Forensic Science
Cambodia	NACD: National Authority of Combating Drugs
Myanmar	CCDAC: Central Committee for Drug Abuse Control CEO: Chemical Examiner's Office
Thailand	ONCB: Office of Narcotic Control Board ITC: Information Technology Center, ONCB RTP: Royal Thai Police DMS: Department of Medical Science

1-4. Evaluators

1-4-1. Japanese Side

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| (1) Mr. Yasuhiro MORIMOTO | Team Leader |
| (2) Mr. Minoru HANAI | Evaluation on Drug Control |
| (3) Mr. Nobuyuki KONISHI | Cooperation Planning |
| (4) Mr. Hideaki HIGASHINO | Evaluation Analysis |

1-4-2. Thai Side

- | | |
|---------------------------------|--|
| (1) Ms. Rachanikorn Sarasiri | Director of Foreign Affairs Bureau, ONCB |
| (2) Ms. Anchalee Sirisabphya | Director of HRD Institute on Narcotics Control, ONCB |
| (3) Ms. Kulaphan Rataroon | Foreign Affairs Bureau, ONCB |
| (4) Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj | Narcotics Analysis and Technical Service Institute, ONCB |
| (5) Ms. Khanitha Limvanich | Information Technology Center, ONCB |
| (6) Mr. Kraivudh Maneeratana | Narcotic Law Enforcement Bureau, ONCB |
| (7) Ms. Suthanone Fungtanmasan | Senior Programme Officer, Evaluation Unit, TICA |

1-5. Methodology of Evaluation

The evaluation study was conducted in accordance with the JICA's Project Cycle Management method in the following steps:

- 1) The Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") attached in the Record of Discussions (R/D) signed in June 11, 2002 was agreed by the both sides to be revised as Project Design Matrix for Evaluation (hereinafter referred to as "PDMe") and to be used as PDM for final evaluation which is shown in Annex 1.
- 2) Achievement of the Project was studied by collecting data and other relevant information.
- 3) Analysis was made from the viewpoint of five evaluation criteria as described below.

(1) Relevance

A criterion for considering the validity and necessity of a project regarding whether the expected effects of a project (or project purpose and overall goal) meet with the needs of target beneficiaries; whether a project intervention is appropriate as a solution for problems concerned; whether the contents of a project is consistent with policies; whether project strategies and approaches are relevant, and whether a project is justified to be implemented with public funds of ODA.

(2) Effectiveness

A criterion for considering whether the implementation of project has benefited (or will benefit) the intended beneficiaries or the target society. Effectiveness is assessed by examining the extent to which the Project has achieved its purpose, and by clarifying the relationship between that purpose and outputs.

(3) Efficiency

A criterion for considering how economic resource/inputs are converted to results: The main focus is on the relationship between project cost and effects. Efficiency of the Project implementation is analyzed with emphasis on relationship between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity.

(4) Impact

A criterion for considering the effects of the project with an eye on the longer term effects including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended. Impact of the Project is assessed by either positive or negative influence caused by the Project.

(5) Sustainability

A criterion for considering whether produced effects continue after the termination of the assistance. Sustainability of the Project is assessed in terms of organizational, financial and technical aspects by examining that to what extent the achievement of the Project be sustained or maintained after the Project's completion.

The following references were used in order to evaluate the Project:

- 1) Record of Discussions (R/D) signed in June 2002
- 2) Reports made by the Project
- 3) Interviews with the Japanese experts, the Thai counterparts and the related departments and organizations in CLMV countries conducted by Japanese Evaluators
- 4) Questionnaire surveys to the counterparts, drug analysts, law-enforcement officers and other stakeholders

5) Project Design Matrix for Evaluation (PDMe)

Finally, the Evaluators of both countries had a series of discussions and reached an agreement on the conclusion of the evaluation and made recommendations.

2. BACKGROUND AND SUMMARY OF THE PROJECT

2-1. Background of the Project

Narcotic drug issues are a long-standing problem in the Indo-china region. Despite continuous efforts to tackle the drug problems in the past four or five decades, the drug problems have further grown along with changes to the economic and social fabrics of societies. In recent years, illicit manufacture, trafficking, and abuse (particularly among youths) of amphetamine-type stimulants (ATS) have been serious social problems in addition to the former traditional drug problems related to opium and heroin. This phenomenon has placed direct and indirect negative impacts on the socio-culture, economic development, and national security of the countries. Moreover, illicit drug problems are inherently complex issues, and as they are difficult to fight as an individual domestic problem, it is inevitable that they should be tackled within a sub-regional and international framework.

It is well recognized that the drug problems are urgent issues and drug analysis techniques are required to enhance law enforcement capabilities. Development of drug analysis techniques in Thailand and neighboring countries will help to strengthen law enforcement capabilities in the sub-region. In order to achieve this target, the Government of Thailand made a request to the Government of Japan for cooperation to strengthen law enforcement capabilities through the improvement of drug analysis techniques.

In response to the request from the Thai Government, the Japanese Government dispatched several preparatory study teams to assess the feasibility of the proposed project and hold a series of discussions, and the both sides decided to implement The Regional Cooperation Project on Capacity Building of Drug Analysis for Improvement of Drug Law Enforcement for the period of three years by signing the Record of Discussions in June 2002.

2-2. Summary of the Project

The Project has been implemented based on the Project Design Matrix (PDM) and the Plan of Operation (PO) attached to R/D signed in June 2002. In the course of final evaluation study, the both sides revised PDM and prepared PDMe for evaluation.

3. ACHIEVEMENTS OF THE PROJECT (ANNEX 2)

3-1. Achievement of Inputs

3-1-1. Inputs from the Japanese side

1) Long-term experts

- 3 persons (85.0 M/M as of the end of January 2005; Chief Advisor/Law Enforcement, Drug Analysis and the Drug Information System)

2) Short-term experts

- 5 persons (10.8M/M in total; five (5) for Drug Law Enforcement)

3) Counterpart Training

- 14 persons attended trainings in Japan.
- 41 persons attended trainings in Thailand.

4) Provision of Equipment

The equipment provided by JICA is approximately equivalent to 94,363 thousand yen from 2002 to 2005.

The major items include gas chromatographs (7 units) and gas generators (4 units), high performance liquid chromatograph (1 unit), and computer servers (2 units) and their peripheral devices such as monitors, printers, and UPS, etc.

Thai Baht (10 ³)	Japanese Yen (10 ³)	U.S. Dollar (10 ³)
37,824	102,352	975

(Exchange rate: 1.0 USD = THB 38.8 = JPY105)

5) Operation Expenses

Operation expenses for international seminars, regional cooperation, and local consultant contract, etc. amounted to 21,343 thousand Thai baht from 2002 to 2005.

Thai Baht(10 ³)	Japanese Yen (10 ³)	U.S. Dollar (10 ³)
21,343	57,626	549

(Exchange rate: 1.0 USD = THB 38.8 = JPY105)

3-1-2. Inputs from the Thai side

1) Counterpart Personnel necessary for the Project

- 11 Counterpart staffs

2) Land Facilities and Equipment

ONCB provided the following costs and materials:

- A laboratory for drug analysis, necessary facilities and office space for the Japanese Experts in ONCB
- Reagents for drug analysis

3) Running cost, tools and materials

- Approximately 750 thousand Thai baht (maintenance of equipment and consumable materials) from 2002 to 2005
- Utilities (water and electricity) for the provided facilities
- Domestic communication costs
- Stationeries and consumables for the trainings under the Project conducted in Thailand
- The cost for CLMV trainings was mostly born by the Japanese Government

4) Other contribution

- The Thai Government also provided counterpart fund and privileges accorded to the Japanese Experts and other privileges to facilitate the Project inputs through TICA.

3-1-3. Inputs from CLMV countries

1) Implementing Officers necessary for the Project

- Two drug analysts from each CLMV countries as trainees

2) Land Facilities and Equipment

- Equipped laboratories for GC operation

3) Running cost, tools and materials

- Utilities (water and electricity) and general office supplies for trainings conducted in each CLMV country
- Reagents for drug analysis in Vietnam
- In Cambodia and Vietnam, reagents for law enforcement seminars

3-2. Achievement of Project Outputs

1) Outputs for CLMV countries

Output 1: Drug analysts in CLMV countries will acquire the knowledge and technique on qualitative and quantitative analysis.

Before the Project implementation, there were no GCs in laboratories related to drug analysis in CLMV countries, except for Vietnam.

Based on the self-evaluation by drug analysts in CLMV countries, the number of drug analysts capable to make a full use of GC in the CLMV countries has increased as shown in the table below:

Country	Numbers of Analysts (1)	
	2002	2005
Cambodia	0/4	4/8
Lao P.D.R.	0/4	2/4
Myanmar (CEO Yangon)	0/13	2/13
Vietnam (IFS Hanoi & Ho Chi Minh City)	12/28	13/22

Note (1): numbers of the drug analysts capable to make full use of GC / total numbers of analysts

Output 2: Core staff of laboratory in each CLMV country will acquire the knowledge and technique on impurity profiling.

According to the interview results, in each CLMV country, the core staffs of laboratory in each CLMV countries have acquired the knowledge and technique on impurity profiling.

The number of drug analysts who acquired the knowledge and technique on impurity profiling is as shown in the table below:

Country	Numbers of Analysts (1)	
	2002	2005
Cambodia	0/4	2/8
Lao P.D.R.	0/4	2/4
Myanmar (CEO Yangon)	0/13	2/13
Vietnam (IFS Hanoi & Ho Chi Minh City)	0/28	4/22

Note: (1) numbers of the drug analysts who acquired the knowledge and technique on impurity profiling/ total numbers of analysts

Output 3: Drug investigators in CLMV countries will acquire the knowledge and technique on law enforcement related with drug analysis.

In total, 209 law enforcement officers attended trainings and seminars under the Project.

According to the comments of attendants obtained through interviews and questionnaire surveys, it is judged that they acquired knowledge on systematic and legal law enforcement procedures, including the usage of pre-test kits (on-site color test kits).

Knowledge and skills acquired in the seminars are transferred to fellow officers through O.I.T.

2) Outputs for Thailand

Output 4: Adequate number of drug analysts in provincial and regional laboratories of the Royal Thai Police (RTP) and the Department of Medical Science (DMS) will acquire the knowledge and technique on quantitative analysis.

There is no base line data available for the numbers of drug analysts who had knowledge and technique on qualitative analysis in RTP and DMS in 2002. Under the Project, 10 analysts from RTP Central Laboratory and 40 analysts from RTP Regional and Provincial Laboratories attended the trainings. According to results of the self-evaluation by drug analysts in RTP and DMS, the numbers are considered to have increased.

The numbers of drug analysts in RTP and DMS in 2005 are as shown in the table below:

Organization	Numbers of Analysts (1)	
	2002	2005 (2)
RTP Central Laboratory	n/a	10/10
RTP Regional & Provincial Laboratory	n/a	70/70
DMS Central Laboratory	n/a	17/17

Note: (1) numbers of the drug analysts who have knowledge and technique on quantitative analysis / total numbers of analysts, (2) total numbers of RTP regional and provincial laboratories are estimate.

Output 5: Core staff of drug analysts of the RTP as well as DMS will acquire the knowledge and technique on impurity profiling.

Based on oral interview results, in RTP and DMS, the core staffs of have acquired the knowledge and technique on impurity profiling.

The numbers of drug analysts who acquired the knowledge and technique on impurity profiling in RTP and DMS are as shown in the table below:

Organization	Numbers of Analysts (1)	
	2002	2005 (2)
RTP Central Laboratory	0/10	1/10
RTP Regional & Provincial Laboratory	0/70	12/70
DMS Central Laboratory	0/12	1/12

Note: (1) numbers of the drug analysts who acquired the knowledge and technique on impurity profiling / total numbers of analysts, (2) total numbers of RTP regional and provincial laboratories are estimate values.

Output 6: Drug investigators in RTP will acquire the knowledge on law enforcement related with drug analysis.

In total, 45 ONCB and RTP officers attended seminars under the Project.

According to the achievement of the seminars and the comments of attendants, it is judged that the number of law enforcement officers of RTP who have knowledge on law enforcement activities has increased.

Output 7: Flow chart of analysis result from laboratory via system to law enforcement will be formulated.

The establishment of the Drug Analysis Information System in ONCB is behind the original schedule due to technical difficulties of connecting the main frame in ITC to the Drug Analysis Information System.

However, possible countermeasures are taken to accelerate the system development and the development will be completed by the end of the cooperation period.

4. EVALUATION (ANNEX 3)

4-1. Relevance

Relevance of the Project is high based on the following reasons:

1) Consistency with the National Policies of Thailand and CLMV countries

Drug issues are a long-standing problem in the Indo-china region. During the past four or five decades, the countries in the region have made continuous and comprehensive efforts to tackle the problem. However, despite their efforts, drug problems have further growth along with changes to the economic and fabrics of the societies:

In recent years, illicit manufacture, trafficking and abuse of amphetamine-type stimulants (ATS) have been serious social problems replacing the production of opiate which has fallen drastically because of eradication efforts by the governments of Thailand and CLMV countries.

Based on the recognitions, four countries, Thailand, China, Myanmar and Lao P.D.R. agreed on a Memorandum of Understanding (MOU) of the United Nations International Drug Control Program (UNDCP) in 1993 to strengthen drug law enforcement activities to suppress drug supply and to formulate a sub-regional action plan to reduce demand in the sub-region. Later in 1995, the MOU was extended to Cambodia and Vietnam.

In 1999, there was a Senior Official Meetings and Ministerial Meeting of MOU countries held in May 1999 in Vientiane, Lao P.D.R.. The parties agreed to sign a new project entitled the Development of Cross Border Law Enforcement Cooperation in East Asia.

Under the 9th National Economic and Social Development Plan (2002-2006), the government of Thailand aims at sustainable development by keeping social stability based on the reflection of the former rapid economic development. In the plan, drug issues are considered one of the main priorities in addition to the development focused on the poor, farmers, rural areas and small-scale enterprises.

2) Consistency with the needs of the target groups

In order to tackle the drug issues effectively, it is prerequisite that sufficient numbers of drug analysts have knowledge and skills of qualitative and quantitative analysis and impurity profiling thereby enhancing law enforcement operations.

Drug analysts in Thailand, staffs at Narcotic Law Enforcement Bureau and Information

Technology Center of ONCB, have a mandate of directly related to the control of synthetic drugs in Thailand and support the drug control in CLMV countries.

Similarly, drug analysts of CLMV countries have mandates of controlling drugs by enhancing law enforcement operations based on the improved knowledge and skills of qualitative and quantitative analysis and impurity profiling.

The size of the target groups is considered to be adequate for Thailand and CLMV countries since the Project tries to target major part of the drug analysts in Thailand and CLMV countries, as well as the staffs of Narcotic Law Enforcement Bureau and Information Technology Center of ONCB.

3) Consistency with the Japanese Policy

Japanese Government puts high priority on "global issues" as one of the four priority issues in the ODA Charter (August 2003). In the Charter, Japanese government emphasizes that addressing problems on a global scale, such as global warming, epidemic disease, population growth, food, energy, disaster, terrorism, narcotic drugs, and international crime, is one of the most important points for foreign assistance.

The Project is a regional cooperation project concerning drug issues, and complements Japan's aid policy toward the sub-region.

4) Consistency with the JICA's aid policy

The major fields of technical cooperation by JICA, in line with the prioritized field of Thailand are; 1) social sector, 2) environmental protection, 3) rural development, 4) economic infrastructure, and 5) supporting regional cooperation.

In the field of regional cooperation support, drug control issues in Indo-china region are included.

5) Relevance of the Project as a means (regional cooperation approach)

Large amount of drugs, such as ATS, is produced illegally through international syndicates, and consequently, drug abuse has expanded among the societies and placed direct and indirect negative effects on the societies of Thailand as well as those of Indo-china countries.

Development of drug analysis techniques is urgently required in Thailand and the neighboring CLMV countries to strengthen law enforcement capabilities in these countries. The drug problems cannot be solved by an effort of a single country and it is inevitable that they should be tackled within a sub-region and international framework.

4-2. Effectiveness

Effectiveness of the Project is high based on the following reasons.

1) Achievement of the Project Purpose:

Project Purpose: Accurate drug analysis (qualitative and quantitative analysis and impurity profiling) will be used practically to strengthen law enforcement capabilities in Thailand and CLMV countries.

The achievement of the Project Purpose is satisfactory. Capability of drug analysts and law enforcement officers of Thailand and CLMV countries have been enhanced through the trainings and seminars intensively conducted by the Japanese Experts and Thai counterpart staff during the past two and half years.

Drug analysts in Thailand and CLMV countries improved their knowledge of qualitative and quantitative analysis and impurity profiling, and acquired capability to execute the analysis on GCs. As a result, the efficiency of the analytical procedures improved and accuracy of the analysis results was ensured.

In addition, in CLMV countries, improved knowledge of law enforcement officers on systematic law enforcement operations, especially, the usage of pre-test kits, contributed to the enhancement of the of law enforcement operations.

Impurity profiling

Impurity profiling was a new drug analysis technique introduced to both Thailand and CLMV countries under the Project. In Thailand, as a result of the Project implementation, impurity profiling is conducted on regular basis and contributes to successful law enforcement operations. The number of analysis is 2,070 as of February 2005.

In CLMV countries, impurity profiling started recently and there are still limited numbers of analysis conducted (Cambodia: 30 samples, Laos: 13 samples, Myanmar 13 samples, Vietnam: 30 samples). In Vietnam, however, it was reported that impurity profiling has already contributed to 10 actual cases.

Qualitative and quantitative analysis

Qualitative and quantitative analysis is conducted on routine basis in Thailand and almost on routine basis in CLMV countries and contribute to effective law enforcement operations and court trials to draw accurate assessment of offence.

Impact of the analysis technique on law enforcement activities

There was a strong impact on the law enforcement activities through the improved efficiency of the analysis procedures and accuracy on analysis results.

2) Achievements of the Outputs

As was summarized in 3-2., most of the Outputs achievements were successful. The Outputs contributed to the achievement of the Project Purpose.

3) External factors

There are external factors that contributed to the achievement of the Project Purpose.

Contributing factors:

Before the Project implementation, technical guidance by a Japanese Expert on drug analysis was conducted to ONCB drug analysts for three years, under individual expert dispatch scheme. During the three years, basic knowledge and skills of drug analysts in ONCB were enhanced and instruction materials were prepared. Technology transfer in the Project period was smoothly performed taking advantages of the foundation laid during the individual expert dispatch.

Inhibiting factors

There were unstable periods in terms of international politics during the past two and half years among participating countries.

As a result, dispatch of Japanese Experts for trainings/seminars to Cambodia and Myanmar was postponed and make-up trainings were conducted in 2003 to the trainees from Cambodia and Myanmar.

4-3. Efficiency

Efficiency of the Project

The efficiency of the Project is considered to be high.

Inputs from the Japanese side

Inputs from the Japanese side for the Project have been executed as described in R/D and are considered appropriate in terms of timing, quantity and quality. Technical guidance by Japanese Advisors to Thai counterpart staffs, training in Japan and Thailand, and visiting trainings/seminars in CLMV countries, were effectively combined to generate Outputs.

Inputs from Thai side

Inputs from the Thai side were appropriately done in terms of allocation of counterpart staff and facilities. However, the cost for CLMV trainings was mostly born by the Japanese Government.

Inputs from CLMV countries

Inputs from CLMV countries are acceptable, in terms of allocation of personnel since the same two core drug analysts continuously attended the trainings in most cases as described in R/D. In terms of facilities, there remain problems with laboratory infrastructures to smoothly operate GCs and supply of reagents for drug analysis.

4-4. Impact

1) Prospect of Overall Goal Achievement

Overall Goal: The drug-related agencies in Thailand and CLMV countries will acquire higher level of law enforcement capabilities in drug analysis and intelligence gathering.

It is considered that capability of drug analysts and law enforcement officers were successfully enhanced through the trainings and seminars conducted under the Project. Technical foundation was laid for drug-related agencies in Thailand and CLMV countries to acquire higher level of law enforcement capabilities in drug analysis and intelligence gathering during three to five year after the termination of the Project cooperation period. Therefore, the prospect of the Overall Goal achievement is high.

However, the following conditions should be satisfied:

- Current Project activities will continue by the hand of ONCB with close collaboration of drug-related organizations of CLMV countries, and,
- Development of the Drug Analysis Information System is not greatly delayed.

2) Impacts generated through the implementation of the Project.

Various and many positive impacts are observed at the time of final evaluation.

Policy aspect

In Cambodia, amendment of criminal procedure laws is under the process of the approval by the national assembly. The implementation of the Project is considered to have an influence on the movement through the exchange of opinions and information of the relevant governmental officers during the participation of the international seminars under the Project.

Institutional aspect

After the two and half years of the commencement of the Project, drug analysts acquired knowledge and skills necessary to execute their duties. From the results of the interviews, they have more confidence and show positive attitudes toward their duties.

During the Project implementation, ONCB laboratory became an independent institution from the Narcotics Law Enforcement Bureau because of the increasing importance of the impurity profiling.

Institute of Forensic Science became the administrative organization for impurity profiling in Thailand.

ONCB is recognized internationally as a core drug control organization in Indo-china region through the activities of the Project. In the Training in Thailand in 2004, Indonesian drug analysts attended to learn about impurity profiling.

Technical aspects

Through the trainings under the Project, majority of the drug analysts and law enforcement officers have acquired knowledge and skills necessary to conduct their duties.

In particular, introduction of GCs enabled the impurity profiling, a new technique to Thailand and CLMV countries. GCs also brought about improved efficiency and accuracy of drug analysis in CLMV countries.

In terms of law enforcement officers in CLMV countries, pre-test kits are widely and regularly used on the seized drugs before further analysis in the drug analysis laboratories.

ONCB drug analysis C/Ps introduced a standardized tool-mark and impurity profiling system to other relevant agencies in Thailand.

A paper entitled "*Identification of impurities and statistical classification of Methamphetamine tablet (Ya-ba) seized in Thailand*" was prepared through the Project activities for an international journal "*Forensic Science International*"-Vol. 126, 2002.

ONCB produced four academic textbooks on drug analysis in 2002, 2003, and 2004 and distributed them to Thai drug control agencies.

International interaction among drug analysts was created through the participation of the seminars/trainings under the Project and helped exchange and enhance information among themselves.

Social Impacts

CCDAC of Myanmar administers their own website and publicizes the achievement of drug law enforcement activities.

At the moment of the final evaluation, it is still too early to evaluate the social impacts and no obvious social impacts are observed. However, the Project should have indirect impacts on societies by contributing to solving illicit drug problems through integration of drug analysis techniques and drug information system.

4-5. Sustainability

Sustainability of the Project is satisfactory.

Policy aspects

The effect that the Project is aiming for is highly in line with the national policy of Thailand and CLMV countries and the concept of the regional cooperation approach is suitable to enhance the effects of the Project.

Therefore, it is expected that ONCB, the implementing agency, will receive continuous support

from the government of Thailand after the termination of the cooperation period.

The Project has high relevance not only with Thai policy but also with the policies of CLMV countries. Collaboration among participating countries will be sustained in terms of drug control.

Institutional aspects

ONCB is a coordinating body for controlling drug problems in Thailand and considered to have the required organizing capability for the sub-region.

ONCB has only seven drug analysts in its laboratory. ONCB has a plan to employ more analysts to conduct the routine works so the Project C/Ps can maintain the present Project activities when the Project cooperation terminates.

Financial aspects

ONCB is a central organization to control drugs in Thailand with total staffs of 753 permanent officers and there will be no serious financial problem with the continuation of drug control activities by ONCB.

In CLMV countries, however, budget to conduct drug control activities is not fully secured.

Technical aspects

Thailand: Technical transfer has been fully established in ONCB, RTP and DMS.

CLMV countries: Taking into account the status before the Project implementation, technical transfer has been sufficiently achieved to CLMV countries in terms of the standard set under the Project.

Transfer of knowledge to fellow analysts is conducted basically OJT basis.

Currently, GCs are operated without serious problems in CLMV countries. However, maintenance of GCs, and stable supply of reagents both for drug analysis and for pre-test kits for law enforcement operations are the issues still posed against Cambodia, Laos and Myanmar.

5. CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS

5-1. Conclusion of the Evaluation

The core drug analysts have acquired the knowledge and technique on accurate drug analysis (qualitative and quantitative analysis and impurity profiling) in Thailand and CLMV countries. Law enforcement officers in Thailand and CLMV countries acquired the knowledge on drug analysis, recognized its significance and came to apply results of drug analysis to law enforcement operation gradually. However, it would be too early to calculate the number of cases in drug analysis contributing to actual law enforcement activities considering the limited duration of the Project. But it shows a tendency to increase and law enforcement capacity is expected to be strengthened in the near future. Construction of the information system is behind the original schedule, but it is expected to be completed within the cooperation period. Therefore, the initial objective of the Project "to strengthen law enforcement capabilities in Thailand and CLMV countries through enhancement of accurate drug analysis (qualitative and quantitative analysis and impurity profiling)" will be mostly achieved.

Although the technical, financial and institutional situations in Thailand and in each CLMV countries are quite different, the Project has yielded various positive impacts both on drug analysis and on law enforcement;

- 1) Application of knowledge and techniques of drug analysis to actual operation realized accurate and prompt law enforcement,
- 2) Participation in seminars/trainings in and out of CLMVT countries together with relevant law enforcement officers and analysts enhanced sharing of information, collaboration of law enforcement activities and strengthening of linkage among the five countries,
- 3) Criminal procedure law has been in the process of deliberation at the authority concerned in Cambodia reflecting the concept of drug analysis, and
- 4) UNODC has a plan to establish the international framework to apply the drug analysis information, to drug law enforcement to wider regional countries.

5-2. Recommendations

1. Term of cooperation

As mentioned in the previous clause, the initial objective of the Project will be mostly achieved and it is recommended to complete the Project as originally scheduled.

2. Construction of the Drug Analysis Information System

It is recommended that both the Thai and Japanese sides would continue their best efforts to complete construction of the Drug Analysis Information System within the cooperation period.

3. Maintenance of gas chromatograph (GC)

During the Project, Cambodia, Laos and Myanmar had troubles with GCs operation due to unstable electricity supply and lack of reagents, which inhibited the training program on drug analysis in those countries. In order to secure sustainable and self-reliant operation and maintenance of the equipment by each country, it is recommended to find out a feasible way of operation and maintenance in the Project.

4. Further collaboration

In order to attain the Overall Goal of the Project, it is recommended to accelerate the tackling of drug problems based on the collaboration framework established under the Project among Thailand, CLMV countries and Japan.

5-3. Lessons learned

Regional cooperation project, a new challenge both for Thailand and Japan, is considered effective and efficient for tackling cross-border issues like drug problem by formulating an international network with a common goal and with a same standard level. On the other hand, it is also necessary to take into account of differences of situations and needs especially in terms of technical, financial and institutional capacity, as well as other international factors in the region.

Therefore, for the future cooperation, it is expected to work out "Best Mix" of Thai initiatives in the region and Japanese contribution considering the above mentioned conditions, merits and limitation. At the same time, it is necessary to clarify and ensure the engagement of CLMV countries before starting a regional cooperation project.

5-4. Others

In the course of discussions, it was pointed out that, in some countries, capacity of accurate drug analysis has reached at a fundamental level and further support would be expected in order to fill in the gap of each country's capacity. In addition, it was also required to strengthen network of relevant authorities in Thailand and CLMV countries in order to manage further regional drug control program with ONCB coordination.

Understanding the significance, the Team promised to convey these points to the Japanese authorities concerned for consideration of further cooperation.

ANNEX-1: Project Design Matrix for Evaluation (PDME)

Project Title: The Regional Cooperation Project on Capacity Building of Drug Analysis for Improvement of Drug Law Enforcement in Thailand, Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam
Project Period: Three years from June 2002-May 2005
Target group: Drug Analysis in Thailand and the CLMV countries, staffs at Narcotic Law Enforcement Bureau and Information Technology Center of ONCB

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators		Means of Verification		Important Assumptions	
<p>Overall Goal: The drug-related agencies in Thailand and CLMV countries will acquire higher level of law enforcement capabilities in drug analysis and intelligence gathering.</p> <p>Project Purpose: Accurate drug analysis (qualitative, quantitative, impurity profiling) will be used practically to strengthen law enforcement capabilities in Thailand and CLMV countries.</p>		<p>1) The number of arrested cases, crushed clandestine laboratories will increase. 2) The amount and ratio of seized drugs in the estimated production level will increase. 3) Their impact on the law enforcement operations in Thailand and CLMV countries will be noticed.</p>		<p>1) Office Statistics 2) Interview with information offices in concerned countries 1) Record of the number of cases accredited to impurity profiling during the Project period. 2) Interview with key law enforcement officials at the end of the Project period.</p>		<p>- Effective measures will also be implemented in all other law enforcement activities. (1) High level of coordination of ONCB is maintained among concerned agencies in Thailand as well as among drug control agencies in CLMV countries (2) Cooperation among participating countries are ensured.</p>	
<p>Outputs for CLMV Countries 1. Drug analysis in CLMV countries will acquire the knowledge and technique on qualitative and quantitative analysis. 2. Core staff of laboratory in each CLMV country will acquire the knowledge and technique on impurity profiling. 3. Drug investigators in CLMV countries will acquire the knowledge on law enforcement related with drug analysis.</p> <p>Outputs for Thailand 4. Adequate number of drug analysis in provincial and regional laboratories of the Royal Thai Police (RTP) and the Department of Medical Science (DMS) will acquire the knowledge and technique on quantitative analysis. 5. Core staff of drug analysis of the RTP as well as DMS will acquire the knowledge and technique on impurity profiling. 6. Drug investigators in RTP will acquire the knowledge on law enforcement related with drug analysis. 7. Flow chart of analysis result from laboratory via system to law enforcement will be formulated.</p>		<p>The number of drug analysts capable to make a full use of GC in the CLMV countries will increase. Drug analysts who have knowledge and technique on impurity profiling will appear. The number of drug investigators who have knowledge on law enforcement related with drug analysis will increase. The number of drug analysts who are capable to make a full use of GC will increase. Drug analysts who have knowledge and technique on impurity profiling will appear in RTP and DMS. The number of drug investigators who have knowledge on law enforcement related with drug analysis will increase. (1) An ONCB drug information system for the practical use of impurity profiling will be established. (2) Number of the data accumulated on the established system will increase. (3) Number of seminars and senior law enforcement officials who have understood the flow chart will increase.</p>		<p>Comparison of baseline information for each country with the results of follow-up surveys in the course of the Project. Interview with laboratory staff in CLMV countries. Comparison of baseline information before the implementation of the Project with the results of follow-up surveys in the course of the Project. Comparison of baseline information before the implementation of the Project with the results of follow-up surveys in the course of the Project. Interview with laboratory staff at RTP and DMS Comparison of baseline information before the implementation of the Project with the results of follow-up surveys in the course of the Project. (1) Project Report (2) Record of the ONCB laboratory and IT Center</p>		<p>(1) High level of coordination of ONCB is maintained among concerned agencies in Thailand as well as among drug control agencies in CLMV countries (2) Cooperation among participating countries are ensured.</p>	
<p>Activities 1. Provide training on qualitative and quantitative analysis to drug analysts in CLMV countries. 2. Provide training on impurity profiling to drug analysts in CLMV countries. 3. Provide training on law enforcement activities to drug investigators in CLMV countries. 4. Provide advanced training on quantitative analysis to drug analysts of the RTP and DMS. 5. Provide Training on impurity profiling to drug analysts of the RTP and DMS. 6. Provide training on law enforcement activities to drug investigators in RTP. 7-1. Give advice on construction of the ONCB drug information system for the practical use of impurity profiling. 7-2. Make necessary recommendations on usage of the system.</p>		<p>Inputs Thailand Side: 1. Personnel - Project Counterpart Staff - Project Director - Project Manager - Counterpart for Impurity Profiling - Team of the Strategic Intelligence Division, the Scientific detection Division and the IT Center - Secretary and supporting staff 2. Equipment - A part of the equipment necessary for the implementation of the Project 3. Building - Office for Japanese Experts - Training Room - Lecture Room 4. Cost for Training - Cost for training that drug analysis (cost starting to be decided) - Expenditure related to Thai counterparts in terms of training of CLMV analysts in Thailand as well as CLMV countries. CLMV Countries Side: 1. Personnel - Two (2) drug analysts from each CLMV countries as trainees. 2. Facilities - Equipped laboratory to operate GC.</p>		<p>Japanese Side: 1. Personnel - Long-term experts - Chief Advisor/Law enforcement - Drug Analysts - Drug Information System 2) Short-term experts 3. Training program - Training in Japan for Thai and CLMV drug analysts 2) Training of Thai drug analysis (cost starting to be decided) 3) Training of drug analysis of CLMV countries in Thailand and CLMV countries (cost related with Japanese experts and trainees from CLMV countries) Equipment needed for Thailand Equipment needed for drug analysis in the CLMV countries.</p>		<p>Trainees under the Project will not retire from the training course as well as from their careers. Pre-conditions: 1. The drug-related agencies in CLMV countries equip the operational conditions of GC in their forensic laboratories. 2. Safety of Japanese experts is ensured.</p>	

ANNEX -2: Achievement of the Project (1) Inputs from the Japanese Side

Categories	Base for Judgment	Data Source	Assessment (-Good -Moderate -Poor)
Input from Japanese Side	Verification of Inputs from Japanese Side on both timing and quality.	- Progress Reports - C/P and J/E - Questionnaire	
J1. Advisors	-Ditto-	-Ditto-	Good
J2. Training in Japan, and Thailand	-Ditto-	-Ditto-	Good
J3. Equipment	-Ditto-	-Ditto-	Good
J4. Operational Cost	-Ditto-	-Ditto-	Good
J5. Others	-Ditto-	-Ditto-	Good

Summary for Inputs Accomplishments until February 2005

- As of the end of January 2005, three (3) long-term advisors (85.0 MM: Chief Advisor/Law Enforcement, Drug Analysis, and the Drug Information System) were assigned in the Project as scheduled in R/D. In addition, five (5) short-term advisors (10.8MM in total; five (5) experts for drug law enforcement) were dispatched for the Project activities.
- Assignment of personnel by the Japanese side is considered appropriate in terms of timing and the fields of expertise.

Training/Seminar in Japan
- As of the end of January 2005, six (6) C/Ps have been dispatched to Japan for training.
2002: Three (3) C/Ps (one (1) Drug Information Technology and two (2) Drug Law Enforcement) were dispatched to Japan for training.
2003: Three (3) C/Ps (one (1) Drug Information System and two (2) Drug Law Enforcement) were dispatched to Japan for training.
2004: A seminar: "Analysis of Abused Drug of Indo-China Region" was held in Japan with eight (8) attendants (two (2) from Thailand, six (6) from CLMV).

Training in Thailand
- As of the end of January 2005, 50 trainees, including 9 trainees from Indonesia, attended trainings in Thailand from 2002 to 2004.
2002: 12 C/Ps (two (2) Cambodia, two (2) Myanmar, and four (4) Vietnam)
2003: 13 C/Ps (four (4) Cambodia, two (2) Laos, and seven (7) Myanmar)
2004: 16 C/Ps (four (4) Cambodia, four (4) Laos, four (4) Myanmar, and four (4) Vietnam)

- Up to January 2005, equipment, approximately the total cost of 37,824,000 Thai Baht (approximately equivalent to JPY 102,352,000 / THB 1.0= JPY 2.7) has been donated by the Japanese Government.
- The major items include Gas Chromatographs (7) and Gas Generators (4), High Performance Liquid Chromatograph(1), and Computer Servers (2) and their peripheral devices such as monitors, printers, and UPS, etc.
- Conditions of utilization and maintenance of equipment for drug analysis in each country are as follows:
Thailand: All equipment for drug analysis are in good condition and utilized.
Cambodia: All equipment for drug analysis are in good condition and utilized.
Laos: All equipment are in good condition and utilized.
Myanmar: All equipment are in good condition and utilized.
Vietnam: All equipment are in good condition and utilized.
- Cost for training: 1) cost for the training in Japan, 2) major part of the cost of the training for Thai drug analysts in Thailand, and, 3) major part of the cost for the training of drug analysts of CLMV countries in Thailand and in CLMV countries.
- Operation expenses for international seminars, regional cooperation, and local consultant contract, etc. amounted to 21,343 thousand Thai baht from 2002 to 2005

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam, (2) J/E: Japanese Experts, (3) C/P: Thailand and CLMV Counterpart Staff, (4) ONCB: Office of the Narcotics Control Board, (5) RTP: Royal Thai Police.
(6) DMS: Department of Medical Science, (7) TICA: Department of Technical and Economic Cooperation

ANNEX -2: Achievement of the Project (2) Inputs from Thailand and CLMV Sides

Categories	Base for Judgment	Data Source	Summary for Inputs Accomplishments until February 2005	Assessment (-Good -Moderate -Poor)
Input from Thai Side				
T1. Allocation of C/P staff	Verification of Inputs from Thai side both on timing and quality.	- Progress Reports - C/P and J/E - Questionnaire	- As of February 2005, 11 C/Ps (one (1) Project Director, one (1) Project Manager, one (1) Project Secretariat, and eight (8) Technical C/Ps (directors of relevant divisions: three (3) for drug law enforcement, two (2) for drug analysis, and three (3) for drug information system) have been allocated since the commencement of the Project. - Adding to the eight (8) ONCB Joint Coordinating Committee members, three Thai Committee members from RTP, DMS and TICA were assigned to organize the JCC together with three Japanese Long-term Experts and the Resident Representative of JICA Thailand Office. - Assignments of Thai C/P staff are appropriate in both numbers and timing. - A laboratory for drug analysis, necessary facilities and office space for J/Es were provided in ONCB for the Project activities.	Good
T2. Facility	-Ditto	-Ditto-	ONCB provided the following costs and materials: - Approximately 750 thousand Thai baht (maintenance of equipment and consumable materials) from 2002 to 2005 - Utilities (water and electricity) for the provided facilities - Domestic communication costs - Stationeries and consumables for the trainings under the Project conducted in Thailand - Reagents for drug analysis - The cost for CLMV trainings was mostly born by the Japanese Government.	Good
T3. Running Cost, Tools and materials	-Ditto	-Ditto		Good-Moderate
Inputs from CLMV countries				
C1. Allocation of Personnel	Verification of Inputs from CLMV Side on both timing and quality.	- Progress Reports - C/P and J/E - Questionnaire	- Drug analysts, basically, two from each CLMV country, have been assigned as trainees. - Most of the two trainees of each CLMV country continued attending at the trainings under the Project. - There was a replacement of a trainee in Vietnam due to a change of occupation. - In CLMV countries, equipped laboratories for GC operation were provided and have been utilized for the Project activities. - There are no serious problems found in terms of working environment with the laboratories. - In each of CLMV countries, 1) utilities (water and electricity) and general office supplies for trainings conducted in each country were provided. - In Cambodia and Vietnam reagents for law enforcement seminars were provided by NACD (8) and IFS (9). - In addition to the above, in Vietnam, reagents for drug analyses were provided.	Good
C2. Equipped Laboratory for GC analysis	-Ditto	-Ditto-		Good
C3. Running Cost, Tools and materials				Good-Moderate

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam, (2) J/E: Japanese Experts, (3) C/P: Thailand and CLMV Counterpart Staff, (4) ONCB: Office of the Narcotics Control Board, (5) RTP: Royal Thai Police, (6) DMS: Department of Medical Science, (7) TICA: Thai International Cooperation Agency, (8) NACD: National Authority for Combating Drugs, (9) IFS: Institute of Forensic Science

ANNEX -2: Achievement of the Project (3)-1 Performance of Activities

Activities	Questions	Data Source	Summary for Activity Performance until February 2005	Assessment (-Good -Moderate -Poor)
<p>Performance of Activities</p> <p>1. Provide training on qualitative and quantitative analysis to drug analysts in CLMV countries.</p>	<p>Were activities implemented appropriately both in timing and quality?</p>	<p>- Progress Reports - C/P and J/E - Questionnaire - Interviews</p>	<p>- Trainings of the CLMV trainees were executed four (4) times in Thailand in August 2002, February and November 2003 and March 2004, respectively, for senior level chemists working in drug identification and analysis laboratories. - Also, seven (7) times of follow-ups were conducted in Laos, Cambodia and Vietnam in March, September and October 2003, and February 2004. - In total, 82 CLMV trainees attended the trainings (25 in Thailand and 57 in CLMV countries) - "Analytical Manual of Drugs of Abuse" was compiled based on the experiences of the trainings. - Impurity profiling trainings were conducted for senior level chemists working in drug identification and analysis laboratories of CLMV countries. - The trainings were conducted two times in Thailand (July and November 2004) and two times in Vietnam (July and August 2004). - In total, 26 CLMV trainees attended the trainings for impurity profiling (16 in Thailand and 10 in Vietnam) - In addition, nine (9) trainees, in total, from Indonesia attended the trainings in Thailand. - Under the cooperation of UNODC, a training material for impurity profiling was prepared. - Up until the end of January 2005, 18 series of visiting seminars on Drug Law Enforcement were conducted in CLMV countries with total participation of 209 drug law enforcement officers of CLMV countries.</p>	<p>Good</p>
<p>2. Provide training on impurity profiling to drug analysts in CLMV countries.</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>2002: The total number of attendants is 21 in three (3) trainings in Laos, Myanmar and Vietnam, Vietnam. 2003: The total number of attendants is 56 in six(6) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. 2004: The total number of attendants is 132 in eight (8) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. Country wise attendants in total are: Cambodia (53), Laos (56), Myanmar(45) and Vietnam(55). Seminar texts on Law Enforcement were prepared for Thailand and CLMV countries. From July 2002 to July 2003, trainings on quantitative analysis were conducted four times for senior level chemists of RTP and DMS working in drug identification and analysis laboratories. Total number of trainees is 46. The Project conducted the training for RTP in July, August 2004, and visited rural and urban sites. The number of trainees is 65 from RTP and DMS (60 from RTP and 5 from DMS). Trainings of impurity profiling for RTP and DMS drug analysis were conducted two (2) times at ONCB in January and October 2004. The number of trainees is 23(21 from RTP and 2 from DMS). Up until the end of January 2005, four (4) series of seminars on Drug Law Enforcement have been conducted with participation of 45 drug investigators of ONCB and the RTP. In the seminars, ONCB law enforcement officers gave lectures.</p>	<p>Good</p>
<p>3. Provide training on law enforcement activities to drug investigators in CLMV countries.</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>2002: The total number of attendants is 21 in three (3) trainings in Laos, Myanmar and Vietnam, Vietnam. 2003: The total number of attendants is 56 in six(6) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. 2004: The total number of attendants is 132 in eight (8) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. Country wise attendants in total are: Cambodia (53), Laos (56), Myanmar(45) and Vietnam(55). Seminar texts on Law Enforcement were prepared for Thailand and CLMV countries. From July 2002 to July 2003, trainings on quantitative analysis were conducted four times for senior level chemists of RTP and DMS working in drug identification and analysis laboratories. Total number of trainees is 46. The Project conducted the training for RTP in July, August 2004, and visited rural and urban sites. The number of trainees is 65 from RTP and DMS (60 from RTP and 5 from DMS). Trainings of impurity profiling for RTP and DMS drug analysis were conducted two (2) times at ONCB in January and October 2004. The number of trainees is 23(21 from RTP and 2 from DMS). Up until the end of January 2005, four (4) series of seminars on Drug Law Enforcement have been conducted with participation of 45 drug investigators of ONCB and the RTP. In the seminars, ONCB law enforcement officers gave lectures.</p>	<p>Good</p>
<p>4. Provide advanced training on quantitative analysis to drug analysts of the RTP and DMS.</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>2002: The total number of attendants is 21 in three (3) trainings in Laos, Myanmar and Vietnam, Vietnam. 2003: The total number of attendants is 56 in six(6) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. 2004: The total number of attendants is 132 in eight (8) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. Country wise attendants in total are: Cambodia (53), Laos (56), Myanmar(45) and Vietnam(55). Seminar texts on Law Enforcement were prepared for Thailand and CLMV countries. From July 2002 to July 2003, trainings on quantitative analysis were conducted four times for senior level chemists of RTP and DMS working in drug identification and analysis laboratories. Total number of trainees is 46. The Project conducted the training for RTP in July, August 2004, and visited rural and urban sites. The number of trainees is 65 from RTP and DMS (60 from RTP and 5 from DMS). Trainings of impurity profiling for RTP and DMS drug analysis were conducted two (2) times at ONCB in January and October 2004. The number of trainees is 23(21 from RTP and 2 from DMS). Up until the end of January 2005, four (4) series of seminars on Drug Law Enforcement have been conducted with participation of 45 drug investigators of ONCB and the RTP. In the seminars, ONCB law enforcement officers gave lectures.</p>	<p>Good</p>
<p>5. Provide training on impurity profiling to drug analysts of the RTP and DMS</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>2002: The total number of attendants is 21 in three (3) trainings in Laos, Myanmar and Vietnam, Vietnam. 2003: The total number of attendants is 56 in six(6) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. 2004: The total number of attendants is 132 in eight (8) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. Country wise attendants in total are: Cambodia (53), Laos (56), Myanmar(45) and Vietnam(55). Seminar texts on Law Enforcement were prepared for Thailand and CLMV countries. From July 2002 to July 2003, trainings on quantitative analysis were conducted four times for senior level chemists of RTP and DMS working in drug identification and analysis laboratories. Total number of trainees is 46. The Project conducted the training for RTP in July, August 2004, and visited rural and urban sites. The number of trainees is 65 from RTP and DMS (60 from RTP and 5 from DMS). Trainings of impurity profiling for RTP and DMS drug analysis were conducted two (2) times at ONCB in January and October 2004. The number of trainees is 23(21 from RTP and 2 from DMS). Up until the end of January 2005, four (4) series of seminars on Drug Law Enforcement have been conducted with participation of 45 drug investigators of ONCB and the RTP. In the seminars, ONCB law enforcement officers gave lectures.</p>	<p>Good</p>
<p>6. Provide training on law enforcement activities to drug investigators of the RTP.</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>- Ditto -</p>	<p>2002: The total number of attendants is 21 in three (3) trainings in Laos, Myanmar and Vietnam, Vietnam. 2003: The total number of attendants is 56 in six(6) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. 2004: The total number of attendants is 132 in eight (8) trainings in Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam. Country wise attendants in total are: Cambodia (53), Laos (56), Myanmar(45) and Vietnam(55). Seminar texts on Law Enforcement were prepared for Thailand and CLMV countries. From July 2002 to July 2003, trainings on quantitative analysis were conducted four times for senior level chemists of RTP and DMS working in drug identification and analysis laboratories. Total number of trainees is 46. The Project conducted the training for RTP in July, August 2004, and visited rural and urban sites. The number of trainees is 65 from RTP and DMS (60 from RTP and 5 from DMS). Trainings of impurity profiling for RTP and DMS drug analysis were conducted two (2) times at ONCB in January and October 2004. The number of trainees is 23(21 from RTP and 2 from DMS). Up until the end of January 2005, four (4) series of seminars on Drug Law Enforcement have been conducted with participation of 45 drug investigators of ONCB and the RTP. In the seminars, ONCB law enforcement officers gave lectures.</p>	<p>Good</p>

ANNEX -2: Achievement of the Project (3)-2 Performance of Activities

Activities	Questions	Data Source	Summary for Activity Performance until February 2005	Assessment (-Good -Moderate -Poor)
7-1. Give advice on construction of the ONCB drug information system for the practical use of impunity profiling.	- Ditto -	- Ditto -	<ul style="list-style-type: none"> - Development of the ONCB Drug Analysis Information System is under progress. - As of February 2005, the System development is behind the schedule due to technical difficulties of merging the mainframe criminal data to open source system of law enforcement division. - However, practical and the best possible countermeasures are taken to accelerate the progress and the system will be developed by the end of the cooperation period. - A weekly meeting has been conducted since November 2004 to share information on the system development with participation of Deputy Secretary General and the directors of TTC and Users Divisions (Narcotics Analysis and Technical Service Institute and Strategic Intelligence Division; etc.). - Trainings for ONCB staff were conducted four times (basic UNIX in February 2003, advanced UNIX in January 2004, SQL in December 2004, and, JAVA in January 2005) - The number of trainees is 72 in total. - Some recommendation has been provided on the usage of the System. 	Good- Moderate
7-2. Make necessary recommendations on usage of the system.	- Ditto -	- Ditto -		-----
Process of Activities				
	Has the decisions been made without delay or obstacles? (Including establishment of a monitoring system) Is there any problem in the management system of the Project?	- Progress Reports - C/P and J/E - Interviews	<ul style="list-style-type: none"> - Serious problems have not been observed with the decision making process. - In addition to JCC held five times (July 5 and Dec 3 of 2002, May 16 of 2003, July 2 of 2004, and Jan 17 of 2005), ad hoc meetings to discuss and monitor the progress of the Project were held with participation of the Project C/Ps, J/Es and JICA staff. 	Good
	Has JICA, both Headquarters and offices in the five countries, provided sufficient and on-time support for facilitating the progress of the Project?	- Ditto -	<ul style="list-style-type: none"> - Serious problems have not been observed with the management system of the Project. 	Good
		- Ditto -	<ul style="list-style-type: none"> - Serious problems have not been observed with the support provided by the Headquarter and offices in the five countries. 	Good

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam, (2) J/E: Japanese Experts, (3) C/P: Thailand and CLMV Counterpart Staff, (4) ONCB: Office of the Narcotics Control Board, (5) RTP: Royal Thai Police, (6) DMS: Department of Medical Science, (7) TICA: Thai International Cooperation Agency

ANNEX -2: Achievement of the Project (4)-1 Performance of Overall Goal, Project Purpose and Outputs

Narrative Summary of PDME	Verifiable Indicators	Data Source	Summary of Performance until February 2005	Assessment (-Good -Moderate -Poor)
<p>Overall Goal The drug-related agencies in Thailand and CLMV countries will acquire higher level of law enforcement capabilities in drug analysis and intelligence gathering.</p>	<p>1) The number of arrested cases, crushed clandestine laboratories will increase. 2) The amount and ratio of seized drugs in the estimated production level will increase.</p>	<p>- Progress Reports - CP and JE - Questionnaire - Interviews</p>	<p>- The Evaluation Team considers that it is still too early to judge the degree of enhancement of law enforcement capabilities of the drug-related agencies in Thailand and CLMV countries in terms of drug analysis and intelligence gathering. - However, the Overall Goal has high prospect of achievement if the present activities will be continued by the hand of counterpart agencies with close collaboration of CLMV countries.</p>	Good
<p>Project Purpose A accurate drug analysis (qualitative, quantitative, impurity profiling) will be used practically to strengthen law enforcement capabilities in Thailand and CLMV countries.</p>	<p>1) The actual number of cases in impurity profiling contributing to successful law enforcement operations will increase. 2) The actual number of cases in qualitative and quantitative analysis contributing to law enforcement activities will increase. 3) Their impact on the law enforcement operations in Thailand and CLMV countries will be induced.</p>	- Ditto -	<p>- Impurity profiling was a new analysis technique introduced to both Thailand and CLMV countries under the Project. In Thailand, it is conducted regular-basis and contributes to successful law enforcement operations. - In CLMV countries, impurity profiling started recently and there are still limited number of analyses conducted (Cambodia: 30 samples, Laos: 13 samples, Myanmar 13 samples, Vietnam: 30 samples) - In Vietnam, impurity profiling has already contributed to 10 actual cases. - Qualitative and quantitative analyses are conducted on routine basis in Thailand and almost on routine basis in CLMV countries and contribute to law enforcement operations and court trials to draw accurate assessment of culpability based on analysis results. - There was a strong impact on the law enforcement activities through the improved efficiency of the analysis procedures and accuracy of analysis results. - Before the Project implementation, there were no GCs in laboratories related to drug analysis in CLMV countries, except for Vietnam. - Based on the self-evaluation by drug analysis in CLMV countries, the numbers of drug analysts capable to make a full use of GC in the CLMV countries are as follows: i) Cambodia: from 0/4 to 4/8, ii) Laos: from 0/4 to 2/4, iii) Myanmar: from 0/13 to 2/13, iv) Vietnam: from 12/28 to 13/22 (the numbers of the drug analysts capable to make full use of GC/total numbers of analysts.) - The achievement of Output 1 is satisfactory.</p>	Good
<p>Outputs for CLMV countries 1. Drug analysis in CLMV countries will acquire the knowledge and technique on qualitative and quantitative analysis.</p>	<p>The number of drug analysts capable to make a full use of GC in the CLMV countries will increase.</p>	- Ditto -	<p>- The achievement of Output 1 is satisfactory.</p>	Good
<p>2. Core staff of laboratory in each CLMV country will acquire the knowledge and technique on impurity profiling.</p>	<p>Drug analysts who have knowledge and technique on impurity profiling will appear.</p>	- Ditto -	<p>- Based on interview results, in each CLMV country, the core staffs of laboratory in each CLMV countries have acquired the knowledge and technique on impurity profiling. - The numbers of drug analysts who acquired the knowledge and technique on impurity profiling in the CLMV countries increased as follows: Cambodia: from 0/4 to 2/8, Laos: from 0/4 to 2/4, Myanmar (CEO Yangon): from 0/13 to 2/13, Vietnam (IFS Hanoi and Ho Chi Minh): from 0/28 to 4/22 (the numbers of the drug analysts who acquired the knowledge and technique on impurity profiling /total numbers of analysts.) - The achievement of Output 2 is satisfactory.</p>	Good
<p>3. Drug investigators in CLMV countries will acquire the knowledge and technique on law enforcement related with drug analysis</p>	<p>The number of drug investigators who have knowledge on law enforcement will increase.</p>	- Ditto -	<p>- In total, 209 law enforcement officers attended seminars under the Project. - According to the comments of attendants obtained through interviews and questionnaire surveys, it is judged that attendants acquired knowledge on systematic and legal law enforcement procedures, including the usage of pre-test kits (on-site color test kits). - In CLMV countries, skills and knowledge are transferred to fellow officers through OJT. - According to results of the self-evaluation of drug analysts in RTP and DMS, the numbers of drug analysts who acquired the knowledge and technique on quantitative analysis in the RTP and DMS after the Project have increased (40 in RTP). - The achievement of Output 4 is considered satisfactory.</p>	Good
<p>Outputs for Thailand 4. A adequate number of drug analysis in provincial and regional laboratories of the Royal Thai Police (RTP) and the Department of Medical Science (DMS) will acquire the knowledge and technique on quantitative analysis.</p>	<p>The number of drug analysts who are capable to make a full use of GC will increase.</p>	- Ditto -	<p>- The achievement of Output 4 is considered satisfactory.</p>	Good

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam, (2) J/E: Japanese Experts, (3) C/P: Thailand and CLMV Counterpart Staff, (4) ONCB: Office of the Narcotics Control Board, (5) RTP: Royal Thai Police, (6) DMS: Department of Medical Science, (7) TICA: Thai International Cooperation Agency

ANNEX -2: Achievement of the Project (4)-2 Performance of Overall Goal, Project Purpose and Outputs

Narrative Summary of PDMc	Verifiable Indicators	Data Source	Summary of Performance until February 2005	Assessment (-Good -Moderate -Poor)
5. Core staff of drug analysis of the RTP as well as DMS will acquire the knowledge and technique on impurity profiling.	Drug analysts who have knowledge and technique on impurity profiling will appear in RTP and DMS.	- Ditto -	<ul style="list-style-type: none"> - Based on oral interviews results, in RTP and DMS, the core staffs have acquired the knowledge and technique on impurity profiling. (13 in RTP and 1 in DMS). - The achievement of Output 5 is considered reasonable. 	Good
6. Drug investigators in RTP will acquire the knowledge on law enforcement related with drug analysis.	The number of drug investigators who have knowledge on law enforcement related with drug analysis will increase.	- Ditto -	<ul style="list-style-type: none"> - According to the achievement of the seminars and the comments of attendants, it is judged that the number of law enforcement officers of ONCB and RTP who have knowledge on law enforcement activities has increased. - The development of the Drug Analysis Information System is under progress (about 300 cases are stored as of February 2005) 	Good
7. Flow chart of analysis result from laboratory via system to law enforcement will be formulated.	<ul style="list-style-type: none"> 1) An ONCB drug information system for the practical use of impurity profiling will be established. 2) Number of the data accumulated on the established system will increase. 3) Number of seminars and senior law enforcement officials who have understood the flow chart will increase. 	- Ditto -	<ul style="list-style-type: none"> - Due to technical difficulties (connection of the of mainframe system to Drug Analysis System in Law Enforcement, and; bio-security system, the development is behind the original schedule. - However, countermeasures are taken and the system development is expected to be completed by the end of the Project cooperation period. - In total, 72 ONCB officers attended trainings and seminars under the Project (UNIX: basic and advanced, Database: SQL and JAVA). 	Good-Moderate

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam, (2) J/E: Japanese Experts, (3) C/P: Thailand and CLMV Counterpart Staff, (4) ONCB: Office of the Narcotics Control Board, (5) RTP: Royal Thai Police, (6) DMS: Department of Medical Science, (7) TICA: Thai International Cooperation Agency

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Relevance (1)

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High /Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Relevance -To examine the justifiability or necessity for project implementation	Is the effect that the Project is aiming for in line with the national policy of Thailand and the CLMV (*1) countries?			<ul style="list-style-type: none"> - The Project is in accordance with the national policies of Thailand and CLMV countries based on the followings; <ul style="list-style-type: none"> - Narcotic drug issues are a long-standing problem in the Indo-China region. In recent years, illicit manufacture, trafficking and abuse of amphetamine-type stimulants (ATS) have been serious social problems replacing the production of opiate which has fallen drastically because of eradication efforts by the governments of Thailand and CLMV countries. - Under the 9th National Economic and Social Development Plan (2002-2006), the government of Thailand aims at sustainable development by keeping social stability based on the reflection of the former rapid economic development. In the plan, drug issues are considered one of the main priorities in addition to the development focused on the poor, farmers, rural areas and small-scale enterprises. - CLMV Countries: Myanmar and Lao PDR as well as Thailand and China, agreed on a Memorandum of Understanding (MOU) of UNDCP in 1993 to strengthen drug law enforcement in the sub-region. - In 1995, Vietnam and Cambodia joined the agreement. - In order to tackle the drug issues effectively, it is prerequisite that sufficient numbers of drug analysts have knowledge and skills of quantitative and qualitative analyses and impurity profiling thereby enhancing law enforcement operations. - Drug Analysts and staff of NLEB and ITC of ONCB have a mandate of directly related to the control of synthetic drugs in Thailand. - As is the case of Thailand, drug analysts and officers of CLMV countries have a mandate of controlling drug abuse by enhancing law enforcement operations based on the improved knowledge and skills of quantitative and qualitative analyses and impurity profiling. 	High
	Was the selection of the target group adequate?	Are the needs for cooperation from the Drug Analysts and staff of NLEB (*4) and ITC (*5) of ONCB (*6) high? Are the needs for cooperation from the Drug Analysts of CLMV countries high? Is the size of the target group adequate for Thailand and CLMV countries?		<ul style="list-style-type: none"> - The number of the target groups were 530 comprising of 230 drug analysis of drug related agencies in Thailand and about 60 drug analysis of drug related agencies in CLMV countries, together with about 240 staff working at NLEB and ITC in ONCB. - The size of the target groups are considered to be adequate for Thailand and CLMV countries since the Project tries to target a major part of the drug analysts in Thailand and CLMV countries. - Japan's aid policy toward Thailand is based on the recognition that Thailand is one of the most democratic countries in the sub-region and is an important diplomatic partner in South-east Asia. The major fields of cooperation with Thailand since 1996 have been 1) social sector, 2) environmental protection, 3) rural development, 4) economic infrastructure, and 5) supporting regional cooperation. - In the social sectors, support for lacking drug issues is one of the targeted fields together with support to assist with social weakness, health and welfare and education. - A Japan-Thailand partnership program has been implemented to promote development in neighboring CLMV Countries as a part of regional cooperation. It should be effective in terms of regional cooperation to use the experiences and resources in Thailand promoted by Japan's aid - The Project is a regional project concerning drug control issues, and complements Japan's aid policy toward the sub-region. 	High
	Is The Project consistent with the Japan's foreign assistance policy?	Does the Project address the focus issues for aid?		<ul style="list-style-type: none"> - The Project is a regional project concerning drug control issues, and complements Japan's aid policy toward the sub-region. - The major fields of technical cooperation by JICA, in line with the prioritized field of Thailand are: 1) social sector, 2) environmental protection, 3) rural development, 4) economic infrastructure, and 5) supporting regional cooperation. - In the field of regional cooperation support, narcotics control issues in Indo-China region is included. 	High
	Does the Project address JICA's plan for a country-specific program implementation?				High

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Relevance (2)

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High/Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Relevance • To examine the justifiability or necessity for project implementation	Relevance of the Project as a Means	Does Japan have technical advantage compared to other countries?	/	- Japan has sufficient experience in drug analyses, and Japanese Experts have been able to introduce techniques on impurity profiling of the counterpart agencies. - In addition, Japanese Experts are able to transfer the knowledge of the scientific-evidence-based drug law enforcement operations.	High
		Was the Project approach (regional cooperation) suitable to achieve the objective of the Project?			

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam (2) JE = Japanese Experts, (3) CP=Thailand and CLMV Counterpart Staff (4) NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau

(5) TTC: Information Technology Center (6) ONCB: Office of the Narcotics Control Board

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Effectiveness

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High/Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Effectiveness -To examine the Project effects	To which degree have the Outputs been achieved?			<ul style="list-style-type: none"> - Most of the Outputs have been achieved reasonably. - The establishment of Drug Analysis Information System in ONCB is behind the original schedule due to technical difficulties of connecting the mainframe in JICA to the Drug Analysis Information System. - However, countermeasures are taken to accelerate the system development and the development will be completed by the end of the cooperation period. - Capability of drug analysis and law enforcement officers of Thailand and CLMV countries have been enhanced through the trainings and seminars intensively conducted by the Japanese Experts and Thai counterpart staff during the past two and half years. - Drug analysis improved their knowledge of qualitative and quantitative analyses and impurity profiling, and gained skills to execute the analyses through GCs. As a result, the efficiency of the analytical procedures and accuracy of the results were ensured. - In addition, in CLMV countries, improved knowledge of law enforcement officers on systematic law enforcement operations and the usage of pre-test kits contributed the strengthen the capabilities of law enforcement. 	High - Moderate
	To which degree has the Project Purpose been achieved?	Are accurate drug analysis (qualitative, quantitative, impurity profiling) used practically to strengthen law enforcement capabilities in Thailand and CLMV countries.	-Comparison of status before and after the Project.		High
	Were there any external factors that contributed to the achievement of the Project Purpose?		-Opinion of C/Ps and J/Es	<ul style="list-style-type: none"> - Before the Project implementation, technical guidance by a Japanese Expert on drug analysis was conducted to ONCB drug analysts for three years, under individual expert dispatch scheme. During the three years, basic knowledge and skills of drug analysts in ONCB were enhanced and instruction materials were prepared. - Technology transfer in the Project period was smoothly performed taking advantages of the foundation laid by the individual expert dispatch. 	High
	Were there any external factors that inhibited the achievement of the Project Purpose?	(1) Was high level of coordination of ONCB maintained among concerned agencies in Thailand as well as among drug control agencies in CLMV countries? (2) Was Cooperation among participating countries ensured? (3) Was coordination among implementing organizations sufficient (JICA H/Q and local offices in Thailand and CLMV countries)? (4) Others	-Opinion of C/Ps and J/Es	<ul style="list-style-type: none"> - During the past two and half years, coordination among concerned agencies in Thailand as well as among drug control agencies in CLMV countries were maintained most of the time. - There was a few unstable periods in terms of international politics during the past two and half years among participating countries. - As a result, dispatch of Japanese Experts for trainings to Cambodia and Myanmar was postponed and make-up trainings were conducted in 2003 to the trainees from Cambodia and Myanmar. - No serious problems were observed or reported in terms of the coordination among implementing organizations. 	High - Moderate
				- Collaboration with UNODC for training of impurity profiling and teaching materials preparations enhanced the capability of drug analysis of Thailand and CLMV countries.	High

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam (2) J/E = Japanese Experts (3) C/P=Thailand and CLMV Counterpart Staff (4) NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau (5) ITC: Information Technology Center (6) ONCB: Office of the Narcotics Control Board

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Efficiency (I)

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High /Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Efficiency -To examine the Project efficiency	Appropriateness of the Inputs (Seen from the achieved Outputs, were the quality, quantity and timing of Inputs appropriate?)	Were the number of experts dispatched, their fields of expertise and the timing of dispatch appropriate? Were the types, quantity, and timing of the installation of provided equipment appropriate?	Comparison of the actual achievement with the plan	<ul style="list-style-type: none"> - Three (3) long-term advisors (85.0 M/M; Chief Advisor/Law Enforcement, Drug Analysis, and Drug Information System) were assigned to the Project as scheduled. In addition, five (5) short-term advisors (10.8M/Min total; five (5) experts for drug law enforcement) were dispatched for the Project activities. - Assignment of personnel by the Japanese side is considered appropriate in terms of timing and the fields of expertise. - Up to January 2005, equipment, approximately the total cost of 37,824,000 Thai Baht (equivalent to JPY. 102,352,000 / THB. 1.0= JPY. 2.7) has been donated by the Japanese Government. - The major items include Gas Chromatograph (2), High Performance Liquid Chromatograph (1), and Computer Servers (2) and their peripheral devices such as monitors, printers, UPS, etc. - Types, quantity and timing of the installation of the provided equipment was appropriate. - Conditions of utilization and maintenance are as follows: <ul style="list-style-type: none"> Thailand: All equipment are in good condition and utilized. Cambodia: All equipment are in good condition and utilized. Laos: All equipment are in good condition and utilized. Myanmar: All equipment are in good condition and utilized. Vietnam: All equipment are in good condition and utilized. 	High
		Were the numbers of accepted trainees, the field of the training, contents, and the timing of the trainee acceptance appropriate?	-ditto-	<ul style="list-style-type: none"> - As was summarized in the Performance Table, various kinds of trainings were conducted as follows:- Target groups of CLMV countries: <ol style="list-style-type: none"> 1) A seminar: "Analysis of Abused Drug of Indo-China Region" in Japan (6 attendants). 2) Third Country Training of drug analysts of CLMV countries in Thailand (4) trainees 3) Visiting trainings of drug analysts of CLMV countries (67 trainees) 4) Seminars of CLMV law enforcement officers (209 trainees) Target groups of Thailand <ol style="list-style-type: none"> 1) Counterpart Training in Japan (6 trainees) 2) Seminars for RTP and DMS drug analysts (140 trainees) 3) Seminars for law enforcement officers of RTP and ONCB officers (45 attendants) - The numbers of accepted trainees/attendants, the field of the training, contents, and the timing of the trainee acceptance are considered appropriate. 	High
		Were the numbers, placement, and skills of C/Ps appropriate?	-ditto-	<ul style="list-style-type: none"> - ONCB drug analysts have been trained by a Japanese Expert since 1999, and as a result, a part of them had sufficient knowledge of impurity profiling techniques at the commencement of the Project. - There was no serious problem with the numbers and the placement of the C/Ps. 	High
		Are there any problems in quantity, size, and convenience of the buildings and facilities?	-ditto-	<ul style="list-style-type: none"> - There are no serious problems as regards the buildings and the facilities provided by Thailand and Vietnam. - However, in Cambodia, Laos and Myanmar, there were periods when GCs could not be utilized properly due to unstable supply of electricity. 	High-Moderate
		Was the Project budget of an appropriate size?	-ditto-	<ul style="list-style-type: none"> - The Project aims to target about 230 drug analysts of drug-related agencies in Thailand and about 60 the NLEB and ITC in ONCB. - In the latter half of the Project, law enforcement officers of RTP and CLMV countries were involved. - The Project budget is considered to be appropriate taking into consideration of the numbers of the target groups of Thailand and CLMV countries as well as beneficiaries (potential victims of the abuse of the drugs) by the enhancement of drug control. 	High

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam (2) JE = Japanese Experts (3) C/P=Thailand and CLMV Counterpart Staff (4) NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau (5) ITC: Information Technology Center (6) ONCB: Office of the Narcotics Control Board

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Efficiency (2)

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High/Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Were the costs adequate compared to similar projects?		Is the unit cost for conducting one training session adequate?		- Unit cost for the training/seminar session is considered appropriate for the numbers of the trainees attended.	
Are there any factors that inhibited efficiency?		What are the factors that inhibit or contribute to the efficiency of project implementation process?	Opinion of C/Ps and J/Es	- Unavailability of technical services for GCs in Cambodia, Laos and Myanmar. - Technical difficulty of merging mainframe data of TTC to Law enforcement system.	Moderate

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Impact (1)

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High/Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Impact - To examine the Projects effects including the ripple effects in the long terms	Are there prospects that the Overall Goal ⁽¹⁾ will be achieved?	(1) Has the number of arrested cases, crushed clandestine laboratories increased? (2) Has the amount and ratio of seized drugs in the estimated production level increased?	- Comparison of status before and after the Project.	- It is expected, based on the successful implementation of the trainings so far, that the drug-related agencies in Thailand and CLMV countries will acquire higher level of law enforcement capabilities in drug analysis and intelligence gathering during three to five year after the termination of the Project cooperation period, on the following assumptions: 1) Current Project activities will continue by the hand of ONCB with close collaboration of drug-related organizations of CLMV countries, and. 2) Development of the Drug Information System is not greatly delayed.	High-Moderate
	Is there any influence (expected, unexpected, positive, and negative) including ripple effects?	Were there any impacts on the narcotics control policies of Thailand and CLMV countries through the implementation of the Project? Were there any institutional impacts? (e.g. increase, promotion and change of attitude of staff etc. of ONCB and relevant organizations in CLMV countries)	- ditto -	- At the time of final evaluation, political impacts are observed. In Cambodia, amendment of criminal procedure laws is under the process of the approval by the national assembly. - The implementation of the Project is considered to have an influence on the movement through the exchange of opinions and information of the relevant governmental officers during the participation of the international seminars under the Project. - After the two and half years of the commencement of the Project, drug analysis acquired knowledge and skills necessary to execute their duties. From the results of the interviews, they have more confidence and show positive attitudes toward their duties. - During the Project implementation, ONCB laboratory became an independent institution from narcotics law enforcement bureau. - Institute of Forensic Science became the administrative organization for impurity profiling in Thailand. - ONCB is recognized internationally as a core drug control organization in Indo-China region through the activities of the Project. - In the Third Country Training in Thailand in 2004, Indonesian drug analysis attended to learn about impurity profiling.	High

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam (2) J/E = Japanese Experts (3) C/P = Thailand and CLMV Counterpart Staff (4) NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau (5) TTC: Information Technology Center (6) ONCB: Office of the Narcotics Control Board

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Impact (2)

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High/Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Impact	Is there any influence (expected, unexpected, positive, and negative) including ripple effects?	Were there any technical impacts? (e.g. information network, modification or improvement of analytical techniques proposed by C/P's, etc.)	-ditto-	<ul style="list-style-type: none"> - Through the trainings under the Project, majority of the drug analysis and law enforcement officers have acquired knowledge and skills necessary to conduct their duties. - In particular, introduction of GCs enabled the impurity profiling, a new technique to Thailand and CLMV countries. - GCs also brought about improved efficiency and accuracy of drug analysis in CLMV countries. - In terms of law enforcement officers in CLMV countries, pre-test kits are widely and regularly used on the seized drugs before further analysis in the drug analysis laboratories. - In Thailand, introduction of the Drug Information System to ONCB will bring about a strong technical impact in the narcotics control problems. By using the system, consistent and standardized approach from laboratory via the system to law enforcement will be established. - ONCB drug analysis C/Ps introduced a standardized tool-mark and impurity profiling system to other relevant agencies in Thailand. - A paper entitled "Identification of impurities and statistical classification of Methamphetamine tablet (Yaba) seized in Thailand" was prepared for <i>International Journal of Forensic Science</i>. - ONCB produced four academic textbooks on drug analysis in 2002, 2003, and 2004 and distributed them to Thailand drug control agencies. - International interaction among drug analysis was created through the participation of the seminars/trainings under the Project and helped to exchange and enhance information among themselves. - CCDAC of Myanmar administers their own website and publicizes the achievement of drug law enforcement activities. 	High
		Were there any economic or social impacts? (e.g. improvement of awareness of the society on the narcotics control, etc.)			

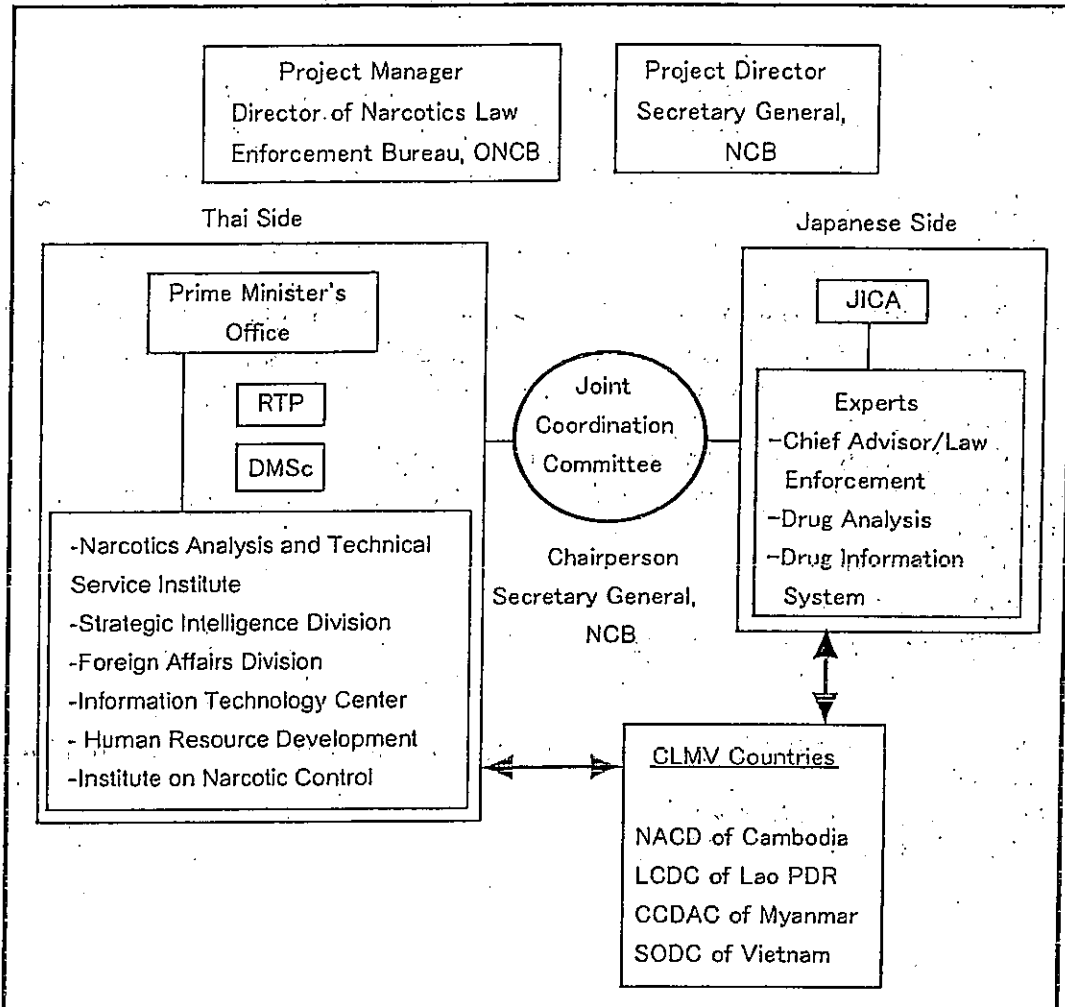
Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam (2) J/E = Japanese Experts (3) C/P=Thailand and CLMV Counterpart Staff (4) NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau (5) ITC: Information Technology Center (6) ONCB: Office of the Narcotics Control Board

ANNEX-3: Evaluation Grid for the Project Sustainability

Criteria	Evaluation Questions		Method for Judgment	Summary for Evaluation	Assessment (High/Moderate/Poor)
	Question	Sub-question			
Sustainability -To examine the sustainability after the termination of the cooperation	Are there any factors that inhibit or contribute to the implementation of the Project?	<u>Policy Aspect</u> Is political support for implementing agencies sustained by the government of Thailand?	/	- The effect that the Project is aiming for is highly in line with the national policy of Thailand and CLMV countries. - Also, the concept of the regional cooperation approach is suitable to enhance the effects of the Project. - Therefore, it is expected that ONCB, the implementing agency, will receive continuous support from the government of Thailand after the termination of the cooperation period. - The Project has high relevance not only with Thai policy but also with the policies of CLMV countries. - Therefore, collaboration among participating countries will be sustained in terms of drug control.	High
		Is collaboration among participating countries in terms of narcotics control sustained?	/	- ONCB is a coordinating body for controlling drug problems in Thailand. - ONCB is considered to have the required organizing capability for the sub-region. - However, ONCB has only seven drug analysts in its laboratory. ONCB has a plan to employ more analysts to conduct the routine works so the Project C/Ps can maintain the present Project activities when the Project cooperation terminates.	High
		<u>Institutional Aspect</u> Does the organization have the capacity to carry out activities?	/	- ONCB is a central organization to control narcotic drugs in Thailand with total staffs of 357 permanent officers and there will be no serious financial problem with the continuation of drug control activities by ONCB. - In CLMV countries budget to conduct drug control activities are not fully secured.	Moderate
		<u>Financial Aspect (Thailand)</u> -Is financial situation good?	/	- Thailand: Technical transfer has been fully established in ONCB, RTP and DMS. - CLMV countries: Taking into account the status before the Project implementation, technical transfer has been sufficiently achieved to CLMV countries in terms of the standard set under the Project. - Maintenance of GCs, and stable supply of reagents including those for pre-test kits for law enforcement operations are the issues still posed against Cambodia, Laos and Myanmar. - ONCB is self sufficient to sustain the positive effects of the Project and has a strong commitment to take a leading role among CLMV countries.	High
		<u>Financial Aspect (CLMV Countries)</u> -Is financial situation good? -Is technical transfer sufficiently achieved?	/		High
		<u>Ownership</u> Is the ownership of implementing agencies and related ministries assured?	/		High
			/		High

Note: (1) CLMV: Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam (2) JE = Japanese Experts (3) C/P=Thailand and CLMV Counterpart Staff (4) NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau (5) ITC: Information Technology Center (6) ONCB: Office of the Narcotics Control Board

ANNEX-4 Organization Chart of the Project



JICA: Japan International Cooperation Agency
 ONCB: Office of Narcotic Control Board
 RTP: Royal Thai Police
 DMSc: Department of Medical Sciences
 NACD: National Authority for Combating Drugs
 LCDC: Lao National Commission for Drug Control and Supervision
 CCDAC: Central Committee for Drug Abuse Control
 SODC: Standing Office on Drug Control

ANNEX 5: List of Participants of Joint Coordinating Committee

1) Chairperson:

Secretary-General, NCB

2) Members:

(1) Thai side

- a. Director of Human Resources Development Institute on Narcotics Control, ONCB
- b. Director of Narcotics Law Enforcement Bureau of ONCB
- c. Director or Representative of the Scientific Detection Division, Narcotics Law Enforcement Bureau, ONCB
- d. Director or Representative of the Strategic Intelligence Division, Narcotics Law Enforcement Bureau, ONCB
- e. Director or Representative of the Foreign Affairs Division, ONCB
- f. Director or Representative of the Information Technology Division, ONCB
- g. Director or Representative of the Legal Affairs Division, ONCB
- h. Representative of the RTP
- i. Representative of the DMSc, Ministry of Public Health
- j. Representative of the Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC)

(2) Japanese side:

- a. Chief Advisor
- b. Experts assigned to the Project
- c. Other Japanese experts and personnel concerned dispatched by JICA, if necessary
- d. Resident Representative of the JICA Thailand Office

Notes:

- 1) Officials of the Embassy of Japan may attend Joint Coordinating Committee meetings as observers.
- 2) Persons who are nominated by the Chairperson may attend Joint Coordinating Committee meetings.

ANNEX 6: List of Interviewees

Thailand

ONCB

1. Pol. Lt. Gen. Krisna Polananta, Secretary-General, NCB
2. Mr. Chartchai Suthiklom, Deputy Secretary-General, NCB
3. Mr. Sukhum Opasniputh, Director of NLEB, ONCB
4. Ms. Rachanikom Sarasiri, Director of the Foreign Affairs Division, ONCB
5. Ms. Anchalee Sirisup, Director of the Human Resource Division, ONCB
6. Mr. Surasit Buasup, Director of the Information Technology Center, ONCB
7. Mr. Vichet Puthaviriyakorn, Director of Narcotics Analysis and Technical Services Institute, ONCB
8. Ms. Kulaphani Rataroon, Foreign Affairs Bureau, ONCB
9. Ms. Kanyanan Kongpatnitroj, Narcotics Analysis and Technical Services Institute, ONCB
10. Ms. Juthamard Phorachata, Narcotics Analysis and Technical Services Institute, ONCB
11. Ms. Khanitha Limvanich, Information Technology Center, ONCB
12. Mr. Chotipun Jullapech, Senior Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB
13. Mr. Kraivudh Maneeratana, Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB

Law Enforcement Officers

1. Pol. Lt. Col. Preecha Abudulloh, Narcotics Suppression Bureau, RTP
2. Pol. Lt. Col. Thongmoh Larlarb, Narcotics Suppression Bureau, RTP
3. Pol. Maj. Chaiyapron Boonjarion, Narcotics Suppression Bureau, RTP
4. Pol. Capt. Suthirat Tochampa, Narcotics Suppression Bureau, RTP
5. Pol. Capt. Boonleerd Pantor, Narcotics Suppression Bureau, RTP
6. Mr. Sukhon Choothong, Supervisor, Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB
7. Mr. Teenavudh Bunnag, Senior Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB
8. Mr. Jakapol Polpanich, Law Enforcement Officer, NLEB, ONCB

Royal Thai Police and DMS

1. Pol. Maj. Gen. Chookiat Chimpanich, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
2. Pol. Lt. Col. Sunan Fupleum, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
3. Pol. Capt. Achara Narkraikhing, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
4. Ms. Dungphon Aphikantaphan, Forensic Science and Criminal Identification, RTP
5. Mr. Adisak Manlin, Department of Medical Sciences, RTP

Ex-trainees, ITC

1. Ms. Sirinun Varavarn na ayuthaya, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB

2. Ms. Sasitorn Suttichat, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB
3. Mr. Rachane Punyaratabandhu, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB
4. Mr. Kridsana Yensudjai, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB
5. Ms. Jiraporn Rotjanakoh, Trainees of IT training, Information Technology Center, ONCB

Cambodia

NACD

1. Lieutenant General Teng Savong, Secretary General of National Authority for Combating Drugs
2. Chamroun Ngan, Deputy Secretary General
3. Col. Phorn Boramy, Director of International Cooperation
4. Huot Sopahly, Deputy Director of International Cooperation Department, Assistant to Gen. Permanent Deputy Secretary General

Narcotic Laboratory

1. DR. Meas Vyrith, Director of Narcotic Laboratory,
2. Mrs. Chhim Sithbunaitit, Chief of the Bureau of Technical Science
3. Ms. Leng Sophear, Chief of the Bureau of Technical Science
4. Mr. Ros Chenda

Lao P.D.R,

LCDC

1. Mr. Linthong PHETSAVANH, Head of Permanent Secretariat, Prime Minister's Office, LCDC
2. Mr. Viloun SILAPRANY, Acting Director, Law Enforcement Division, LCDC

FDQC

1. Dr. Latsamay Vongsack, Director, FDQCC
2. Ms. Ang Many, Chief of Narcotic and Psychotropic Dept. Forensic Laboratory.

Department of Drug Control, Ministry of Security

1. Mr. Somphone Vongsuti, Colonel, Director of Department of Drug Control
2. Mr. Thongsy Xayaphavong, Colonel, Director of Cabinet, Department of Drug Control
3. Mr. Ounchan, Colonel, Chief of International Relation Division
4. Mr. Bounsy, Police Captain, Deputy Chief of International Relation Division
5. Mr. Phetosomphou, Colonel, Investigation Officer
6. Mr. Vongphet, Officer, Department of Drug Control
7. Ms. Khamkong, Police Captain, Detective Officer

8. Mr. Khamsing, Police Captain, Detective Officer
9. Mr. Chaiphone, Police Captain, Vientiane Capital Drug Control Office
10. Mr. Khamhak, Police Captain, Vientiane Capital Drug Control Office
11. Mr. Viengsavanh, Police Captain, Vientiane Capital Drug Control Office
12. Mr. Viengsavath, Police Captain, Drug Control Department
13. Mr. Khamphuang, Police Captain, Drug Control Department

Myanmar

CCDAC

1. Col. Kham Awng, Joint Secretary, CCDAC, Ministry of Home Affairs
2. Colonel Thien Kyi, Director of International Cooperation, CCDAC, Ministry of Home Affairs
3. Lieutenant Kyi Soe, Director of Law Enforcement, CCDAC, Ministry of Home Affairs
4. Tun Tun Oo, Deputy Director of International Cooperation, CCDAC, Ministry of Home Affairs
5. Dr. Tin Aung Thien, Director, Office of the Chemical Examiner

Drug Law Enforcement Officers (ex-trainees)

1. Pol. Lt. Hla Oo, TOC M.PForce(Third)
2. Pol. Sec. Lt. Zaw Myo Lwin, Pegu Task Force (Fourth)
3. Pol. Lt. Than Aung, Pegu Task Force(First)
4. Pol. Sec. Lt. Tay Zar Lwin, Yangon Task Force
5. Pol. Lt. Myo Myint, Yangon Task Force
6. Pol. Lt. Aung Myo Zaw Lwin, Yangon Task Force
7. Pol. Sec. Lt. Soe Kyaw Hlaik, Financial Investigation Team
8. Pol. Lt. Kyaw Min Thu, CCDAC
9. Pol. Sec. Lt. Moe Sein, Yangon International Airport
10. Pol. Lt. Min Zaw, CCDAC

CEO, Yangon

1. Dr. Tin Aung Thien, Director, Chemical Examiners' Office
2. MR. Saw Henry, Assistant Director, Narcotic Section, Chemical Examiners' Office
3. Mr. Nyan Min Tun, Staff Officer, Narcotic Section, Chemical Examiners' Office

Anti Drug Department

1. Brigadier General Moek Dara, Director of Anti-Drug Department
2. Colonel. Chan Supal, Deputy Director of Anti-Drug Department,
3. Lt. Colonel Ched Leng, Chief of Anti-Money Laundering
4. Lt. Colonel Khoun Sophan, Chief of Investigation Office

5. First Lieutenant, Song Try, Deputy Chief of Section of Anti Drug Department, Phnom Penh Commission

Vietnam

SODC

1. Pol. Sr. Col. Mr. Bui Xuan Bien, Director , Standing Office on Drugs Control of Vietnam
2. Pol. Col. Mr. Bui Xuan Hieu, Division Chief , Standing Office on Drugs Control of Vietnam
3. Pol. Lt. Col. Mr. Nguyen Ngoc Giao, Senior Expert , Standing Office on Drugs Control of Vietnam
4. Pol. Col. Mr. Do Quang Minh, Senior Expert , Crime Investigation Agency, Ministry of Public Security
5. Pol. Lt. Mr. Cao Hoang Long, International Relations Expert, Standing Office on Drugs Control of Vietnam

Border Army

1. Sr. Col. Mr. Nguyen Sinh Xo, Director, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
2. Sr. Col. Mr. Bui Quang A, Deputy Director, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
3. Sr. Col. Mr. Nguyen Dinh Son, Division Chief, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
4. Maj. Mr. Trinh Xuan San, Officer, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
5. Capt. Do Tien Dung, Officer, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter
6. Lt. Mr. Nguyen Thanh Tung, Officer, Counter Narcotic Drug Department- Border Army Headquarter

IFS Hanoi

1. Prof. NGO TIEN QUY, Director of Institute of Forensic Science,
2. Prof. HOAN MANH HUNG, Vice Director, Director of Center of Drug Expertise,
3. Mr. Du Dinh Dong, Vice Director, Center of Drug Expertise
4. Mr. Nguyen Day Tien, Analysts, IFS, Ho Chi Minh
5. Mr. Nguyen Xuan Truong, Control and Supervision, Office of the Central Drug Expertise

4. 当初のPDM (PDMo)

PDM for Regional Cooperation Project on Drug Control in Thailand, Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam(Draft)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal The drug-related agencies in Thailand and CLMV countries will acquire higher level of law enforcement capabilities in drug analysis and intelligence gathering.</p>	<p>(1) The number of arrested cases, offenders, crushed clandestine laboratories (2) The amounts of seized drugs and the estimated production level</p>	<p>(1) Office Statistics (2) Interviews with informed officials in concerned countries</p>	
<p>Project Purpose Accurate drug analysis (qualitative, quantitative, impurity profiling) will be used practically to strengthen law enforcement capabilities in Thailand and CLMV countries.</p>	<p>(1) The actual number of cases in impurity profiling contributing to successful law enforcement operations. (2) The actual number of cases in qualitative and quantitative analysis contributing to law enforcement activities. (3) Their impact on the law enforcement operations in Thailand and CLMV countries.</p>	<p>(1) Record in the number of cases accredited to impurity profiling during the project. (2) Interviews with key law enforcement officials at the end of the Project.</p>	<p>(1) Effective measures will also be implemented in all other law enforcement activities.</p>
<p>Output</p>			
<p>CLMV Countries</p>			
<p>1. Core staffs of laboratories in CLMV countries will acquire the knowledge and technique on quantitative analysis.</p>	<p>The number of drug analysts capable to make a full use of GC in the CLMV countries.</p>	<p>Comparison of baseline information for each country with the results of follow-up surveys in the course of the Project.</p>	
<p>2. At least one of drug analysts in each CLMV countries will acquire the knowledge and technique on impurity analysis.</p>	<p>Judgement on whether at least one drug analysts have acquired knowledge and technique on impurity analysis.</p>	<p>Interviews with laboratory staffs in the CLMV countries</p>	
<p>Thailand 3. Adequate number of drug analysts at local / regional laboratories of the Royal Thai Police and the Department of Medical Science will acquire the knowledge and technique on quantitative analysis.</p>	<p>The number of drug analysts who are capable to make a full use of GC.</p>	<p>Comparison of baseline information before the implementation of the project with the results of follow-up surveys in the course of the Project.</p>	
<p>4. At least one of drug analysts of the Royal Thai Police as well as the Department of Medical Science will acquire the knowledge and technique on impurity analysis.</p>	<p>Judgement on whether and how many drug analysts have acquired the knowledge and technique on impurity analysis.</p>	<p>Interviews with laboratory staffs at the Royal Thai Police and the Department of Medical Science</p>	
<p>5. Flow chart of analysis result from laboratory via system to law enforcement will be formulated.</p>	<p>(1) Judgement on whether and when an ONCB drug information system for the practical use of impurity profiling is established. (2) Number of the data accumulated on the established system. (3) Number of seminars and senior law enforcement officials who have understood the flow chart.</p>	<p>(1) Project report (2) Record of the ONCB laboratory and IT Center</p>	<p>(1) Higher level of coordination of ONCB is maintained among concerned agencies in Thailand as well as among drug control agencies in CLMV countries (2) Cooperation among participating countries are ensured.</p>
<p>Activities</p>			
<p>CLMV countries</p>			
<p>1. Provide training on qualitative and quantitative analysis to drug analysts in CLMV countries. 2. Provide training on impurity analysis to drug analysts in CLMV countries.</p>	<p>Japan Personnel: Experts Chief Advisor/Law Enforcement (Long-term) Drug Analysts(Long-term) Drug Information System</p>	<p>THAILAND Personnel: (1) Project Director (2) Project Manager (3) Counterpart for Impurity Profiling (4) Counterpart for Drug Analysis Training (5) Team of the Strategic Intelligence Division of the Scientific Detection Division and the IT Center for the integration of drug information system. (6) Secretary and supporting staff</p>	
<p>Thailand</p>			
<p>3. Provide advanced training on quantitative analysis to drug analysts of the Royal Thai Police and the Department of Medical Science. 4. Provide training on impurity analysis to drug analysts of the Royal Thai Police and the Department of Medical Science 5-1. Give advice on construction of the ONCB drug information system for the practical use of impurity profiling. 5-2. Make necessary recommendations on usage of the system.</p>	<p>Equipment *Equipment needed for Thailand *equipment needed for drug analysis in the participating CLMV countries. Financing for Training * Training of Thai drug analysts (Cost starting to be worked out) *Training drug analysts from CLMV in Thailand and in CLMV countries (Financing expenditure related with Japanese experts and trainees from CLMV countries) *Training in Japan for Thai and CLMV drug analysts (All necessary financing)</p>	<p>Pre-conditions Japanese Side and Thai Side will take an initiative to CLMV countries for their consolidated efforts in the region.</p>	
			<p>Space (to be provided at ONCB) *An office for Japanese experts *A training room *A lecture room</p>

CLMV countries stands for Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam

5. 評価用のPDM (PDMe)

Project Design Matrix for Evaluation (PDMe)

Project Title: The Regional Cooperation Project on Capacity Building of Drug Analysis for Improvement of Drug Law Enforcement in Thailand, Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam
 Project Period: Three years from June 2002-May 2005
 Target area: Thailand, Cambodia, Laos, Myanmar and Vietnam

Target group: Drug Analysts in Thailand and the CLMV countries, staffs at Narcotic Law Enforcement Bureau and Information Technology Center of ONCB
 Date: 2005.2.6

Narrative Summary		Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal: The drug-related agencies in Thailand and CLMV countries will acquire higher level of law enforcement capabilities in drug analysis and intelligence gathering.		1) Office Statistics 2) Interview with information offices in concerned countries	
Project Purpose: Accurate drug analysis (qualitative, quantitative, impurity profiling) will be used practically to strengthen law enforcement capabilities in Thailand and CLMV countries.		1) Record of the number of cases accredited to impurity profiling during the Project period. 2) Interview with key law enforcement officials at the end of the Project period.	-Effective measures will also be implemented in all other law enforcement activities.
Outputs: for CLMV Countries 1. Drug analysts in CLMV countries will acquire the knowledge and technique on qualitative and quantitative analysis. 2. Core staff of laboratory in each CLMV country will acquire the knowledge and technique on impurity profiling. 3. Drug investigators in CLMV countries will acquire the knowledge on law enforcement related with drug analysis.		Comparison of baseline information for each country with the results of follow-up surveys in the course of the Project. Interview with laboratory staff in CLMV countries. Comparison of baseline information before the implementation of the Project with the results of follow-up surveys in the course of the Project.	(1) High level of coordination of ONCB is maintained among concerned agencies in Thailand as well as among drug control agencies in CLMV countries (2) Cooperation among participating countries are ensured.
Outputs: for Thailand 4. Adequate number of drug analysts in provincial and regional laboratories of the Royal Thai Police (RTP) and the Department of Medical Science (DMS) will acquire the knowledge and technique on quantitative analysis. 5. Core staff of drug analysts of the RTP as well as DMS will acquire the knowledge and technique on impurity profiling. 6. Drug investigators in RTP will acquire the knowledge on law enforcement related with drug analysis. 7. Flow chart of analysis result from laboratory via system to law enforcement will be formulated.		Comparison of baseline information before the implementation of the Project with the results of follow-up surveys in the course of the Project. Interview with laboratory staff at RTP and DMS Comparison of baseline information before the implementation of the Project with the results of follow-up surveys in the course of the Project. (1) Project Report (2) Record of the ONCB laboratory and IT Center	
Activities 1. Provide training on qualitative and quantitative analysis to drug analysts in CLMV countries. 2. Provide training on impurity profiling to drug analysts in CLMV countries. 3. Provide training on law enforcement activities to drug investigators in CLMV countries. 4. Provide advanced training on quantitative analysis to drug analysts of the RTP and DMS. 5. Provide Training on impurity profiling to drug analysts of the RTP and DMS. 6. Provide training on law enforcement activities to drug investigators in RTP. 7-1. Give advice on construction of the ONCB drug information system for the practical use of impurity profiling. 7-2. Make necessary recommendations on usage of the system.		Inputs Japanese Side: 1. Personnel 1) Long-term experts - Chief Advisor/Law enforcement - Drug Analysis - Drug Information System 2) Short-term experts 2. Provision of equipment Equipment needed for Thailand Equipment needed for drug analysis in the CLMV countries. 3. Training program 1) Training in Japan for Thai and CLMV drug analysts 2) Training of Thai drug analysts (cost starting to be decided) 3) Training of drug analysts of CLMV countries in Thailand and CLMV countries (cost related with Japanese experts and trainees from CLMV countries) Thai Side: 1. Personnel 1) Project Counterpart Staff -Project Director -Project Manager -Counterpart for Impurity Profiling -Counterpart for Drug Analysis Training -Team of the Strategic Intelligence Division, the Scientific detection Division and the IT Center -Secretary and supporting staff 2. Equipment -A part of the equipment necessary for the implementation of the Project 3. Building - Office for Japanese Experts - Training Room - Lecture Room 4. Cost for Training - Cost for training Thai drug analysts (cost starting to be decided) - Expenditure related to Thai counterparts in terms of training of CLMV analysts in Thailand as well as CLMV countries. CLMV Countries Side: 1. Personnel -Two (2) drug analysts from each CLMV countries as trainees. 2. Facilities -Equipped laboratory to operate GC.	Trainees under the Project will not retire from the training course as well as from their careers.
		Pre-conditions: 1. The drug-related agencies in CLMV countries equip the operational conditions of GC in their forensic laboratories. 2. Safety of Japanese experts is ensured.	

6. プロジェクトの達成状況(1) 日本側投入

カテゴリー	判断基準 投入の質と量、時期が適切であったかどうか。	データ		達成度の評価
		進捗報告書 - C/P 及び J/E - 質問票		
日本側投入				
J1. 専門家	同上	同上	2005年2月時点における達成状況のサマリー	高い
J2. 日本とタイにおける研修	同上	同上	<p>- 2005年1月末現在、長期専門家(84.3 M/M; チーフアドバイザー/薬物取締、薬物分析、薬物情報システム)がR/Dに記載された通りに派遣されている。これに加えて、短期専門家5名(10.8M/M薬物取締)が派遣された。</p> <p>- 専門家に關する投入の質と量、時期は、適切であったと判断される。</p> <p>日本国内における研修</p> <p>- 2005年1月末現在、14名のカウンターパートが日本に派遣された。</p> <p>2002: 3名(薬物情報システム:1名、薬物取締2名)</p> <p>2003: 3名(薬物情報システム:1名、薬物取締2名)</p> <p>2004: 8名(タイ2名、CLMVより6名)が日本で開催された“Analysis of Abused Drug of Indo-China Region Seminar”に参加。</p> <p>タイにおける研修</p> <p>- 2005年1月末現在、50名のカウンターパート(インドネシアからの参加者9名を含む)が参加した。</p> <p>2002: 12名(カンボジア2名、ラオス4名、ミャンマー2名、ベトナム4名)</p> <p>2003: 13名(カンボジア4名、ラオス2名、ミャンマー7名)</p> <p>2004: 16名(カンボジア4名、ラオス4名、ミャンマー4名、ベトナム4名)</p>	高い
J3. 供与機材	同上	同上	<p>- 2005年1月末現在、総額およそ102,352,000(37,824,000 Thai Baht : THB. 1.0= JPY 2.7)が供与された。</p> <p>- 主な機材は、ガスクロマトグラフ(7台)ガス発生機(4台)、高速液体クロマトグラフ(1台)、及びサーバーコンピュータ(2台)とモニター、プリンター、無停電電源装置などの周辺機器である。</p> <p>- これらの供与機材は、評価時点では、適切に利用、維持管理されていた。但し、カンボジア、ラオス、ミャンマーについては、過去に機器の故障が有り、今後の維持管理体制の強化が課題である。</p>	高い
J4. 運営資金	同上	同上	<p>- 研修費用; 1)本邦研修に関わる全ての費用、2)タイ国におけるタイ国薬物鑑定官の研修に関わる費用の大半、3)タイ国と、CLMV各国で開催された薬物分析研修の、CLMV各国の薬物鑑定官に関する費用の大半</p> <p>- 国際セミナー、地域協力、ローカルコンサルタント委託費等。2001年から2005年迄の間で、21,343,000(タイバーツ)</p>	高い
J5. その他	同上	同上		----

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 J/E: 日本人専門家, C/P: タイとCLMVのカウンターパートスタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science, タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency タイ国際協力機構

プロジェクトの達成状況(2) タイ及びCLMV 側投入

カテゴリー	判断基準	データ	達成度の評価
2005年2月時点における達成状況のサマリー			
タイ側投入			
投入(2)	T1. C/Pの配置 投入の質と量、時期が適切であったかどうか。	進捗報告書 - C/P及びJ/E - 質問票	- 2005年1月末現在、11 C/Pが、プロジェクトの開始時から配置されている。(プロジェクト・ダイレクター:1名、プロジェクト・マネージャー:1名、コーディネーター:1名、及び8名の技術C/P(各部署の局長から、薬物取締:3名、薬物分析:2名、薬物情報システム:3名が配置された。) - 更に、ONCBからの8名に加えて、RTP, DMS, TICAから、1名ずつ、合計11名の委員が、日本人専門家(長期)、JICAタイ事務所長とともに、合同調整委員会を構成している。 - タイのC/Pの配置は、質、量、時期ともに適切であったと思われる。 - ONCB内の分析室と必要な施設、及び日本人専門家の執務室
	T2. 建物、施設など	同上	ONCBによるプロジェクトの運営資金は、以下の通り。
	T3. 運営資金、消耗品等	同上	- 機器の維持管理、及び試薬などの消耗品: およそ、75万バーツ - 分析室、執務室の光熱費(水道、電気) - タイ国内の通信費 - タイで行われた研修・セミナーで用いた文房具と消耗品 - CLMV諸国で行われた研修とセミナーの費用の一部(大半は日本側で負担した)
CLMV国投入			
C1. 人的投入	投入の質と量、時期が適切であったかどうか。	進捗報告書 - C/P及びJ/E - 質問票	- CLMV各国から薬物鑑定官2名が研修生として配置された。 - ベトナムの鑑定官1名について、転職のために入れ替えがあったが、これを除いては、当初計画通り、各国から、同じ鑑定官2名が、継続して研修を受けた。
C2. 薬物分析室(ガスクロマトグラフ利用)	同上	同上	- CLMV各国からガスクロマトグラフによる分析のための分析室がプロジェクト活動のために確保された。 - これらの分析室について、過去に電力供給などの問題も有ったが、現在では概ね良好な業務環境が確保されている。
C3. 運営資金、消耗品等	同上	同上	- CLMV各国は、分析室の光熱費(水道、電気)と各国で実施された研修、セミナーのための事務用品を負担した。 - カンボジアとベトナムでは、NACDとIFSが分析用の試薬を負担した。 - ベトナムでは、更に、取縮用の試薬も投入された。

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 J/E: 日本人専門家, C/P: タイとCLMVのカウンターパートスタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science, タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency タイ国際協力機構 NACD: カンボジア 国家薬物対策機関 IFS: ベトナム法医学研究所

プロジェクトの達成状況(3)-1 活動実績

活動	調査事項	データソース	2005年2月時点における達成状況のサマリー	達成度の評価
1. CLMV 諸国の薬物鑑定官に、定性・定量分析の訓練を行う。	活動は適切に実施されたか?	- 進捗報告書 - C/P 及び J/E - 質問票 - インタビュー	- CLMV 諸国の薬物鑑定官に対する研修は、'02年8月、'03年2月、11月、'04年3月の四回、各国のシニアレベルの薬物鑑定官を対象にして、タイで行われた。(のべ参加者数 25名) - また、計7回の巡回指導が CLMV で行われ ('03年3月、7月、9月、10月、'04年2月)、のべ57名の鑑定官が研修に参加した。 - "Analytical Manual of Drugs of Abuse" が研修の経験を踏まえて作成された。	高い
2. CLMV 諸国の薬物鑑定官に、不純物分析の訓練を行う。	- 同上 -	- 同上 -	- 各国のシニアレベルの薬物鑑定官を対象にして、不純物分析の訓練が実施された。 - 研修は、タイで二回 ('04年7月、11月)、ベトナムで二回 ('04年7月、8月)行われ、合計26名の CLMV 薬物鑑定官が参加した。(タイ研修: 16名、ベトナム巡回指導: 10名) - タイでの二回の研修には、インドネシアから合計9名の研修生が、技術交換事業の一環として参加した。 - UNODC の協力により、不純物分析の研修マニュアルが作成された。	高い
3. CLMV 諸国の薬物取締官に、法執行の訓練を行う。	- 同上 -	- 同上 -	- 2005年1月末迄に、18回の取締の巡回指導が実施された。のべ参加人数は、209名である。 2002: のべ参加人数 21名・3回 (ラオス、ミャンマー、ベトナム) 2003: のべ参加人数 56名・6回 (カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム) 2004: のべ参加人数 132名・9回 (カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム) - 国別の参加者人数は、カンボジア(53)、ラオス(56)、ミャンマー(45)、ベトナム(55)。 - セミナー用テキストが作成された。	高い
4. RTP と DMS の薬物鑑定官に、高度な定量分析の訓練を行う。	- 同上 -	- 同上 -	- 2002年7月から2003年7月の間に、RTP と DMS のシニアレベルの薬物鑑定官を対象に合計4回の定量分析の研修が行われた。 - のべ参加者数: 46名	高い
5. RTP と DMS の薬物鑑定官に、不純物分析の訓練を行う。	- 同上 -	- 同上 -	- RTP と DMS の薬物鑑定官に対する不純物分析の巡回指導は2004年の7月と8月に実施された。 - のべ参加者数は、65名 (RTP 60名 DMS 5名)。 - その他、ONCB における研修が、2004年1月と10月に実施された。 - のべ参加者数は、24名 (RTP 23名 DMS 1名)。	高い
6. RTP の薬物取締官に、法執行の訓練を行う。	- 同上 -	- 同上 -	- 2005年1月末迄に、4回の取締のセミナーが、ONCB と RTP の捜査官を対象に実施され、のべ、45名の参加があった。 - セミナー用テキストが作成された。 - セミナーでは、ONCB の取締官が一部、講師を務めた。	高い

プロジェクトの達成状況(3)-2 活動実績

活動	調査事項	データソース	2005年2月時点における達成状況のサマリー	達成度の評価
7-1. 不純物分析の実用化のために、ONCB 薬物情報システムの構築に助言を与える。	-同上-	-同上-	<ul style="list-style-type: none"> - ONCB 薬物情報システムの構築が進行中であるが、現時点での進捗は、当初計画に対して遅れている。遅れは、情報技術センターのメインフレームを用いた犯罪データベースと、捜査部門のオープンソースのシステムを統合する上での技術的な難しさに起因している。 - システム構築委託先の企業が、可能な対応策を進めており、協力期間内に、システムの構築は終了する見込みである。 - 2004年11月からは、ONCBの副次官と情報技術センターのセンター長を含め、システムの利用部門（Narcotics Analysis and Technical Service Institute and Strategic Intelligence Division等）との週1回の打合せを実施しており、情報を共有するように務めている。 - ONCB職員を対象として、計4回の研修が行われた。（UNIX基礎・2003年2月、UNIX上級・2004年1月、SQL・2004年12月、JAVA・2005年1月） - のべ参加者数：72名 - システムの利用についてのアドバイスを通直行ってきたが、まだ、システム自体が完成していない。 	<p>高い -中程度</p>
7-2. システムの利用について提言を行う。	-同上-	-同上-		-----
活動の実施プロセス				
	意思決定は遅滞・問題なく行われたか（モニタリングシステムの構築も含め）。	<ul style="list-style-type: none"> - 進捗報告書 - C/P及びJ/E - インタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> - 意思決定に特段の問題は見あたらない。 - 合同調整委員会が5回開催（2002年7月5日、12月3日、2003年5月16日、2004年7月2日、2005年1月17日）された他に、プロジェクトの進捗をモニターするための臨時会議が招集された（C/Ps, J/Es及びJICAスタッフが参加）。 	高い
	プロジェクトの管理・運営上の問題は無かったか。	-同上-	-プロジェクトの管理・運営上の問題に特段の問題は見あたらない。	高い
	JICAの本部、参加5カ国の事務所は、プロジェクトの円滑な進捗のために、適時、十分な支援を行ってきたか。	-同上-	-JICAの本部、参加5カ国の事務所は、適直、適切な支援を行ってきており、特段の問題は見あたらない。	高い

注：CLMW: カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム各国 J/E: 日本人専門家、C/P: タイとCLMVのカウンターパートスタッフ、ONCB: タイ薬物統制委員会、RTP: タイ警察、DMS: Department of Medical Science、タイ保健省 医科学局、TICA: Thai International Cooperation Agency タイ国際協力機構

プロジェクトの達成状況(4)-1 上位目標、プロジェクト目標、成果の達成状況

プロジェクトの要約 (PDMe)	指標	データ入手手段	2005年2月時点における達成状況のサマリー	達成度の評価
<p>上位目標: タイ国と CLMV 諸国の薬物取締機関が、薬物分析と情報収集において、より高度な法執行の能力を獲得する。</p>	<p>1) 実際の逮捕件数、壊滅した薬物製造基地の数が増加する。 2) 押収された薬物量と、全製造薬物(推定値)に対する割合が増加する。</p>	<p>- 進捗報告書 - C/P 及び J/E - 質問票 - インタビュー</p>	<p>- 現時点で、上位目標の達成度を判断するのは、難しい。 - しかし、現行のプロジェクト活動がプロジェクトの現在の活動が、CLMV 諸国の薬物対策組織との緊密な連携の下に、ONCB の手により主体的に継続されるなら、上位目標の達成の可能性は高いと思われる。</p>	<p>高い</p>
<p>プロジェクト目標: 正確な分析技術(定性・定量、不純物分析技術)が法執行強化のために、実際にタイ国と CLMV 諸国で用いられる。</p>	<p>1) 不純物分析が実際の捜査に用いられた件数が増加する 2) 定性・定量分析が実際の捜査に用いられた件数が増加する 3) タイ国、CLMV 諸国で分析技術の取締捜査へのインパクトが生ずる。</p>	<p>- 同上 -</p>	<p>- 不純物分析は、プロジェクトによってタイ国及び CLMV 諸国に導入された技術である。タイ国においては、不純物分析は、日常的に行われ、取締に用いられている。 - CLMV 諸国では、不純物分析は、最近になって開始されたばかりであり、分析数はまだ限られている(カンボジア: 30 サンプル、ラオス: 13 サンプル、ミャンマー 13 サンプル、ベトナム: 30 サンプル)。 - しかし、ベトナムでは、既に 10 件の実際の捜査に役立ったことが報告されている。 - 定性・定量分析は、タイ国では、定期的に、また、CLMV 諸国では、ほぼ定期的に行われるようになってきている。結果として、取締の効率的、正確な実施に寄与している他、分析の結果により、裁判における量刑、判決の精度が向上している。 - 定性・定量、不純物分析技術の導入により、効率性、分析精度が向上し、取締の効率性、精度も向上した。</p>	<p>高い</p>
<p>CLMV 各国向け成果 1. CLMV 諸国の薬物鑑定官が、定性、定量分析の技術と知識を獲得する。</p>	<p>CLMV 諸国で、GC を十分に活用出来る薬物鑑定官の数が増加する。</p>	<p>- 同上 -</p>	<p>- プロジェクト開始以前には、CLMV 各国の薬物分析施設には、ベトナムを除き、GC は導入されていなかった。 - 各国の薬物鑑定官の自己評価によれば、GC を日常業務で活用している(定性・定量分析の技術と知識を有している)薬物鑑定官の数は、以下に示すとおりである。 - カンボジア: 0/4 → 4/8, ラオス: 0/4 → 2/4, ミャンマー: 0/13 → 2/13, ベトナム: 12/28 → 13/22 (分子は条件を満たす薬物鑑定官の数。分母は薬物鑑定官全体の数。カンボジアとベトナムについては、増員と、組織編成の関係で薬物鑑定官の数に変化がある)。 - 終了時評価の実施時点における薬物鑑定官の自己評価によれば、中核となる薬物鑑定官は、プロジェクトの研修を通じて、不純物分析の知識と技術を身に付けている</p>	<p>高い</p>
<p>2. CLMV 諸国で、中核となる薬物鑑定官が、不純物分析の知識と技術を獲得する。</p>	<p>CLMV 諸国で、少なくとも一人の薬物鑑定官が不純物分析の知識と技術を習得する。</p>	<p>- 同上 -</p>	<p>- カンボジア: 0/4 to 2/8, ラオス: 0/4 → 2/4, ミャンマー (CEO Yangon): 0/13 → 2/13, ベトナム (IFS Hanoi and Ho Chi Minh City): 0/28 → 4/22 (分子は条件を満たす薬物鑑定官全体の数。分母は薬物鑑定官全体の数。カンボジアとベトナムについては、増員と、組織編成の関係で薬物鑑定官の数に変化がある)</p>	<p>高い</p>

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 J/E: 日本人専門家, C/P: タイと CLMV のカウンタートップ, ONCB: タイ薬物統制委員会, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science, タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency タイ国際協力機構

プロジェクトの達成状況(4)-2 上位目標、プロジェクト目標、成果の達成状況

プロジェクトの要約 (PDMe)	指標	データ入手手段	2005年2月時点における達成状況のサマリー	達成度の評価
<p>3. CLMV 諸国で、薬物取締官が薬物分析に関連する取締の知識を身に付ける</p>	<p>薬物分析に関する取締の知識を身に付けた薬物取締官の数が増加する。</p>	<p>- 進捗報告書 - C/P 及び J/E - 質問票 - インタビュー</p>	<p>- 終了時評価の時点までに、CLMV 諸国の、のべ209人の取締官が、プロジェクトの研修とセミナーを受講した。 - 研修とセミナーの受講生に対するインタビュアー、質問票の回答等から、彼等が、組織的で合法的な取り締まり方法について、及び、薬物分析をどのように取締に活かしていくかについて、概ね理解していた。また、プリテストキットについても、日常的に捜査の中で適用している事が分かった。 - 研修・セミナーで得た知識は、日常業務の中で、同僚或いは、部下の捜査官に伝えていることも確認出来た。</p>	<p>高い</p>
<p>タイ国向け成果 4. RTP (Royal Thai Police) と DMS (Department of Medical Science) の州、地方分析施設において、適当な数の薬物鑑定官が定量分析に関する知識と技術を獲得する。</p>	<p>GCを十分に活用出来る薬物鑑定官の数が増加する。</p>	<p>-同上-</p>	<p>- RTP と DMS の薬物鑑定官の自己評価によれば、定量分析に関する知識と技術を獲得した薬物鑑定官は増加したものと考えられる (RTP で四十名が研修に参加)。</p>	<p>高い</p>
<p>5. RTP と DMS において中核となる薬物鑑定官が、不純物分析に関する知識と技術を獲得する。</p>	<p>RTP と DMS で、少なくとも一人の薬物鑑定官が不純物分析の知識と技術を習得する。</p>	<p>-同上-</p>	<p>- RTP と DMS スタッフに対するインタビュアーの結果、中核となる薬物鑑定官が、不純物分析に関する知識と技術を獲得しているものと判断される (RTP : 13名、DMS:1名が参加)。</p>	<p>高い</p>
<p>6. RTP の薬物取締官が、薬物分析に関連する取締の知識を身に付ける。</p>	<p>薬物分析に関する取締の知識を身に付けた薬物取締官の数が増加する。</p>	<p>-同上-</p>	<p>- セミナーの参加者へのインタビュアーと質問票の回答の結果から、RTP の取締官は、薬物分析と取締の関連性、タイ国の取締法と日本の取締法の対比などについて、よく理解していることが確認出来た。</p>	<p>高い</p>
<p>7. ONCB において、薬物鑑定所で得られた分析結果が情報システムを經由して法執行へと向かう円滑な手順が策定される。</p>	<p>1) 不純物分析の実用化のための ONCB 薬物情報システムが構築される。 2) 構築されたシステムに蓄積されるデータ数が増加する。 3) セミナーの回数と、法執行への手順を理解する捜査官の数が増加する。</p>	<p>-同上-</p>	<p>- 薬物情報システムの構築は現在進行中である (2005年2月時点で、300ケースが登録されている)。 - 当初のスケジュールよりも遅れている。原因は、ONCB の情報技術センター内のメインフレームと薬物分析情報システムとを結びつける技術的な難しさにある。 - しかし、システム開発委託先を通じて対応手段が講じられており、協力期間の終了までには、システムの完成がなされる見込みである。</p>	<p>高い-中程度</p>

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 J/E: 日本人専門家, C/P: タイとCLMVのカウンターパートスタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science, タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency タイ国際協力機構

7. 評価グリッド調査結果表 評価グリッド 妥当性(1)

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価 (高い/ 中程度 /低い)
	大項目	小項目			
妥当性 プロジェクトの実施の正当性、必要性は有るか確認し評価する。	プロジェクトは、タイとCLMV諸国の政策に合致しているか。	△	△	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトは、以下に示すようにタイ及びCLMV各国の政策と高い整合性を持っている。 - インドシナ地域において、違法薬物の密造・密売及び乱用は、長年にわたる懸案問題となってきた。 - アヘンやヘロインが主体であった従来型の違法薬物は、対政府をはじめとする各国の撲滅の努力により減少しているが、これに代わり、近年はアンブフェタミン系覚醒剤の密造と密売、若年層による乱用が大きな社会問題となっている。 - タイ国の第9次国家社会経済開発計画の中で、タイ政府は、社会の安定を保ちながら持続的に発展することを目指すとしている。貧困層に開発の焦点が当てられ、農民救済、地方村落開発、中小企業支援などに加え、薬物対策が政府の重点政策が挙げられている。 - CLMV国：1993年、タイ、中国、ミャンマー、ラオスの4カ国は、UNDCPとの間で、薬物統制に関する覚書きを交わし、薬物の供給削減のための法執行の強化と、需要削減のための地域アクションプランの策定を目指すこととなった。 - 1995年には、カンボジアとベトナムがMOUに加わった 	高い
	プロジェクトは、日本の海外援助方針と国別援助方針等に合致しているか？	<ul style="list-style-type: none"> - CLMV各国の薬物鑑定官のニニエズとの整合性 - タイとCLMV諸国ターゲットグループの規模の適切さ。 	<ul style="list-style-type: none"> - タイの場合と同様に、CLMV諸国の薬物鑑定官は、定性・定量、不純物分析技術の能力向上を通じて、法執行の強化を実現し、効果的な薬物対策を実施していく使用を持つ。 - ターゲットグループの規模は230名のタイの薬物対策機関の鑑定官と60名のCLMV諸国の薬物鑑定官にNLEBとITCの240名のスタッフを加えた530名である。 - プロジェクトは、タイとCLMV諸国の薬物鑑定官の大半をターゲットグループとしており、規模は、適切なものと考えられる。 - 日本のタイに対する援助は、タイがインドシナにおける最も民主的な国家であり、かつ、外交上重要なパートナーであるという認識の下に行われている。 - 1996年以降の主要な援助分野は、①社会セクター、②環境保全、③地域・農村開発、④経済基盤整備、⑤地域協力支援である。 - 社会セクターでは、薬物対策への支援が、社会弱者救済、社会福祉、教育とともに重点課題として挙げられている。 - また、日タイのパートナーシッププログラムが、インドシナ地域協力の一環として、CLMV諸国の開発促進のために実施されており、日本の援助を通じてタイが蓄積した経験とリソースを活用していく事が、同地域の効果的な援助の実現に不可欠である。 - タイを中心とした薬物対策の地域協力である本案件の、日本の対外援助政策との整合性は高い。 	高い	
	プロジェクトは、日本の海外援助方針と国別援助方針等に合致しているか？	<ul style="list-style-type: none"> - JTICAのタイ国への技術協力の優先分野は、①社会セクター、②環境保全、③地域・農村開発、④経済基盤整備、⑤地域協力支援の5分野である。地域協力支援の中で、インドシナにおける薬物対策が協力課題として取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> - JTICAのタイ国への技術協力の優先分野は、①社会セクター、②環境保全、③地域・農村開発、④経済基盤整備、⑤地域協力支援の5分野である。地域協力支援の中で、インドシナにおける薬物対策が協力課題として取り上げられている。 		高い

評価グリッド 妥当性(2)

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価 (高い/ 中程度 /低い)
	大項目	小項目		
妥当性 プロジェ クトの実 施の正当 性、必要 性は有る か確認し 評価する。	手段としての適切 さ	日本の技術的な優位性	<p>評価内容サマリー</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本は、薬物分析に十分な経験を有し、専門家は、不純物分析に関わる技術を相手国のカウンタースタッフに転移する能力を持つ。 - また、科学的証拠に基づき法執行活動に関わる知識と技術を移転するための経験と能力を有している。 	高い
		プロジェクトの策定 (地域協力案件)の適 切さ		

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 J/E: 日本人専門家, ONCB: タイ薬物統制委員会, NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau/薬物取締局, ITC: Information Technology Center/情報技術センター, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science/タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency/タイ国際協力機構

評価グリッド 有効性

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価 (高い/ 中程度 /低い)
	大項目	小項目			
有効性 プロジェクト の効果(目標 の達成度)を 問う	成果の達成状況 (実績表参照)			- 殆どの成果が予定通りに達成された。 - 薬物分析情報システムの構築(成果7)は、ONCBの情報技術センター内のメインフレームと薬物分析情報システムとを結びつける技術的な難しさにより、当初のスケジュールよりも遅れている。 - システム開発委託先を通じて対応手段が講じられており、協力期間の終了までには、システムの完成がなされる見込みである。	高い 中程度
	プロジェクト目 標の達成見込み	正確な分析技術 (定性・定量、不純 物分析技術)が法 執行強化のため に、実際にタイ国 とCLMV諸国で用 いられているか。	- プロジェクト 開始時と現在の 状況の比較	- タイ国とCLMV諸国の薬物鑑定官と法執行官は、プロジェクトの下で、過去2年半にわたり日本人専門家とタイC/Pにより実施された研修とセミナーへの参加を通じて、薬物分析と取締の能力を向上させた。 - タイとCLMV諸国の薬物鑑定官は定性・定量、不純物分析技術の知識を向上させ、ガスクロマトグラフィによる分析の技術を身に付けた。その結果、分析作業の効率と精度が向上した。 - CLMV諸国では、薬物取締官が組織的で合法的な捜査方法に対する理解を深め、法執行の強化に寄与している。研修で指導したプリテストキットの使用が、日常業務として根付き、捜査の精度の向上に効果があった。	高い
	プロジェクト目 標の進捗、達成 に貢献した外部 要因は有る		- C/PsとJ/Es のコメント	- プロジェクト開始以前に、ONCBにおいて、個別専門家派遣による指導が、3年間にわたって実施されている。この期間中に、ONCBの薬物鑑定官の知識・技術力が向上し、指導教材の原形が作成され、技術移転の基礎が築かれている。 - プロジェクトは、個別専門家の派遣から、連続して実施され、この基礎を有効に活用して実施された。	高い
	プロジェクト目 標の進捗、達成 を阻害した外部 要因は有る	(1) 実施機関 (ONCB)とタイ国 内、CLMV各国の関 係機関との連携 (2) 参加国間の 関係 (3) 実施機関 (JICA本部、各国 事務所)の連携は 適切であったか。 (4) その他	- C/PsとJ/Es のコメント	過去2年半の間、実施機関(ONCB)とタイ国内、CLMV各国の関係機関との連携は概ね良好であった。 - 参加国間の国際政治の面で、過去2年半の間に、不安定な時期があった。 - このため、カンボジアとミャンマーへの日本人専門家への派遣が遅れた時期があった。 - 関係が改善された後(2003年)、カンボジアとミャンマーの研修生に補充研修を行って対応した。 - 実施機関(JICA本部、各国事務所)の連携に特段の問題は無かった。	高い 中程度
			- UNODCとの連携により、不純物分析の研修と教材の作成が行われ、タイ及びCLMV国の鑑定官の能力向上に貢献した。		高い

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 J/E: 日本人専門家, C/P: タイとCLMVのカウンターパートスタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau/薬物取締局, ITC: Information Technology Center/情報技術センター, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science/タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency/タイ国際協力機構

評価グリッド 効率性(1)

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価 (高い/ 中程度 /低い)
	大項目	小項目		
効率性 プロジェクトの効率性 (投入の適切さと成果の発現)	投入の適切さ(投入は規模、質、タイミングの点で適切か?)	<p>専門家の数、派遣の時期、専門領域の適切さ等</p> <p>投入機器の項目、仕様、投入時期</p> <p>研修生の数、研修分野、研修内容、派遣の時期</p> <p>タイ側C/Pの数、能力、配置の時期</p> <p>建物・施設の種類、環境等</p> <p>予算規模の適切さ</p>	<p>計画と実績の比較</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p>	<p>評価内容サマリー</p> <p>-2005年1月末現在、長期専門家(84.3 M/M; チーフアドバイザー/薬物取締、薬物分析、薬物情報システム)がR/Dに記載された通りに派遣されている。これに加えて、短期専門家5名(10.8M/M 薬物取締)が派遣された。 - 専門家に関する投入の質と量、時期は、適切であったと判断される。</p> <p>-2005年1月末現在、総額およそ 102,352,000 (37,824,000 Thai Baht : THB. 1.0= JPY 2.7) が供与された。</p> <p>- 主な機材は、ガスクロマトグラフィー(7台)ガス発生機(4台)、高速液体クロマトグラフ(1台)、及びサーバーコンピュータ(2台)とモニター、プリンター、無停電電源装置などの周辺機器である。</p> <p>- 供与機材は、タイ及び、CLMV 各国で適切に利用され、維持管理されている。</p> <p>- 実績表に示したように、様々な研修が実施された。 CLMV 国のターゲットグループに対して :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) セミナー: "Analysis of Abused Drug of Indo-China Region" (日本で開催) (6名)。 2) タイ国における薬物分析研修 (41名) 3) CLMV への巡回指導(薬物分析) CLMV (67名) 4) CLM への巡回指導(取り締まり捜査) (209名) <p>タイ国のターゲットグループに対して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) C/P 本邦研修 (6名) 2) RTP と DMS 薬物鑑定官に対するセミナー (140名) 3) RTP と ONCB 取締官に対するセミナー (45名) <p>- 研修生の数、研修分野、研修内容、派遣の時期は適切である。</p> <p>- ONCB の薬物鑑定官は、1999年からは日本人の個別は兼専門家による指導を受けており、プロジェクトの開始時には、不純物分析に関しても、十分な知識と技術を身に付けていたものも居る。 - 他のC/Pについても、数、能力などの面で特段の問題は無かった。</p> <p>- タイとベトナムに関しては、建物・施設の種類、環境等の問題は無かった。 - カンボジア、ラオス、ミャンマーについては、インフラの未整備(電力供給)からGCの稼働が出来ない時期があった</p> <p>- ターゲットグループの規模は230名のタイの薬物対策機関の鑑定官と60名のCLMV 諸国の薬物鑑定官に NLEB と ITC の240名のスタッフを加えた530名である。 - プロジェクトの後半には、RTP と CLMV 国の法執行官も技術移転の対象として活動が行われた。 - タイと CLMV 国のターゲットグループの数、加えて、プロジェクトの効果(取り締まり強化)によって将来薬物の被害から逃れ得る潜在的な受益者の数を考慮すると、プロジェクトの予算規模は適切であると思われる。</p>

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 I/E: 日本人専門家, C/P: タイと CLMV のカウンターパートスタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau/薬物取締局, ITC: Information Technology Center/情報技術センター, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science/タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency/タイ国際協力機構

評価グリッド 効率性(2)

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価 (高い/中 程度/低 い)
	大項目	小項目			
他の類似プロジェクトとの予算規模の比較		研修1回あたりのコスト	C/PsとJ/Esのコメント	-研修生の数に対して、1回あたりの研修コストは、妥当なものであると考える。	---
効率性の阻害・貢献要因		プロジェクトの効率性を阻害・貢献した要因は存在したか。	C/PsとJ/Esのコメント	-カンボジア、ラオス、ミャンマーでは、GCの技術サービスが受けられない(代理店不在)。 -薬物情報システム構築の技術的な難度が高い。	中程度

評価グリッド インパクト(1)

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価 (高い/中 程度/低 い)
	大項目	小項目			
インパクト プロジェクトの長期的、波及効果検証	上位目標は達成される見込みがあるか。	(1) 実際の逮捕件数、壊滅した薬物製造基地の数の増加 (2) 押収された薬物量と、全製造薬物(推定値)に対する割合の増加	-計画と実績の比較	-薬物鑑定官と、薬物取締官の能力は、プロジェクトの実施した活動を通じて向上している事が確認出来る。また、参カ国の関係者による人的、技術的な交流も開始されていることから、タイ国、CLMV 諸国において、より高度な法執行の能力を獲得していくための基礎が出来上がったものと判断する。 -以下の2点が満たされるなら、本協定期間終了後、3年から5年程度の間に、上位目標の達成の可能性は高いと思われる。(1) プロジェクトの現在の活動が、CLMV 諸国の薬物対策組織との緊密な連携の下に、ONCBの手ににより主体的に継続されること、(2) 薬物分析情報システムの完成が大幅に遅れないこと。	高い-中程度
波及効果の検討(予想内、予想外、正、負)		タイ国、CLMV 国の薬物対策に関するインパクト	C/PsとJ/Esのコメント	-カンボジアでは、薬物対策の一環として、刑事訴訟法の改正手続が、国会で承認手続を受けられており、3月中には改正される見込みである。 -背景として、プロジェクトの下で行われた国際セミナーや研修で他国の鑑定官、取締官等の関係者との情報交換が行われた事、また、定性・定量分析技術の向上により、薬物の分析結果を捜査と、裁判に反映出来る基礎が整った事があげられる。	高い
		組織に対するインパクト	C/PsとJ/Esのコメント	-プロジェクト開始後、2年半余が過ぎ、プロジェクト参カ国の薬物鑑定官は、職務の遂行に必要な知識と技術を身に付けている。今回実施したインタビュー等の結果から、薬物鑑定官が、技術的な向上を裏付けとして、職務に自信を持ち、前向きな態度で臨んでいることが確認出来た。 -プロジェクト期間内に、ONCBの分析室が、薬物取締局から独立した組織となった。これは、鑑定官の働きと、薬物分析の重要性が認識されたためであり、ONCBはプロジェクトの活動を通じて、インドシナにおける、薬物対策の中核組織として知名度を高めた。2004年度にタイで行われた不純物分析技術の研修では、インドネシアからも研修生が参加した。	高い

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 I/E: 日本人専門家, C/P: タイとCLMVのカウンターパートスタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau/薬物取締局, ITC: Information Technology Center/情報技術センター, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science/タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency/タイ国際協力機構

評価グリッド インパクト(2)

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価 (高い/中程度/ 低い)
	大項目	小項目			
インパクト プロジェクトの長期的、波及効果検証	波及効果の検討 (予想内, 予想外, 正、負)	技術的インパクト	C/PsとJ/Esの コメント	<p>評価内容サマリー</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの活動により、各国の薬物鑑定官と薬物取締官の多くが、職務を遂行するための知識と技術を向上させた。 - ガスクロマトグラフィー機器の供与により、タイ国、CLMV 国で、不純物分析が可能となった。 - ガスクロマトグラフィー機器により、CLMV 国では、定量・定性分析技術の効率と精度が向上した。 - CLMV 諸国の捜査取締については、ブリテスキットが広く用いられるようになり、分析室での本格的な分析の前にも実施する事により、捜査の精度と効率性が向上した。 - ONCB の薬物鑑定 C/P により、ツールマークと不純物分析の標準化が行われ、タイ国内の他の分析機関に導入された。 - 論文 “ <i>Identification of impurities and statistical classification of Methamphetamine tablet (Ya-ba) seized in Thailand</i> “ が作成され「<i>International Journal of Forensic Science</i>」に掲載された。 - ONCB により 2002-2004 年に、4 冊のテキストが作成され、タイ国内の薬物対策機関に配布された。 - 国際研修、セミナーなどの参加を通じて、参加国の鑑定官の間で、情報の交換を行なうネットワークが形成され、日本人専門家に全面的居に頼ることなく、彼等自身の問題を解決する姿勢が見えるようになった。 - ミャンマーの CCDAC は、自らのウェブサイトで、薬物取締りの実績を公開している。 	高い
		社会・経済的インパクト。	C/PsとJ/Esの コメント		-----





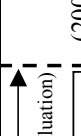
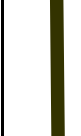

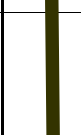
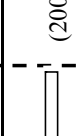









注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 J/E: 日本人専門家, C/P: タイと CLMV のカウンタースタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau/薬物取締局, ITC: Information Technology Center/情報技術センター, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science/タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency/タイ国際協力機構 CCDAC: Central Committee for Drug Abuse Control/薬物乱用統制中央委員会

評価グリッド 自立発展性

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価 (高い/中程度 /低い)
	大項目	小項目			
自立発展性	プログラムの実施による便益の発現、継続に対し、阻害あるいは貢献要因はあるか。	政策面 タイ国政府による政策的サポートの継続性	/	- プロジェクトの方向性は、タイ国の政策と高い整合性を有している。 - また、地域協力のコンセンサスも、プロジェクトを効果的、効率的に実施するために適している。 - 従って、ONCB は、タイ政府からの政策的な支援を、今後も継続して受ける事が予想される。 - プロジェクトの方向性は、CLMV 各国の政策と高い整合性を有している。 - 従って、参加各国による、薬物対策に関する協力関係は継続されるものと予想される。	高い
		組織面 関連組織は活動を実施する能力を持っているのか??			
協力期間終了後の持続性の見込みの検証と評価		財政面 (タイ国) - 財政状況・予算確保	/	- CLMV 諸国については、薬物対策活動の予算が十分に確保されるかどうかは懸念が残る。	高い
		財政面 (CLMV 各国) - 財政状況・予算確保			
		オーナーシップ面 実施機関と関係省庁のオーナーシップは確立されているか?	/	- ONCB は、プロジェクトの便益を、独力で維持していきける基盤と、CLMV 各国の薬物対策で主動的な役割を担う強い使命感を有している。	高い

注: CLMV: カンボジア, ラオス, ミャンマー, ベトナム各国 I/E: 日本人専門家, C/P: タイとCLMVのカウンターパートスタッフ, ONCB: タイ薬物統制委員会, NLEB: Narcotic Law Enforcement Bureau/薬物取締局, ITC: Information Technology Center/情報技術センター, RTP: タイ警察, DMS: Department of Medical Science/タイ保健省 医科学局, TICA: Thai International Cooperation Agency/タイ国際協力機構

8. 日本側投入実績 (1) 日本人専門家派遣実績

	2002												2003												2004												2005																																			
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																	
Long-term Expert 長期専門家 Chief Advisor/Drug Law Enforcement Mr. Kazuharu YAGI (30.03(M/M)/33.00(M/M)) チーフアドバイザー/薬物取締り 八木 一春	(6/16-8/25) 												(2002/10/25-2005/1/31) 												(2002/12/5-2005/1/31) 												(2002/12/25-2005/1/31) 												(2002/10/25-2005/1/31) 												(2005/6/15) 											
	Drug Analysis Dr. Ken TANAKA (26.30(M/M)/29.26(M/M)) 薬物分析 田中 謙												(2002/12/5-2005/1/31) 												(2002/12/5-2005/1/31) 												(2002/12/25-2005/1/31) 												(2005/6/15) 																							
	Drug Information System Mr. Shimichi IIDA (28.00(M/M)/30.97(M/M)) 薬物情報システム 飯田 晋一												(6/16-8/25) 												(2002/12/25-2005/1/31) 												(2002/12/25-2005/1/31) 												(2002/12/25-2005/1/31) 												(2005/6/15) 											
Short-term Expert 短期専門家 (1) Drug Law Enforcement Mr. Yutaka Hashimoto (4.43(M/M)) 薬物捜査 橋本 豊	(2/22-4/11) 												(8/3-10/25) 												(1/19-3/27) 																																															
	(2) Drug Law Enforcement Mr. Kazuhiko Aida (2.30(M/M)) 薬物捜査 相田 明彦												(7/14-9/23) 												(11/11-12/29) 																																															
	(3) Drug Law Enforcement Mr. Kazuhisa Ohkubo (2.40(M/M)) 薬物取締り 大久保和浩																																																																							
(4) Drug Law Enforcement Mr. Shoichi Nakaoka (1.63(M/M)) 薬物取締り 中岡 正一																																																																								

(2) 日本側専門家

(ア) 長期専門家

指導科目	氏名	派遣期間
チーフアドバイザー/薬物取締り	八木 一春	2002/06/16-2002/08/25 2002/10/25-2005/06/15
薬物分析	田中 謙	2002/12/05-2005/06/15
薬物情報システム	飯田 晋一	2002/06/16-2002/08/25 2002/12/25-2005/06/15

(イ) 短期専門家

技術移転分野	氏名	派遣期間
薬物捜査	橋本 豊	2003/02/22-2003/04/11
薬物捜査(1)	橋本 豊	2003/08/03-2003/10/25
薬物捜査(2)	相田 明彦	2004/01/19-2004/03/27
薬物取締り(1)	大久保和浩	2004/07/14-2004/09/23
薬物取締り(2)	中岡 正一	2004/11/11-2004/12/29

(3) C/P 研修

(ア) C/P 日本研修

2002 年度		
研修員名 ()	研修分野	研修期間
1. Mr. Surasit Buasup Director of Information Technology Center, ONCB	薬物情報システム Drug Information Technology	2002/10/15-2002/11/01
2. Mr. Norathep Putthipesat Director of Strategic Intelligence Division, ONCB	薬物取り締まり Drug Law Enforcement	2002/10/15-2002/11/01
3. Mr. Kraivudh Maneeratana Law Enforcement Officer, ONCB	薬物取り締まり Drug Law Enforcement	2002/10/15-2002/11/01
2003 年度		
<u>研修員名 (Title)</u>	<u>Subject</u>	<u>Training Period</u>

1.Ms. Limvanich Khanitha Chief of System and Network technology, ONCB	薬物情報システム Drug Information System	2003/11/04-2003/11/21
2. Ms. Chooard Payear. Investigator, ONCB, Thailand	薬物取り締まり Drug Law Enforcement	2003/11/04-2003/11/21
3.Mr. Sripangoen Kasama Sripangoen, Investigator, ONCB, Thailand	薬物取り締まり Drug Law Enforcement	2003/11/04-2003/11/21
2004 年度		
<u>Name (Title)</u>	<u>Subject</u>	<u>Training Period</u>
1.Mr. Jullapech Chotipun, Investigator, ONCB, Thailand	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina Region	2004/11/04-2004/11/21
2. Ms. Vichet Putthaviriyakorn, Director of Scientific Academic Division, ONCB, Thailand	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina Region	2004/11/04-2004/11/21
3.Dr. Meas Vyrith Director of Narcotic Laboratory, NACD, Cambodia	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina Region	2004/11/04-2004/11/21
4. Mr. Duong Sunnara, Deputy Director of Law Enforcement Department, NACD, Cambodia	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina Region	2004/11/04-2004/11/21
5. Ms. Vongsak Souklatsamy Director, Food and Drug Center, Laos	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina	2004/11/04-2004/11/21

	Region	
6. Mr. Htay Tin Maung Director, Police Colonel, Department of Drug Law Enforcement, CCDAC, Myanmar	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina Region	2004/11/04-2004/11/21
7. Mr. Thein Tin Aung, Director, Chemical Examiner's Office, Myanmar	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina Region	2004/11/04-2004/11/21
8. Mr. Hoang Manh Hung Deputy Director of IFS, Vietnam	インドシナ薬物分 析・取締り Analysis of Abused Drugs of Indochina Region	2004/11/04-2004/11/21

(イ) C/P 第三国研修 (タイ)
薬物分析国内研修

<u>実施期間</u>	<u>研修者氏名</u>	
1. 2002/08/19-2002/08/30	1. Dr. Meas Vyrith, 2. Mr. Chhin Vibol, 3. Ms. Khasithy Vongmany, 4. Mr. Chindavone Thammavongsa 5. Pol. Col. Hoang Manh Hung, 6. Pol. Lt. Nguyen Hoang Ha	Cambodia Cambodia Lao P.D.R Lao P.D.R Vietnam Vietnam
2. 2003/02/03-2003/02/14	1. Mr. U Nyan Min Tum, 2. Pol. Lt. Khin Khin Thein 3. Ms. Khasithy Vongmany, 4. Mr. Khamphoumy Kongchai, 5. Pol. Col. Hoang Manh Hung, 6. Pol. Lt. Nguyen Hoang Ha	Myanmar Myanmar Lao. P.D.R Lao P.D.R Vietnam Vietnam
3. 2003/11/03-2003/11/14	1. Pol. Lt. Khin Khin Thein 2. Mr. Ko Ko Zaw 3. Mr. U Saw Henry, 4. Mr. U Nyan Min Tum, 5. Pol. 2 nd Lt. Thet Naing 6. Dr. Meas Vyrith, 7. Mr. Chhin Vibol,	Myanmar Myanmar Myanmar Myanmar Myanmar Cambodia Cambodia
4. 2004/03/22-2004/03/26	1. Mr. U Nyan Min Tum, 2. Mr. U Saw Henry, 3. Dr. Meas Vyrith, 4. Ms. Chhin Sithibunrith, 5. Ms. Khasithy Vongmany, 6. Mr. Khamphoumy Kongchai,	Myanmar Myanmar Cambodia Cambodia Lao P.D.R Lao P.D.R
5. 2004/06/07-2004/06/16	1. Mr. U Nyan Min Tum, 2. Mr. U Saw Henry, 3. Dr. Meas Vyrith, 4. Ms. Chhin Sithibunrith, 5. Ms. Khasithy Vongmany, 6. Mr. Khamphoumy Kongchai, 7. Mr. Tran Minh Huong, Ph.D, 8. Mr. Nguyen Dang Tien,	Myanmar Myanmar Cambodia Cambodia Lao P.D.R Lao P.D.R Vietnam Vietnam
6. 2004/11/01-2004/11/05	1. Mr. U Nyan Min Tum 2. Mr. U Saw Henry 3. Dr. Meas Vyrith, 4. Ms. Leng Sopheap 5. Ms. Khasithy Vongmany 6. Mr. Khamphoumy Kongchai 7. Mr. Nguyen Xuan Turong 8. Mr. Nguyen Dang Tien	Myanmar Myanmar Cambodia Cambodia Lao P.D.R Lao P.D.R Vietnam Vietnam

[参考資料]

地域特設集団研修

研修分野：インドシナ地域・乱用薬物鑑定セミナー

2001 年度		
研修員名	国名	研修期間
1. Dr. Meas Vyrith	カンボジア	2002/02/26-2002/03/24
2. Ms. Phongsavath Sengchan	ラオス	2002/02/26-2002/03/24
3. Dr. Maung Zaw Win	ミャンマー	2002/02/26-2002/03/24
4. Mr. Tran Huong Minh	ベトナム	2002/02/26-2002/03/24
5. Mr. Vichet Puthaviriyakorn	タイ	2002/02/26-2002/03/24
6. Ms. Duangporn Abhigantaphand	タイ	2002/02/26-2002/03/24
7. Mr. Tada Tungrisook	タイ	2002/02/26-2002/03/24
2002 年度		
研修員名	国名	研修期間
1. Ms. Detvongsone Sisavanh	ラオス	2003/02/18-2003/03/14
2. Ms. Nyo Nyo Win	ミャンマー	2003/02/18-2003/03/14
3. Mr. Du Dinh Dong	ベトナム	2003/02/18-2003/03/14
4. Mr. Sakda Suwansiriphat	タイ	2003/02/18-2003/03/14
5. Ms. Phorachata Juthamard	タイ	2003/02/18-2003/03/14
6. Ms. Poonsup Kosin	タイ	2003/02/18-2003/03/14
2003 年度		
研修員名	国名	研修期間
1. Ms. Chhim Sithibunrith	カンボジア	2004/02/17-2004/03/12
2. Ms. Vongmany Khamsithy	ラオス	2004/02/17-2004/03/12
3. Ms. Aye Aye Maw	ミャンマー	2004/02/17-2004/03/12
4. Mr. Nguyen Dang Tien	ベトナム	2004/02/17-2004/03/12
5. Ms. Tassaporn Klavohm	タイ	2004/02/17-2004/03/12
6. Ms. Kanyanan Siriviriyasomboon	タイ	2004/02/17-2004/03/12

(4) 主要機材リスト (20,000円以上)

タイ (2003)

機材	型式	金額	場所
1. Gas Chromatograph	6890N, AGILENT	1,181,247.00	Narcotics Analysis & Scientific Technology, ONCB
2. Gas Chromatograph	6890N, AGILENT	1,181,247.00	Royal Thai Police
3. High Performance Liquid Chromatograph	The Waters	2,490,000.00	Narcotics Analysis & Scientific Technology, ONCB
4. Computer Server	Sun Fire V480	806,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
5. Computer Server	Sun Fire 280R	806,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
6. SCSI Array		688,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
7. Rack Mount LCD Monitor	ATEN ACS-1216L	95,500.00	Drug Information Technology Division, ONCB
8. Laser Printer	HP Laser Jet 5500DN	163,950.00	Drug Information Technology Division, ONCB
9. Laser Printer	HP Laser Jet 5500DN	30,450.00	Drug Information Technology Division, ONCB
10. UPS	APC Smart 2200	30,450.00	Drug Information Technology Division, ONCB
11. UPS	APC Smart 2200	30,450.00	Drug Information Technology Division, ONCB
12. Terminal Console	Fujitsu, P3AF02660Q-ADAA3E0B0	28,147.00	Drug Information Technology Division, ONCB
13. Terminal Console	Fujitsu, P3AF02660Q-ADAA3E0B0	28,147.00	Drug Information Technology Division, ONCB
14. Terminal Console	Fujitsu, P3AF02660Q-ADAA3E0B0	28,147.00	Drug Information Technology Division, ONCB
15. Terminal Console	Fujitsu, P3AF02660Q-ADAA3E0B0	28,147.00	Drug Information Technology Division, ONCB
16. Flat Monitor		8,270.00	Drug Information Technology Division, ONCB
17. Flat Monitor		8,270.00	Drug Information Technology Division, ONCB
18. Flat Monitor		8,270.00	Drug Information Technology Division, ONCB
19. Printer & Scanner	HP Office Jet 7130	27,150.00	Drug Information Technology Division, ONCB
20. Printer & Scanner	HP Office Jet 7130	27,150.00	Drug Information Technology Division, ONCB
21. Printer & Scanner	HP Office Jet 7130	27,150.00	Drug Information Technology Division, ONCB
22. Internal network card for Office Jet 7130		8,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
23. Internal network card for Office Jet 7130		8,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
24. Internal network card for Office Jet 7130		8,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
25. Internal network card for Office Jet 7130		8,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
26. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
27. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
28. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
29. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
30. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
31. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
32. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
33. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
34. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
35. Fingerprint Authentication Mouse		7,370.00	Drug Information Technology Division, ONCB
36. Ethernet Switch	CISCO catalyst 2950SX-24	58,000.00	Drug Information Technology Division, ONCB
37. Ethernet Switch	CISCO catalyst 2950-24	29,100.00	Drug Information Technology Division, ONCB
38. Network Tool	FLUKE NT-PRO NET Tool Pro	109,700.00	Drug Information Technology Division, ONCB
39. Rack	19", Germany Export Rack 42U	13,600.00	Drug Information Technology Division, ONCB
40. Rack	19", Germany Export Rack 42U	13,600.00	Drug Information Technology Division, ONCB
41. Rack	19", Germany Export Rack 42U	13,600.00	Drug Information Technology Division, ONCB

(タイパーツ)

カンボジア

機材	型式	金額	場所
1. Gas Chromatograph & Gas Generator	AGILENT 6890N Parker	14,135,678	Narcotics Drugs Laboratory of the Secretariat General of National Authority for Combating Drugs

(日本円)

ラオス

機材	型式	金額	場所
1. Gas Chromatograph & Gas Generator	6890N, AGILENT Parker	14,135,678	Food & Drug Quality Control Center

(日本円)

ミャンマー

機材	型式	金額	場所
1. Gas Chromatograph & Gas Generator	6890N, AGILENT Parker	14,135,678	Chemical Examiner's Office

(日本円)

ベトナム

機材	型式	金額	場所
1. Gas Chromatograph & Gas Generator	6890N, AGILENT	14,135,678 (日本円)	Institute of Forensic Science, Hanoi
3. Gas Chromatograph	G1581N, AGILENT	US\$75301.93 (USドル)	Sub-Institute of Forensic Science, HMC

(5) プロジェクト活動経費

Inputs of Local Budget

F.Y. 2002 Item	3,525,352.62 ①+②+③		The 1st Quarter		The 2nd Quarter		The 3rd Quarter		The 4th Quarter		Refund to JICA		Total Expenditure	
	TB		TB		TB		TB		TB		TB		TB	
Ordinary(一般現地活動費)		0.00	TB	1,090,007.00	TB	407,832.00	TB	321,535.00	TB	8,159.39	TB	1,811,214.61	①	
International Seminar(国際 セミナー開催費)		0.00	TB	295,169.00	TB	467,139.00	TB	0.00	TB	766.66	TB	761,541.34	②	
Regional Cooperation(広域 協力活動費)		0.00	TB	0.00	TB	953,068.00	TB	0.00	TB	471.33	TB	952,596.67	③	

F.Y. 2003 Item	6,670,276.04 ④+⑤+⑥+⑦		The 1st Quarter		The 2nd Quarter		The 3rd Quarter		The 4th Quarter		Refund to JICA		Total Expenditure	
	TB		TB		TB		TB		TB		TB		TB	
Ordinary(一般現地活動費)		965,897.38	TB	902,400.00	TB	571,210.59	TB	758,600.00	TB	99,249.53	TB	3,098,858.44	④	
International Seminar(国際 セミナー開催費)		0.00	TB	725,632.00	TB	0.00	TB	812,800.00	TB	73,542.70	TB	1,464,889.30	⑤	
Regional Cooperation(広域 協力活動費)		120,340.00	TB	1,213,201.40	TB	265,864.55	TB	613,700.00	TB	106,577.65	TB	2,106,528.30	⑥	
Local Consultant Contract (ローカルコンサルタント契 約)											TB	4,500,000.00	⑦	

F.Y. 2004 Item	11,147,277.00 ⑧+⑨		The 1st Quarter		The 2nd Quarter		The 3rd Quarter		The 4th Quarter		Refund to JICA		Total Expenditure	
	TB		TB		TB		TB		TB		TB		TB	
Ordinary(一般現地活動費)		2,687,650.00	TB	1,023,180.00	TB	2,136,707.00	TB	649,740.00	TB	0.00	TB	6,497,277.00	⑧	
Local Consultant Contract (ローカルコンサルタント契 約)											TB	4,650,000.00	⑨	

Total Inputs

TB 21,342,905.66

F.Y.2002+F.Y.2003+F.Y.2004

9. CLMV 側投入実績
(1) CLMV 側経費負担実績

2005/2/3 現在

● Results of local budget contribution by implementing agency

Cambodia Installation cost of the Circuit-Breaker

Transportation cost for the Engineers to repair Equipment

Running costs, stationery and consumables of the training which were organized by the Project and counterpart
Costs of Water and Electricity for facilities.

Laos

Installation cost of the Breaker

Running costs, stationery and consumables of the training which were organized by the Project and counterpart
Costs of Water and Electricity for facilities.

Myanmar

Transportation cost for the engineers to repair equipment

Running costs, stationery and consumables of the training which were organized by the Project and counterpart
Costs of Water and Electricity for facilities.

Vietnam

Running costs, stationery and consumables of the training which were organized by the Project and counterpart
Costs of Water and Electricity for facilities.

Thailand Running costs, stationery and consumables of the training which were organized by the Project and counterpart

Costs of Water and Electricity for facilities.

Reagents for Drug analysis, Consumables for the Trainings and Seminars, etc.

(2) CLMV 側提供施設
List Offered Facilities and Drug Analysts in CLMV countries

Country	Facilities	Core Drug Analysts
Cambodia	Equipped laboratory for GC operation in National Authority for Combating Drugs (NACD), Ministry of Interior	(1) Dr. MEAS VYRITH, Director NACD Drug laboratory (2) Mrs. Chhim Sithbunaitit, Chief of the Bureau of Technical Science
Laos	Equipped laboratory for GC operation (3 rooms/approximately 65m ²) in Food and Drug Quality Control Center (FDQCC), Ministry of Health	(1) Mrs. SOUK LATSMAY VONGSACK, Director, FDQCC (2) Ms. VONGMANY, Head of Narcotic Division, FDQCC
Myanmar	Equipped laboratory for GC operation (3 rooms/approximately 36 m ²) in Chemical Examiner's Office, (CEO) Myanmar Police force, Ministry of Home Affairs	(1) Dr. Tin Aung Thien, Director, Office of the Chemical Examiner's Office, Yangon (2) MR. Saw Henry, Assistant Director, Narcotic Section, CEO (3) Mr. Nyan Min Tun, Staff Officer, Narcotic Section, CEO
Vietnam	Equipped laboratory for GC operation (2 rooms/approximately 40 m ²) in institute of Forensic Science in Hanoi, Ministry of Public Security	(1) Prof. HOAN MANH HUNG, Vice Director, Director of Center of Drug Expertise, (2) Mr. Du Dinh Dong, Analysts, IFS, Hanoi, (3) Mr. Ngyen Day Tien, Analysts, IFS, Ho Chi Minh

10. 国際ワークショップ発表資料

Regional Cooperation Project
on
Capacity Building of Drug Analysis
for Improvement of Drug Law Enforcement
in
Cambodia, Lao PDR., Myanmar, Vietnam and
Thailand

Drugs Impurity and Signature Profiling

- ❖ As methamphetamine is major drug of concern in Thailand and the region.
- ❖ Methamphetamine can be produced in one country but distribute in other countries, so the identifying of the source of origin and the smuggling route is necessary for the law enforcement of concerned countries

Thailand project agencies

1. Office of the Narcotics Control Board
Ministry of Justice
- Counterpart to JICA and Chair agency of the Project Joint Coordinating Committee (JCC)
2. Office of Forensic Science and Criminal Identification
Royal Thai Police
- Member of JCC and conductor of drug analysis and IP
3. Department of Medical Sciences,
Ministry of Public Health
- Member of JCC and conductor of drug analysis and IP

Objectives of the project

1. To develop drug laboratories and develop drug analysis capability in the project countries
2. To establish drug Impurity Profiling and Signature Analysis (IP) capability in project countries through equipment support and training
3. To establish database of the profiling results and connect it to drug case database in Thailand at ONCB
4. To support new intelligence to drug suppression units

Main activities of the project

1. Support of 3 long term experts to Thailand during the project period, June 2002-June 2005) to assist the routine implementation of the project
 - 1.1 Law enforcement expert (Head of expert team)
 - 1.2 Drug analysis expert (The expert has been assigned at ONCB in the pilot program since November 1999)
 - 1.3 Information system expert.
2. Support of 5 short term law enforcement experts to assist the law enforcement seminar in every project country
3. Support of equipment and assist the use of equipment to the drug laboratories in the project countries

Main activities of the project (conti.)

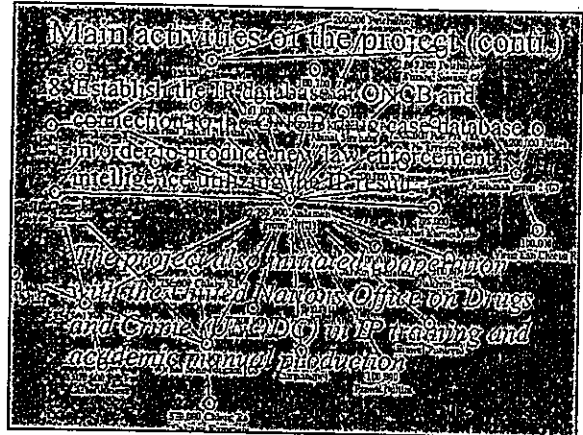


4. series of training to scientists of the project countries in every project countries and in Japan on the topic of:
 - 4.1 Drug qualitative and quantitative analysis (Basic and advance courses)
 - 4.2 Drug impurity profiling and signature analysis

Main activities of the project (conti.)



5. Provide series of law enforcement seminar to drug investigator of every project countries
6. Provide counterpart training in Japan
7. Production of academic manuals



New law enforcement intelligence obtained from the project

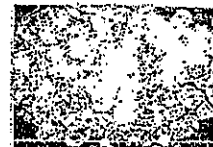
1. Number of producers
2. Capacity of the trafficking syndicate
3. Overview of the trafficking route
4. Intelligence of connection between trafficking syndicates
5. Intelligence to cross-check the drug situation in the region

Thai Methamphetamine (Yaba)

Average weight of one tablet is around 90 milligrams

Each tablet contains :

- > 25-30 % of Methamphetamine Hydrochloride
- > 60-70 % of Caffeine
- > 5-10 % of other binders, by-product and impurities



The system required for IP intelligence

1. Sufficient drug evidence, report of the case and evidence information (Strengthen by the project)
2. Case selection system (Created by the project)
3. IP capability of the laboratory (Created by the project)
4. IP database and Drug Case database (IP database is created by the project)
5. System for integrated analysis between IP result in the IP database and INCB Drug Case database (Created by the Project)

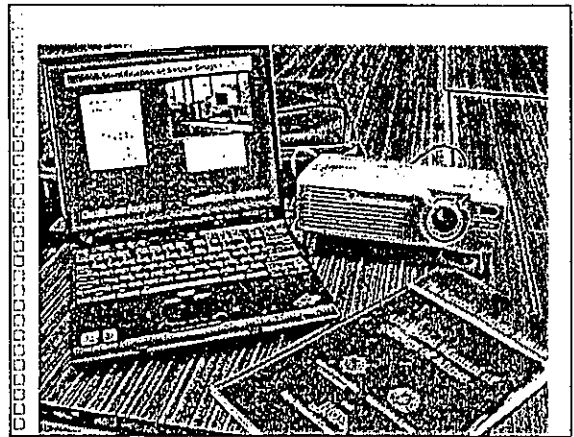
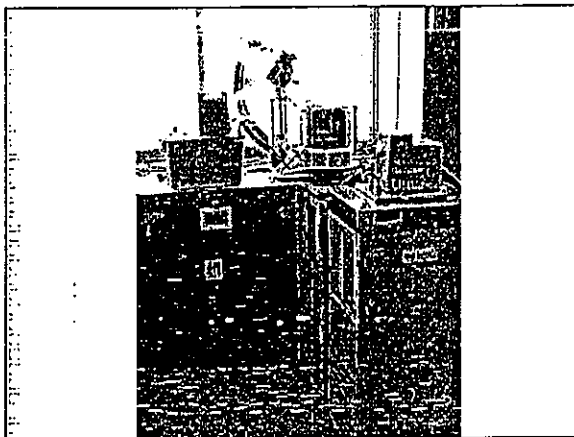
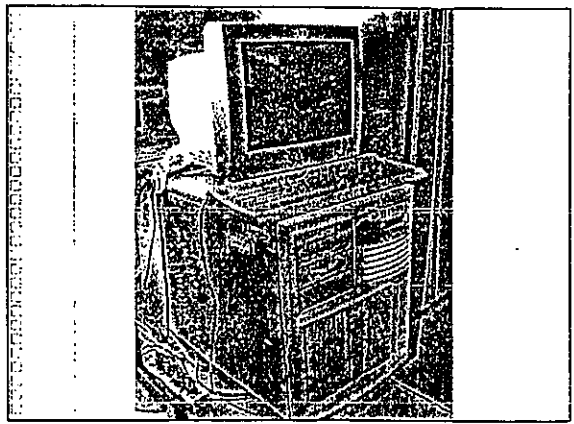
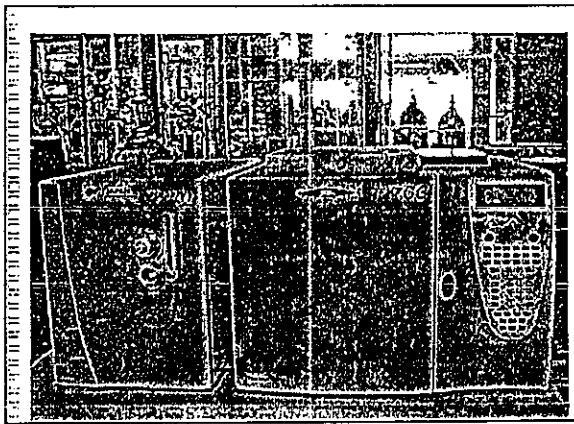
Matching of IP result and LE information in the items available

1. IP results in:
 - The production site according to the grouping (ie. X1, X2 etc.)
 - Other information of the IP case (ie. Offender, trafficking route, method of trafficking, connection with drug producer and other trafficker etc.)
 2. Drug case database information in the relevant topics:
 - Offender
 - Trafficking route, method of trafficking Criteria for Interesting case
 - connection with drug producer and other trafficker
 - etc.
- Matching results = New intelligence obtained from the project

Criteria of success of information exchange

1. Key partner in IP related agencies
2. Frequency of information exchange, regularly and when the situation require
3. Level of information exchange at both domestic and international

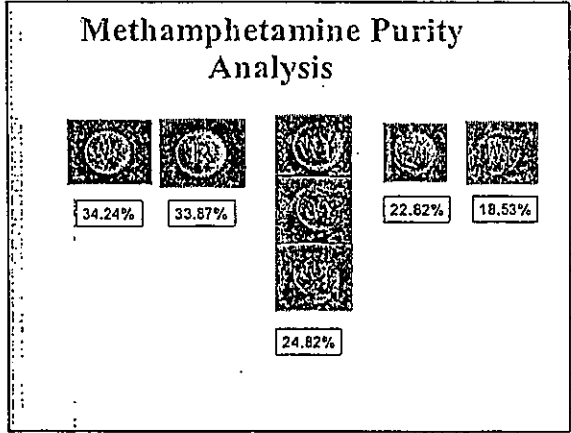
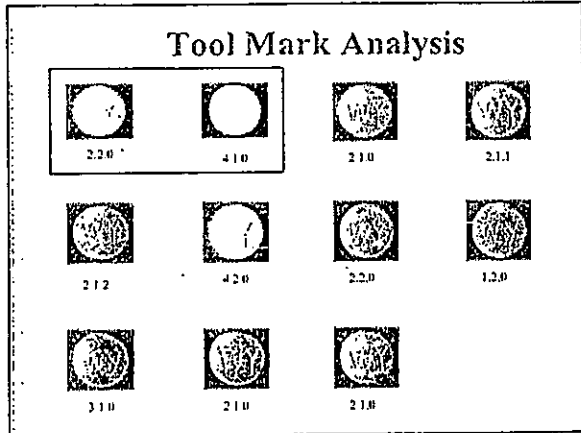
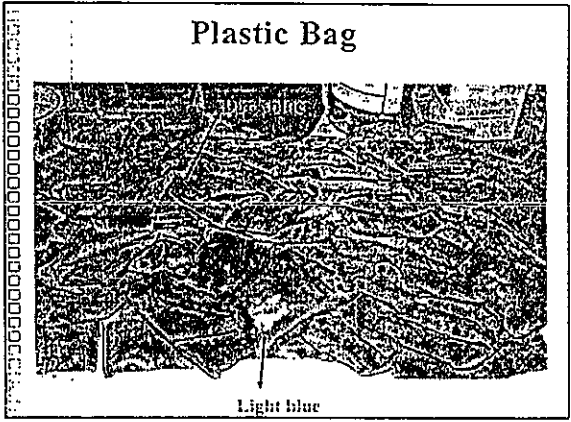
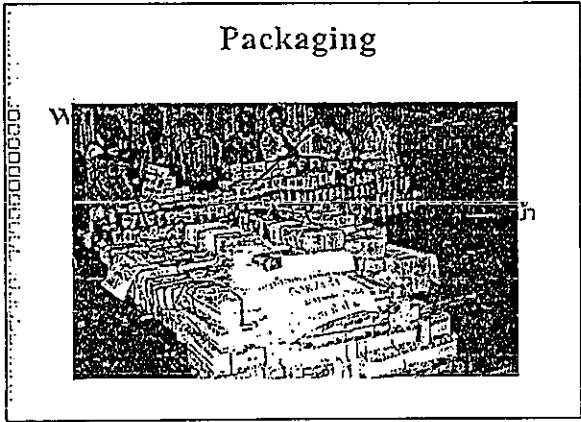
Samples of equipment support by the project to ONCB

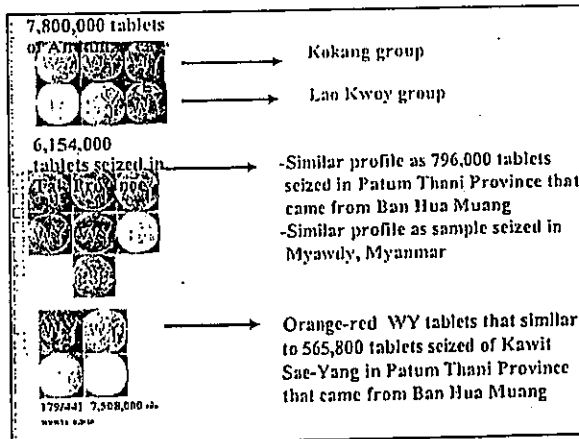
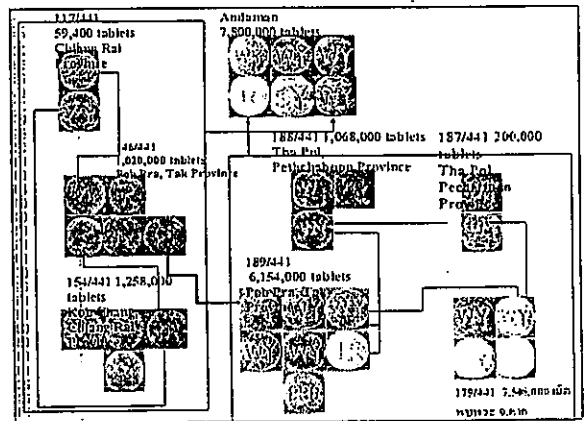
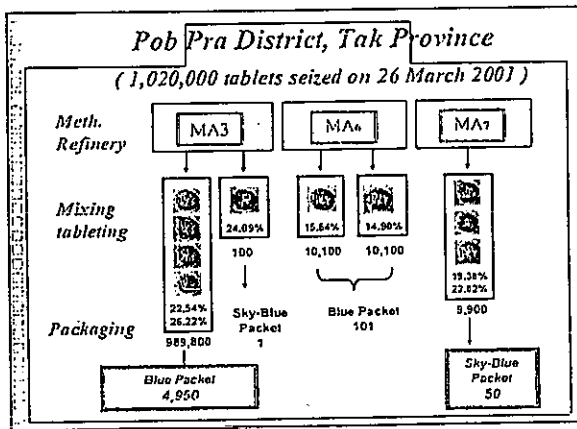
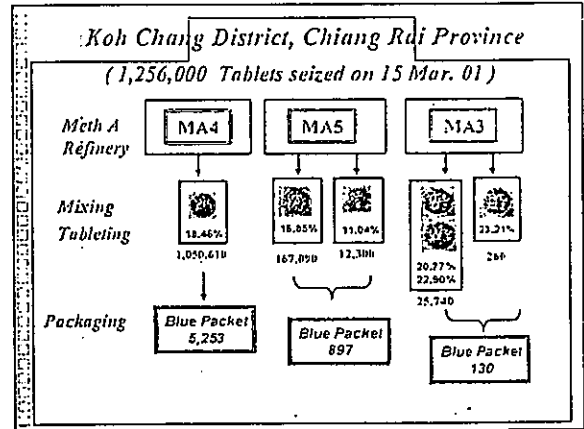
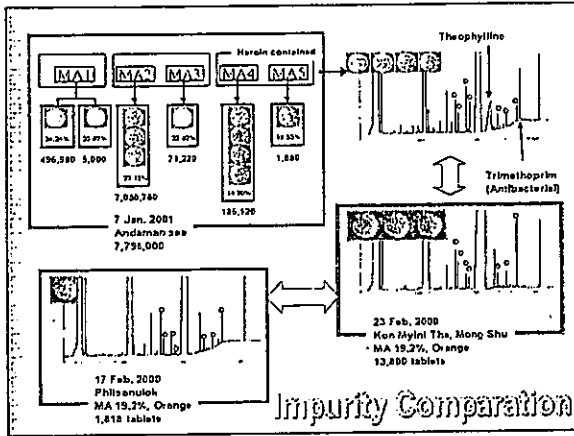


**Drug impurity profiling and signature analysis
At ONCB
between 1997-2005**

Drug evidences IP at ONCB

No.	Period of seizure	Place of seizure	Type of sample	No. of sample
1	1997-2000	Thailand	Yaba	396
2	2000	Myanmar	Yaba	29
3	2001	Thailand	Yaba	786
4	2002	Thailand	Yaba	213
5	2002	Thailand	Ice	10
6	2002	Australia	Yaba	10
7	2003	Thailand	Yaba	107
8	2003	China	Yaba	5
9	2003	China	Ice	5
10	2003	China	Ephedrine	5
11	2004	Thailand	Yaba	392
12	2004	Thailand	Ice	52
13	2005(15 Feb.)	Thailand	Yaba	60
Total				2,070





Main Refineries	1997-2000	2001	2002	2003	2004			
X 1	T1	T1	M1.3	M2.4	T1	T1	T1	
X 2	T2	T2	M1.2	M2.1	M2.2	T2	T2	T2
X 3	T3	T3	C1	T3	T3	T3	T3	
X 4	T4	T4						
X 5			T6	M2.6		T5	T5	
X 6			T7	M1.4	M2.3		T6	T6
X 7			M1.1					
X 8			M2.5		T8	M2.5		
X 9	T5							
X 10			Aus1					
X 11					T11		T11	
X 12							T12	

Present results of IP at ONCB

1. IP of 2,070 drug evident samples seized in Thailand, Myanmar, Cambodia and Australia and China between 1997- 15 Feb. 2005 suggest 12 methamphetamine production sites in the region. (Specified as X1-X12)
2. 29 samples from Myanmar came from 6 production sites
3. From 9 samples from Australia, 1 sample is similar to Yaba seized in Thailand
4. Samples seized in China came from one production site.

Analysis results (conti.)

5. 10 samples supported from Cambodia are old Yaba and similar to the seizures from the North of Thailand.
6. Samples seized between 2002-2004 came from 5 production sites namely: X2, X3, X8, X11 and X12. Majority is X2 and X3, the rest are X8 and X11. There is only one sample of X12.
7. X2 is interesting group and comprised of several seizures. There had been continuous seizure of this group between 2001-June 2004. This group is produced in Ko Kang area Northern Shan State, Myanmar

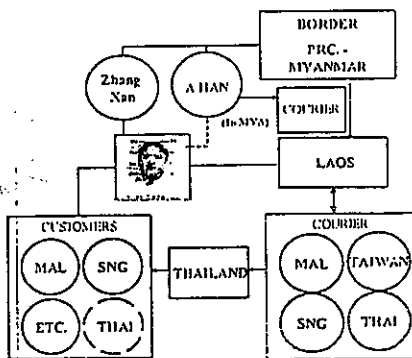


- Methamphetamine packages with the Chinese characters “Ei Phan Pheng Sunn” that means “Safe Journey” have been found since 2001. It is identified that
 - ◆ “Ei Phan Pheng Sunn” packages mostly belongs to Group X2 that has been produced in Kokang province
 - ◆ Drug shipments of this kind are relatively large. Therefore, sometime they have to gather drug from other producer (X3, X5 and X6)
 - ◆ The intelligence reveals that the Thai male named “Sue” is the main distributor of “Ei Phan Pheng Sunn” packages. The trafficking route is through Vientiane of Laos and the northeastern part of Thailand

Intelligence Results

- Most of Metamphetamine which seized in 2003 and 2004 were produced in 2002 (X2). They still have big amount of Yaba in the stockpile. The distribution and delivery are done through 2 main groups in Tachileck and Laos
- New production site in 2004 is X12 which produce good quality of Yaba

TRAFFICKING ROUTE



Significant Arrests (in Thailand)

1 st Dec. 21 2004 Yaba 496,000 tablets 2 Couriers (Thai males)	5 th Feb. 18 2004 Heroin 16 Kgs. 4 Couriers (3 Thais, 1 Burmese)
2 nd Jan. 18 2004 Yaba 720,000 tablets 2 Couriers (Burmese 1 male 1 female)	6 th Feb. 22 2004 Heroin 24 Kgs. Yaba 138,000 tablets 4 Couriers (Thai males)
3 rd Feb. 5 2004 Yaba 220,000 tablets 2 Couriers (Thai males)	7 th Apr. 12 2004 Heroin 14 Kgs. 1 Courier (Thai male)
4 th Feb. 15 2004 Heroin 8 Kgs. 3 Couriers (2 Taiwanese 1 Malaysian)	8 th June, 9-10 2004 Heroin 70 Kgs. at Nongkhui Prov., Bangkok

Next Step

- Thailand
 - ◆ ONCB join with Police Forensic Science Bureau and Department of Medical Science for analyzing purity, impurity and signature of seized drugs throughout the country
 - ◆ Enhance the analysis method to identify the source area of methamphetamine crystal (ice) and also original of ephedrine (precursor chemical)
 - ◆ Produce intelligence for supporting the investigation and drugs monitoring mechanism
- CLMV countries
 - ◆ They will have capabilities for analyzing purity and tool marks of seized drugs in their own countries then share relevant information with ONCB

Office of the Narcotics Control Board



Thank You

Chartchai Suthiklom

Deputy Secretary-General of Narcotics Control Board

Office :

Mobile:

E-mail :